

2022年度

授業科目要綱（シラバス）

理学療法学専攻

学校法人高知学園
高知リハビリテーション専門職大学

目 次(理学療法学専攻)

ページ	授業科目名	科目区分			
1	心理学	基礎科目	人間の探求		
2	教育学				
3	生命倫理		社会の探求		
4	コミュニケーション論				
5	社会学				
6	リーダーシップ論		探求の地域		
7	国際関係論				
8	地域課題研究Ⅰ		自然の探求		
9	地域課題研究Ⅱ				
10	生物学				
11	数学				
12	物理学				
13	統計学				
14	情報処理演習Ⅰ		探求の健康		
15	情報処理演習Ⅱ				
16	健康科学		外国語の探求		
17	健康とスポーツ				
18	英語Ⅰ				
19	英語Ⅱ				
20	英会話		職業専門科目	専門支持科目	基礎医学
21	中国語				
22	医学英語				
23	解剖学Ⅰ(総論・神経系)				
24	解剖学Ⅱ(内臓・脈管系)				
25	解剖学Ⅲ(骨格系)				
26	解剖学Ⅳ(筋系)				
27	生理学Ⅰ(動物性機能)				
28	生理学Ⅱ(植物性機能)				
29	運動生理学				
30	運動生理学実習				
31	基礎運動学				
32	運動機能学実習				
33	理学療法運動学演習				
34	作業療法運動学演習				
35	人間発達学				
36	医学概論				
37	病理学				

ページ	授業科目名	科目区分		
38	内科学	職業専門科目	専門支持科目	基礎医学
39	整形外科学			
40	臨床神経学			
41	精神医学			
42	小児科学			
43	リハビリテーション医学			
44	臨床心理学			
45	耳鼻咽喉科学			
46	形成外科学			
47	臨床歯科医学			
48	画像診断学			
49	臨床栄養学			
50	臨床薬理学			
51	救急管理実習			
52	リハビリテーション概論			
53	社会福祉概論			
54	地域包括ケア論			
55	チーム連携論		基礎理学療法学	
56	理学療法概論			
57	理学療法概論演習			
58	理学療法セミナー I (PBL)			
59	理学療法セミナー II (PBL)			
60	臨床運動学			
61	理学療法管理学			理学療法 管理学
62	理学療法管理実務			
63	理学療法評価学			理学療法評価学
64	理学療法測定実習 I			
65	理学療法測定実習 II			
66	理学療法検査実習 I			
67	理学療法検査実習 II			
68	電気診断学		理学療法治療学	
69	運動療法学			
70	運動療法学実習			
71	物理療法学			
72	物理療法学実習			
73	理学療法日常生活活動学			
74	理学療法日常生活活動学実習			
75	内部障害理学療法実習			
76	中枢神経障害理学療法実習			
77	脊髄障害理学療法実習			

ページ	授業科目名	科目区分		
78	運動器障害理学療法実習	職業専門科目	専門基幹科目（理学療法専攻）	理学療法治療学
79	発達障害理学療法実習			
80	老年期障害理学療法実習			
81	義肢装具学演習			
82	理学療法技術実習Ⅰ（運動関節学的手技）			
83	理学療法技術実習Ⅱ（神経筋促通手技）			
84	理学療法技術実習Ⅲ（生体観察手技）			
85	理学療法治療学実習Ⅰ（脳障害）			
86	理学療法治療学実習Ⅱ（ICU）			
87	理学療法治療学実習Ⅲ（スポーツ障害）			
88	理学療法治療学Ⅳ（障害者スポーツ）			
89	臨床理学療法技法演習（PBL）			
90	地域理学療法学			
91	地域理学療法学演習			
92	生活環境支援理学療法実習			
93	機能代償支援理学療法実習			
94	ヘルスプロモーション演習			
95	理学療法臨床実習Ⅰ		臨床実習法	
96	理学療法臨床実習Ⅱ			
97	理学療法臨床実習Ⅲ			
98	生涯スポーツ論	展開科目	理学療法展開科目群	
99	スポーツ心理学			
100	学校保健論			
101	産業保健論			
102	企業論			
103	データ分析論			
104	経営組織論			
105	マーケティング論			
106	会計学総論			
107	経営管理論			
108	起業論			
109	理学療法地域支援実習	総合科目	応用理学療法学	
110	応用理学療法学演習			
111	理学療法総合演習Ⅰ			
112	理学療法総合演習Ⅱ			
113	理学療法総合演習Ⅲ			

授 業 科 目 名	心理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	中野 良哉 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	心理学は、主としてヒトの意識とその表れとしての行動を考察する学問である。ここでは、概論として、動機づけ、認知、学習、性格、対人関係、発達などを広く扱う。それを通して、人間心理の理解を深める。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは何かということイメージすることができる 2. 心理学の基礎的事項について説明することができる。 3. 日常生活の行動を心理学的な視点から検討することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	心理学とは 心理学の歴史と研究方法	
	2	感覚	
	3	知覚	
	4	記憶(1)記憶の仕組み	
	5	記憶(2)短期記憶、長期記憶、潜在記憶	
	6	学習(1)レスポナント条件づけ	
	7	学習(2)オペラント条件づけ	
	8	動機づけ	
	9	言語・思考・知能(1)知能	
	10	言語・思考・知能(2)問題解決	
	11	パーソナリティ(1)パーソナリティ理論	
	12	パーソナリティ(2)特性論・状況論	
	13	社会心理(1)社会的認知	
	14	社会心理(2)集団行動	
15	心理的発達		
教 科 書	必要に応じて資料を配付する		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	配布資料を事前に読んでくること。 授業の内容を復習し理解を深めること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	適宜紹介する		
成 績 評 価 方 法	筆記試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	教育学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	谷岡 博志 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	よりよく生きることのできる人間を育成することが教育と定義される。リハビリテーションにおいて、対象者がよりよく生きることは最大の目標であり、専門職としてその基本的知識は重要となる。ストレス対処やコミュニケーションについて、教育学的知見から学修する。具体的には、専門職としての生涯教育、自己教育、対象者へ伝える、対象者を動かすなど、臨床の場で活用できる基本的知識を学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 現代社会における教育の意義や果たす役割について考察するとともに、保健医療の専門職としての目的意識やコミュニケーション力等の基礎的能力を身に付ける。 2. 各授業回のテーマに沿った「調べる・まとめる・表現する」等の学習活動をとおして、生涯にわたり主体的に学び続ける資質や態度を身に付ける。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	教育学へのアプローチ：教育をどうとらえるか	
	2	教育とは何か①：人間の発達と教育	
	3	教育とは何か②：教育の歴史と思想	
	4	教育とは何か③：学校と社会との関係	
	5	大学生の教育環境：学校接続を考える	
	6	教育の内容と方法①：教育評価と学力問題	
	7	教育の内容と方法②：人権と教育	
	8	教育の内容と方法③：教育相談とカウンセリングマインド	
	9	教育の内容と方法④：進路指導とキャリア教育	
	10	教師の仕事と教職論：専門職化を考える	
	11	教育の現代的課題①：いじめと児童虐待	
	12	教育の現代的課題②：障害児教育とインクルーシブ教育	
	13	教育の現代的課題③：性の多様性とジェンダー	
	14	教育の現代的課題④：多文化教育とシティズンシップ	
15	まとめと振り返り：これからの教育と教育学		
教 科 書	木村 元・小玉重夫・船橋一男 著『教育学をつかむ 改訂版』(有斐閣) 上記のテキストに加えて、各授業回の学習課題に関するワークシートを配付する。		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、テキストや配付資料により授業内容を確認し、専門用語等を調べておくこと。復習は、授業ノートやワークシート等を参照して要点をまとめておくこと。		
履 修 の 条 件	リハビリテーションの各領域で専門職として求められる主体性や協調性を身に付けるため、学習活動にペアワーク、グループ発表などアクティブ・ラーニングの形態を取り入れる。そのため、授業への積極的な参加を期待する。		
参 考 文 献	岡田昭人 編著『教育学入門 30のテーマで学ぶ』(ミネルヴァ書房) 植上一希・寺崎里水 編著『わかる・役立つ教育学入門』(大月書店) 他		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、課題レポート (20%)、小テスト・ワークシート (10%)、授業への参加及び授業中の活動状況 (10%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	生命倫理	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	竹崎 久美子 (兼任)・渡邊 聡子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	現代には人間の生命をめぐる多くの倫理的課題が生じている。これまで人の誕生と死は、自然の営みの一環として普遍的なものと考えられてきた。しかし、科学技術と医療技術の進歩とともにその様相は変化しており、医療や福祉に関わる専門職は、生と死を巡るイメージや倫理について改めて考え直す必要性に直面している。人間を対象とする研究や実務において、対象とする人間の尊厳を守り医療に携わる者としての基本的責務等を理解して、倫理観を身に着けることを目的とする。		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理的課題について考える拠り所を見つけることができる。 ・ 倫理的課題について当事者の立場にたって、思い、考え、感じるすることができる。 ・ 専門職者としての倫理観を持つことができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	倫理とは 基礎理論および概念 (渡邊)	
	2	倫理の原則 医療倫理 臨床倫理 職業倫理 (渡邊)	
	3	医療現場の倫理的課題：生殖に関する倫理的課題 (渡邊)	
	4	医療現場の倫理的課題：子どもを取り巻く倫理的課題 (渡邊)	
	5	医療現場の倫理的課題：臓器移植 終末期医療 (竹崎)	
	6	医療現場の倫理的課題：様々な個性を持つ人の尊厳 (竹崎)	
	7	医療現場の倫理的課題：専門職としてのジレンマ (竹崎)	
	8	倫理的課題の解決方法：意思決定モデル (渡邊)	
	9	倫理的課題の解決方法：事例演習 (渡邊)	
	10	倫理的課題の解決方法：事例演習 (渡邊)	
	11	専門職の責務と倫理：人材育成 (竹崎)	
	12	専門職の責務と倫理：連携・協働 (竹崎)	
	13	専門職の責務と倫理：専門性の探求 (竹崎)	
	14	専門職の責務と倫理：研究協力者の権利擁護 (竹崎)	
15	組織と制度と倫理 (竹崎)		
教 科 書	配付資料		
事前事後の予習復習	授業後に配布資料を読み、復習する。		
履 修 の 条 件	授業中に発言を求めたり、学生間での議論を行ったりするので、積極的な参加が求められる。		
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	レポート課題、授業の参加度、リアクションペーパーを総合的に評価する		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	コミュニケーション論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期・後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	石川 裕治		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	家庭、学校、医療や福祉施設等の現場を含む地域社会において、日常的・非日常的に接触する人々と気持ちよく言語的・非言語的なコミュニケーションを通して、お互いに分かり合ったり思いやりをかけ合ったりして生活することが重要である。そのためには、自分の考えや意見を素直に表現してより良い人間関係を結ぶことのできる社会的なスキルであるコミュニケーション能力を習得する必要がある。対象とする人々を一人の人間として心から大切にし、誠心誠意を持って対応することで、信頼関係を築く基礎を学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの重要性を理解する 2. コミュニケーション手段について理解する 3. コミュニケーション障害について理解する 4. コミュニケーション場면을体験する 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション ・授業の目標と進め方、シラバス説明 等	
	2	コミュニケーションにおける現状と課題	
	3	コミュニケーションの重要性	
	4	コミュニケーション実践①（自己紹介）	
	5	コミュニケーションの種類	
	6	言語的コミュニケーション（音声言語）	
	7	言語的コミュニケーション（文字言語）	
	8	コミュニケーション障害の種類	
	9	コミュニケーション障害の理解（失語症を中心に）	
	10	非言語的コミュニケーション（表情）	
	11	非言語的コミュニケーション（ジェスチャー）	
	12	非言語的コミュニケーション（描画）	
	13	プレゼンテーションの仕方	
	14	コミュニケーション実践②（プレゼンテーション）	
15	コミュニケーション実践②（プレゼンテーション）		
教 科 書	必要に応じ資料等を配布する。		
事前事後の予習復習	事前に配布された講義資料を読んでおく。講義内容を復習する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	内山靖・他 『コミュニケーション論・多職種連携論』 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	筆記試験（50％）、プレゼンテーション（50％）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	社会学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	玉里 恵美子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会学とは、人と人が関わり合うことで形作られ変化していく社会現象を読み解こうとする学問である。具体的には、家族といったミクロ的枠組みから、会社、地域、国家などのマクロ的枠組みまでを、その変遷や課題について学ぶ。また、高知県や市町村の抱える過疎問題や高齢者福祉、地域福祉の問題について理解を深める。限界集落、集落再生、住民参加の町づくりなど、地域社会の実情を踏まえて、高齢者・障害者の社会参加への糸口を学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会に関する概念を理解することができる。 2. 家族に関する概念を理解することができる。 3. 集団や組織についての概念を理解することができる。 4. 高知県の抱える地域課題について理解し、住民の社会参加について考察することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション/社会学とは何か	
	2	現代社会と人口動態	
	3	伝統的な地域社会	
	4	伝統的な家族	
	5	現代の地域社会と課題	
	6	現代の家族と課題	
	7	生活のとらえ方	
	8	社会的役割と社会的ジレンマ	
	9	社会的排除と社会的孤立	
	10	高知県の地域特性と課題	
	11	限界集落と集落再生	
	12	高齢者福祉と地域福祉	
	13	住民参加の町づくり	
	14	高齢者・障害者の社会参加	
15	本授業で学んだ理論や概念について理解を深め定着させる		
教 科 書	山西裕美・玉里恵美子編著『社会学と社会システム』学文社。 配布資料はファイルして持参すること。		
事前事後の予習復習	毎回、A4で1枚程度の課題を出す。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	授業時に紹介する		
成 績 評 価 方 法	小テスト1回(10%)、期末試験 (90%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	リーダーシップ論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	山本 双一（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>リーダーおよびリーダーシップは、会社組織だけでなく、友人の集まり、家族など様々な場面でみられる。リーダーシップとは、ある特定の人物が、所属する組織や集団の目標達成に向けメンバーたちに影響を及ぼす力をいう。ただし、リーダーシップを発揮できるかどうかは、組織における他のメンバーがその人物をリーダーとして認めているかに依存している。</p> <p>本授業は、リーダーシップに関する様々な知識やリーダーシップを実践する上での知見を学ぶ。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<p>医療のなかの医学リハビリテーションにおけるチームとは何か、そのリーダーはどのような役割を背負うか。また将来、自身がチームリーダーになったとき、チームメンバーをどのように導くのか。チームリーダーとして必要な知識を学んだうえで、自己でシミュレーションしてみる機会とする。</p>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	チームとは、リーダーとは、チーム医療とは、を定義する。	
	2	臨床や臨地における様々なチームを列举してみる。	
	3	チーム(メンバー)に必要な、身分と役割についての「法」を理解する。	
	4	医療にあつての、組織とチーム、それらの歴史を知る。	
	5	チームメンバーの人格向上と、ハラスメント(いじめ)を考える。	
	6	専門職業人としての、研鑽と学習の機会を知る。	
	7	リーダーシップ論から、チームリーダーの人格と技量を学ぶ。	
	8	チームメンバー間での心遣いと、チームの守り立てを考える。	
教 科 書	菅原勇基：社会人1年目の教科書。クロスメディア・パブリッシング		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	自己の考えと意識を確認してまとめる。		
履 修 の 条 件	4年次生で、臨床実習履修修了学生。		
参 考 文 献	必要に応じてプリント配布。		
成 績 評 価 方 法	レポート提出。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業前後の時間帯。		

授 業 科 目 名	国際関係論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	先川 信一郎 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	世界政治のさまざまな要素について、叙述や、説明、理解、あるいは予測することなどを目的としている。国際関係の主要な出来事と学説について講義し、基礎的な事項を理解してもらうことを目指す。現在の国際政治の仕組み（そのあらましと形成過程）、国際関係論の理論などの学説の理解、国際関係論の知見を用いて、現実世界の諸問題を分析できるようになることを到達目標とする。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本を軸に世界の主要ニュースを理解することができる。 2. メディア・リテラシーのスキルを磨き、情報を分析・評価することができる。 3. 人権・平和、民主主義の観点から国際関係を理解することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	世界情勢と地政学の考え方	
	2	北朝鮮と国際社会の現状と課題	
	3	日本外交と国境問題について	
	4	アメリカ外交と歴史的な視点	
	5	アメリカ外交と安全保障	
	6	中国の近現代史と中国共産党	
	7	中国の習近平体制、三期目への課題	
	8	ロシアとユーラシアの歴史	
	9	ロシアのプーチン体制の野望	
	10	EUの誕生、その深化と拡大	
	11	NATOと東方拡大とウクライナ戦争	
	12	イスラム教の歴史的な視座	
	13	イスラム圏の苦悩	
	14	アフリカの展望とパワーゲーム	
15	宗教と民族、難民問題と各国事情		
教 科 書	特になし		
専 前 専 後 の 予 習 復 習	予習は、新聞やテレビ、ネットで報道される主要な国際ニュースや社説、コラムを読んで概要を理解しておく。復習は、講義の配布資料を参照し、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	池上彰『知らないで恥をかく世界の大問題』1～13 角川新書 小泉悠『現代ロシアの軍事戦略』ちくま新書 ハワード・ジン『学校では教えてくれない本当のアメリカの歴史』あすなろ書房 姜尚中『興亡の世界史 18 大日本・満州帝国の遺産』講談社 このほかの参考文献は、講義の中で提示します。		
成 績 評 価 方 法	最終レポート 80%、毎回の講義のショートコメント 20%。 最終レポート（3000字程度、手書き）のテーマの選び方や書き方については、講義の中で説明します。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	チャットやメールで質問や相談を受け付けます。		

授 業 科 目 名	地域課題研究 I	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	片山 訓博、重島 晃史		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	研究の意義や目的を理解し、テーマの選択、調査研究の手順、文献検索、統計学を用いた分析方法、調査を実施するにあたっての倫理的配慮、量的研究や質的研究の手法、論文の構成や注意点、プレゼンテーションの方法についての基礎知識を学修する。本科目は「地域課題研究Ⅱ」に連動する科目でもあり、調査研究の基礎的手法や考え方の修得を目指すものである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの選択の仕方について説明できる。 2. 研究の手法やデザインについて説明できる。 3. 倫理的配慮について研究実施者が注意すべきことを説明できる。 4. 必要な文献の検索手順が選択できる。 5. 目的に応じた統計解析を選択できる。 6. 論文の構成や注意点について説明できる。 7. プレゼンテーションの方法について説明できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業のオリエンテーション、テーマの選択と決定 (PICO、PEMO)	
	2	文献検索	
	3	研究のデザイン① (量的研究および質的研究、コホート研究、症例対照研究など)	
	4	研究のデザイン② (介入研究、診断研究、システマティックレビュー、質問紙法など)	
	5	研究計画書、研究ノート・記録	
	6	倫理的配慮	
	7	データ処理と統計解析	
8	論文作成・学会発表		
教 科 書	川村孝『臨床研究の教科書』医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	必要に応じて授業終了時に次回講義に関する予習内容を提示する。復習では授業で実施した課題を再度振り返り実施する。		
履 修 の 条 件	特記事項なし		
参 考 文 献	内山靖、他・編『理学療法研究法第3版』医学書院、鎌倉雅彦、他・編著『質問紙法』北大路書房、木原雅子、他・訳『医学的研究のデザイン第4版』メディカル・サイエンス・インターナショナル		
成 績 評 価 方 法	授業態度 (10%)、課題 (20%)、定期試験 (70%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授業科目名	地域課題研究Ⅱ	授業形態	演習
単位数	1	回数	23回
履修年次	3年通年	必修・選択	必修
科目担当者	大倉 三洋・山崎 裕司・辻 博明・田頭 勝之・宮川 哲夫・武内 和弘・柳澤 健・濱田 和範・片山 訓博・重島 晃史・稲岡 忠勝・明崎 禎輝・石川 裕治・稲田 勤・足立 一・辻 美和・清岡 学・宮崎 登美子・吉村 知佐子・光内 梨佐・平松 真奈美・大塚 貴英・篠田 かおり・石元 美知子・有光 一樹・柏 智之		
授業の概要・目的	地域社会が抱える様々な課題の現状について、調査やフィールドワーク等を通して知り、可能であればその解決のための方策までを考える。各グループでの地域課題（テーマ）の設定、インターネットや資料等による対象となる地域の概要調査、地域での実地調査や関係者からの聞き取り調査、それらに基づく地域課題の分析と結果のまとめ、レポート作成を含む発表準備、プレゼンテーションなどを行う。これらの学修を通して地域の特徴を踏まえ、課題や魅力を発見できるような基本的な知識・技能を身につけ、それら全体を整理して説明することができる能力を養う。		
授業の到達目標	<p>地域課題研究Ⅱは、専攻を越えた学生がグループを組み、地域の課題を見つけ出し、社会で活躍するために必要な「課題解決力」を養う実践型の授業である。学生はあらかじめ設定したテーマについてグループに分かれ、地域における様々な課題を調べたり、それを解決するための方法を立案・実施・評価するために必要な知識・技術・態度を学。これらの研究活動を通して以下の能力を身につけることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者の話を聞き正しく理解できる 2. 専門的な文書を読み内容を正確に読み取ることができる 3. 自分の考えを他者に説明し、内容の主旨を的確に伝えることができる 4. 他者や自分の意見や考えを論理的にまとめることができる 5. 課題やレポート作成を効率的かつ計画的に行うことができる 6. 他者のグループの報告を聞き、その内容を評価し、問題点を指摘できる 7. 関係者と良好な人間関係を築き、対人交流ができる 8. 課題設定からまとめ、発表までの研究過程を互いに協力し実行できる 		
授業計画	回	内容	
	1	オリエンテーション（地域課題研究の理解）	
	2	課題テーマ・調査対象を考える	
	3	課題テーマ・調査対象を考える	
	4	課題テーマ・調査研究計画・手法の検討	
	5	課題調査研究活動	
	6	課題調査研究活動	
	7	課題調査研究活動	
	8	課題調査研究活動	
	9	課題調査研究活動	
	10	課題調査研究活動	
	11	課題調査研究活動	
	12	課題調査研究活動	
	13	課題調査研究活動	
	14	課題調査研究活動	
	15	調査研究資料の集計・分析	
	16	調査研究資料の集計・分析	
	17	調査研究資料の集計・分析	
	18	研究発表内容の作成・準備	
	19	研究発表内容の作成・準備	
	20	研究発表内容の作成・準備	
	21	研究発表内容の作成・準備	
	22	研究発表内容の作成・準備	
23	研究成果発表		
教科書	授業資料は各教員が適宜配布する		
事前事後の予習復習	特になし		
履修の条件	地域における調査研究に適した服装・髪型などに配慮すること		
参考文献	特になし		
成績評価方法	活動参加態度（40%）、研究成果発表（30%）、レポート（30%）		
オフィスアワー	授業1回目のガイダンスで説明する		

授 業 科 目 名	生物学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	岡林 正幸 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人間の身体の構造と機構を学修するにあたり、医療職に必要な高度の生物学的知識をより理解することが必要となる。生物の生命現象について、細胞レベルから、刺激と反応、および動物の行動についての仕組みまでを学修する。具体的には、細胞の構成と働き、膜電位、興奮と伝導、反射、本能的行動、細胞死などを学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命活動を細胞レベルより理解することができる。 2. 人間の恒常性の維持にはホルモンや神経系が関与していることを理解することができる。 3. 病気や障害について遺伝的要素が関与していることを理解することができる。 4. 人間には様々な免疫が働いていることを理解することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	生きているということはどういうことか	
	2	細胞のつくりと細胞説	
	3	細胞分裂	
	4	細胞や人体の化学成分	
	5	細胞および細胞膜のはたらきと膜電位	
	6	細胞の興奮	
	7	神経および神経細胞の特徴	
	8	脳のはたらきと興奮の伝達	
	9	エネルギーと代謝	
	10	内分泌と恒常性の維持	
	11	タンパク質の構造と特徴	
	12	遺伝子情報の構造と機能	
	13	遺伝子と突然変異	
	14	免疫について	
	15	細胞の死・個体の死とは何か	
教 科 書	生物学入門(東京化学同人)		
事前事後の予習復習	高校で多くの学生さんは「生物基礎」を学んでいると思います。もう一度、生物基礎を見直しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	やりなおし生物・化学(照林社)・生物のスーパー基礎(文英堂)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 80%、レポートおよび授業態度 20%。 講義中の私語及びスマートフォン等の使用は厳禁します。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	数学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	三吉 史高 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会人として必要な数学の基礎的素養、および、数学の活用力を身につけることを基本とする。		
授 業 の 到 達 目 標	① 数や演算に関する基礎事項を理解し、必要な計算ができるようにする。 ② 「統計学」、「物理学」や専門科目を理解するための数学の基本を理解し、計算ができるようにする。 ③社会人として必要な論理的思考力・判断力を身につける。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	計算法則 (四則計算、無理数、文字式)	
	2	方程式 (1次方程式、2次方程式、連立方程式)	
	3	関数とグラフ (1次・2次関数)	
	4	不等式 (1次不等式、2次不等式)	
	5	比例、割合の計算	
	6	確率 (順列、組合せ、条件付確率)	
	7	図形 (三平方の定理)	
	8	図形 (三角比)	
教 科 書	大学生のための数学・理科基礎計算ドリル (樋口勝一著、晃洋出版)		
事前事後の予習復習	配布資料について計算練習等の復習しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	試験 70%、平常点 30% (授業への参加姿勢、問題演習、レポート)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	物理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	岡林 正幸 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	リハビリテーション技術の習得のためには、物理学的な物の見方や考え方が専門科目への基礎となる。この科目では、物体の運動と力学、電磁波の性質、電気、音と光の振動の性質などについてその原理や法則、基本的な用語に関して学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歩行時における重心移動の基礎を理解することができる。 2. 各種リハビリにおいて、負担のない動作を理解することができる。 3. 今後、各種のリハビリに関する補助的な器具や機器についての知識の基礎を理解することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	物理の基礎・単位	
	2	速さと速度・力の合成と分解	
	3	仕事(熱を含む)と力学的エネルギー	
	4	力のつりあい、てこの原理と滑車	
	5	電気と電磁波	
	6	音と光の振動の性質	
	7	運動の法則と慣性	
8	圧力(大気圧を含む)・水圧		
教 科 書	看護に必要なやりなおし数学・物理	時政 孝行著	照林社
事 前 事 後 の 予 習 復 習	高校までに学んだ理科に関する単位を確認しておくこと。 単位には様々な意味があります。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	橋元の物理をはじめからていねいに(東進ブックス) 物理一問一答(東進ブックス)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 80%。レポート・授業態度等 20%。 私語やスマートフォン(携帯・ゲーム機等)の使用は厳禁とします。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	統計学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15 回
履 修 年 次	1 年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	藤原 憲一郎 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	統計学の基本的な考え方と統計分析の基本的な手法を学ぶ。統計分析するために必要なデータの分布に関する知識を整理し、データが属しているグループの特性の推定、および、2つのグループ間の差を調べる検定について学修する。さらに、多変量解析の考え方を学び、多変量解析の中でも一般的な多変量回帰分析について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計の基礎を学び、統計分析に必要な確率分布について理解する。 2. 母集団の推定や2つのグループの検定に用いられる統計量を理解する。 3. 標本のデータから Excel 関数を用い、統計量を求めることができる。 4. 統計量を用い、母集団の特性の推定や2つのグループの差を検定できる。 5. 多変量分析の概要を理解し、Excel の分析ツールを用い回帰分析ができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	講義の進め方、評価法を説明し、統計で用いられる基本用語と図を学ぶ	
	2	順列、組み合わせ、確率、確率分布について学ぶ	
	3	統計量と計算式、統計量を求める Excel 関数について学ぶ	
	4	母集団の正常範囲の推定、母集団の平均値の区間推定について学ぶ	
	5	検定と生ずる過誤、母平均と標本平均の検定について学ぶ	
	6	対応のある・対応のない2つの標本平均の検定について学ぶ	
	7	演習により母集団の推定、母集団の平均値の検定について理解を深める	
	8	母比率の範囲の推定、母比率と標本比率の検定について学ぶ	
	9	対応のない2つの標本比率の検定 (正規分布、2×2分割表) を学ぶ	
	10	フィッシャーの直接確率計算、対応のある2つの標本比率の検定を学ぶ	
	11	演習により比率の推定と検定について理解を深める	
	12	2変量の相関、相関係数の検定と推定について学ぶ	
	13	多変量分析の概要と単回帰分析、重回帰分析について学ぶ	
	14	演習により比率の推定、検定、単・重回帰分析の手法について学ぶ	
15	総合的な演習問題に取り組み、学んだ事項を整理し理解する		
教 科 書	正井・片山著『医学・保健学のためのやさしい統計学 (改訂第3版)』 金原出版 配布資料 (教科書、参考文献1を参考に編集)		
事前事後の予習復習	予習では、シラバスを参照し、教科書、資料を読み講義概要を理解しておく。 復習では、教科書、資料を参照し課題を解くことにより、講義内容を理解する。		
履 修 の 条 件	統計量、推定、検定に必要な数値は Excel で求めるので、Excel の基本操作を理解していることが望ましい。		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 杉田 暉道、朽久保 修 共著『統計学入門』 医学書院 2. 柳井 久江著『4 Step エクセル統計第4版』 オーエム出版 		
成 績 評 価 方 法	課題30%、定期試験70%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義時にメールアドレスをアナウンスし、可能な場合はメール対応とする。面談が必要な場合は、打ち合わせにより日時を設定する。		

授 業 科 目 名	情報処理演習 I	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	1 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	竹島 卓、高地 正音		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>情報化社会において、コンピュータの知識と操作技術の修得は、医療の現場でも必須となっている。本授業では、コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、情報機器を利用したコミュニケーションのとり方の幅を広げる。また、レポートやドキュメントの作成方法、情報の整理方法、情報検索方法等について学修する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データ管理や学修活動に必要な情報機器の利用ができる。 2. レポートやドキュメントの作成ができる。 3. 情報の共有と取り扱いについて理解する。 4. 収集した情報を科学的に理解する。 5. 情報検索の方法を知り、学修・研究活動に活用できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	データの管理、個人情報と管理、周辺機器の利用について	
	2	互換性とデータの拡張子について学ぶ	
	3	情報リテラシー（情報活用能力）	
	4	レポートの作成と手順 1	
	5	レポートの作成と手順 2（効果的な情報の表現技法）	
	6	グループでのレポートの作成と手順 1（ファイルの共有）	
	7	グループでのレポートの作成と手順 2（再利用）	
	8	グループでのレポートの作成と手順 3（効果的な情報の表現技法）	
	9	アンケート作成 演習	
	10	アンケート調査と集計 演習	
	11	アンケート処理と集計 演習	
	12	アンケート評価と表現 演習	
	13	文献検索システムの利用 1	
	14	文献検索システムの利用 2	
15	総合的演習		
教 科 書	noa 出版「学生のための Office スキル活用&情報モラル」		
事前事後の予習復習	予習は事前に配布する資料に従って授業前に調査しておく。復習は当日の授業で学修した内容に基づいて指定された課題を実施し指定期日までに提出する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	noa 出版著作/制作「これだけは知っておこう!情報リテラシー」 noa 出版 2015		
成 績 評 価 方 法	課題 60%、小テスト 40%の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	情報処理演習Ⅱ	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	竹島 卓、高地 正音		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>情報化社会において、コンピュータの知識と操作技術の修得は、医療の現場でも必須となっている。本授業では、コンピュータによる情報処理の仕組みを理解し、データ処理の基本と数値データ分析の基本的な方法を学ぶ。また、情報の適切な取り扱い方法を理解し、プレゼンテーションによる情報発信など、基礎知識を学ぶとともに、臨床や研究活動に活用できるよう学修する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データ処理の基本と数値データ分析法を理解する。 2. データをグラフ化することでデータの特徴を効果的に可視化した資料を作成することができる。 3. 統計ソフトやさまざまな分析方法を用いた分析方法を実践的に理解する。 4. 各メディアの基本的な特性を理解した上で、その活用技術と効果的な情報の表現手法を身につける。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	集計と分析 1(関数の理解)	
	2	集計と分析 2(関数の理解)	
	3	集計と分析 3(関数の理解と組み合わせ)	
	4	グラフの作成 (分析 目的別表現)	
	5	集計と分析 (アンケート調査と集計)	
	6	データの分析	
	7	データの解析 (ピボットテーブルとクロス集計)	
	8	基本統計量とヒストグラム	
	9	正規母集団 正規性の検定	
	10	二群の差の検定 (t 検定)	
	11	プレゼンテーション能力の必要性 (種類・方法)	
	12	情報の収集	
	13	情報の収集と発信	
	14	マルチメディア作品の表現と評価 1	
15	マルチメディア作品の表現と評価 2		
教 科 書	noa 出版「学生のための Office スキル活用&情報モラル」		
事前事後の予習復習	予習は事前に配布する資料に従って授業前に調査しておく。復習は当日の授業で学修した内容に基づいて指定された課題を実施し指定期日までに提出する。		
履 修 の 条 件	情報処理演習Ⅰを修得していることが望ましい。		
参 考 文 献	noa 出版著作/制作「これだけは知っておこう!情報リテラシー」 noa 出版 2015		
成 績 評 価 方 法	課題 60%、小テスト 40%の結果を総合して評価する。		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	健康科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 博明		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	近年、生活水準の向上、余暇時間の増加に伴い健康づくり、体力づくりに対する社会的関心は大きな高まりをみせている。このような状況下でリハビリテーションの領域も治療から予防へと拡大してきており、地域住民の健康管理、健康指導に関わる機会も多くなってきている。健康の維持増進のためには運動・栄養・休養の三要素をバランスよく保つことが重要であるとされている。主に健康と運動についての理解を深めるとともに、体力測定を通して、健康や体力の知識を学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における健康問題と現代日本の健康施策について説明できる。 2. 心身の調和が健康に重要であることを説明できる。 3. 適切な栄養・食事の摂取が実践できる。 4. 健康づくりのために必要な運動について説明できる。 5. ストレスに対する知識と対処法を修得する。 6. 健康を維持増進するためのスキルを修得し、実践できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	健康とは何か、QOL と健康、現代の健康問題、健康ブームとその背景	
	2	心の健康とは、心の健康の測定と評価、現代日本の健康施策	
	3	形態の意味、脂肪蓄積のメカニズムとその影響、適切な栄養・食事摂取	
	4	ストレス論、心身一如とボディーワーク、障害とは何か	
	5	健康づくりのための運動、運動強度と心臓血管系の応答、脈拍数と運動強度、有酸素性運動がもたらす効果	
	6	レクリエーション活動の恩恵、社会的健康と運動・スポーツ	
	7	体力とトレーニング、救急処置法、アダプテッド・スポーツ	
	8	健康・スポーツとライフスキル、ストレス対処、目標設定	
教 科 書	九州大学健康スポーツ科学研究会 編 『実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学 改訂版』 大修館書店		
事前事後の予習復習	予習は教科書の授業予定範囲から要点を抜き出し、ノートに箇条書きにする。 復習は授業で配布した資料と学んだことを確認しながらノートを整理する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	必要に応じてプリントを配布する		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (80%)、レポート (20%) の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	健康とスポーツ	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年前・後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員 名	神家 一成（兼任）、矢野 宏光（兼任）、甲藤 彰男（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	全人的な人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識と、筋・心肺機能についての特性を理解し、それぞれの機能の維持や向上を図るための基本的な知識を身につけ、各種のスポーツ実技を行う。加えてチームスポーツを通してコミュニケーション能力も養う。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 活動を通してスポーツの楽しさを知り、スポーツを通して交流を深めることができる。 2. 身体活動の重要性、スポーツの楽しさ、人間関係構築の大切さを考えることができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	健康とスポーツについて	
	2	スポーツの種類とルール説明	
	3	スポーツ実践①	
	4	スポーツ実践②	
	5	スポーツ実践③	
	6	スポーツ実践④	
	7	スポーツ実践⑤	
	8	スポーツ実践⑥	
	9	スポーツ実践⑦	
	10	スポーツ実践⑧	
	11	スポーツ実践⑨	
	12	スポーツ実践⑩	
	13	スポーツ実践⑪	
	14	スポーツ実践⑫	
15	スポーツ実践⑬		
教 科 書	参考資料を適宜配布		
事前事後の予習復習	特になし		
履 修 の 条 件	運動実技に適した服装を準備すること		
参 考 文 献	『ニュースポーツ百科』 大修館書店		
成 績 評 価 方 法	活動参加態度（70%）、レポート（30%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	英語 I	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15 回
履 修 年 次	1 年前・後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員 名	玉井 健		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	異文化や、多様な価値観を理解する上で、重要なコミュニケーションの道具としての「英語」に慣れ親しみ、主体的、積極的に英語の学習に取り組み、広く世界を知る喜びを得ることを目標とする。高校までで修得した基礎英語を踏まえ、基本的な英文を読む能力と書く能力を学修する。英文読解能力を高めることで、英語文献を理解する基礎をつくる。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の英語力をふり返り問題点を考える。 2. 英文の構成を考え、内容について批判的に理解する。 3. 内容について自分の考えや思いを英語で表現する。 4. 内容について自分の考えや思いを英語で共有する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス 英語学習の振り返りと自己分析	
	2	リーディング:University education I(大学生活 I)	
	3	リーディング University education II (大学生活 II)	
	4	プレゼンテーション (準備) 発音練習	
	5	プレゼンテーション (本番)	
	6	リーディング : Human right I : Martin Luther King Jr. (人権 : M. L. キング)	
	7	リーディング : Human right II : Malcolm X-1 (人権 : マルコム X1)	
	8	リーディング : Human right III : Malcolm X-2 (人権 : マルコム X2)	
	9	リーディング : Human right IV : Jim Crow Law-1 (人権 : ジム・クロウ法 1)	
	10	リーディング : Human right IV : Jim Crow Law-II (人権 : ジム・クロウ法 2)	
	11	リーディング : Human right V : Synthesis (人権 : まとめ)	
	12	映画「グレート ディベーター」	
	13	ライティング I : Writing I 構想	
	14	ライティング II : Writing II 書直し、編集	
15	ライティング III : Writing III 発表		
教 科 書	教材プリント及びワークシートを配布する。		
事前事後の予習復習	教材とワークシートは事前に配布する。読解教材は事前に読んで意味を取り、ワークシートの問題について考え準備してくる。授業の初めに課題内容について小テストを行う。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	マルコム X 著 浜本武雄 訳 『完訳マルコム X 自伝』 (上・下) 中公文庫 上坂昇 『キング牧師とマルコム X』 講談社現代新書 ジェームス・M. バーダマン 著 水谷八也 翻訳 『黒人差別とアメリカ公民権運動 一名もなき人々の戦いの記録』 集英社新書 The Great Debaters (DVD) by Denzel Washington		
成 績 評 価 方 法	小テスト(30%)、プレゼンテーション(20%)、作文(10%)、 定期試験(40%)		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	英語Ⅱ	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	玉井 健		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	近年医療現場においては、外国人が対象となる機会が増えている。医療職として英語による情報を正確かつ効果的に入手し、理解し、英語の文章で自分の考えや事実が表現できるように基礎的な力を養って行く。特に、英語の音声を聞き取ったり、情報内容が正確につかめるようリスニングについても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の現場で使用される英語情報の基礎的理解を深める。 2. 医療現場において経験する可能性のある基礎的英語コミュニケーション力を涵養する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	身体を表す言葉と薬の名前の学習・発音の基礎	
	2	病気と医療科目名・発音の基礎	
	3	風邪と一般的な症状の表現・コミュニケーション練習	
	4	おなかの病気に関わる表現・コミュニケーション練習	
	5	痛みを伴う病気や歯痛に関わる表現・コミュニケーション練習	
	6	けがの表現・コミュニケーション練習	
	7	診察とお見舞いに必要な表現・コミュニケーション練習	
	8	歯医者と患者との会話・コミュニケーション練習	
教 科 書	『病気になっても困らない英会話』尾崎哲夫著 南雲堂 他に必要な教材はプリントとして配布する。		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	小テスト形式で復習を行う。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	プレゼンテーション・小テスト (40%)、定期テスト (60%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	英会話	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年 前・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	シヨーン バーゴイン (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	国際化が進む我が国において、多くの外国人が仕事や観光などで滞在するようになり、外国人との交流が日常になってきている。相手の考えを正確に理解できること、英語による会話で伝えたいことを正確に表現し、自分の考えを正確に相手に伝えられることを目標とする。日常生活において、幅広く外国人と交流できるように、英単語の理解、語彙力、外国の文化や社会の理解などを学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	Students will be able to use follow up questions (関連する質問) Students will be able to respond in English (あいづち) Students will be able to ask questions back (聞き返し)		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	Course orientation and conversation techniques	
	2	Conversation and activities about sports	
	3	Conversation and activities about food	
	4	Listening activities using ELLLO website	
	5	Conversation and activities about travel	
	6	Listening activities using ELLLO website	
	7	Preparation for assignment	
	8	Perform assignment	
教 科 書	All materials will be provided by the teacher		
事前事後の予習復習	Students will need to have completed high school English and show good communication skills.		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	All materials will be supplied by the teacher		
成 績 評 価 方 法	授業態度 30%, 課題 70%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	After class		

授 業 科 目 名	中国語	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年次前・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	前田 正也 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>隣国である中国とは、経済・文化・人事交流など、アジア圏の中でも交流の盛んな状況にある。中国語の初級文型を学び、実際にコミュニケーションができるよう、聞く、話す、書く、読むという四技能をロールプレイを通して効率的に学修する。具体的には、中国の音と文字に触れ、中国語式和訳や日常会話、音読、文法本文音読など、基礎的な発音、文法の習得を踏まえて、聞く、話す練習を繰り返し学修する。</p> <p>外国語学習の基本である4技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）バランスよく学び、簡単な中国語を理解し、話せるようにする。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語と日本語の違いを理解することができる。 2. 簡単な中国語の読み書きができる。 3. 日常挨拶と簡単な中国語を話すことができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	中国語の語彙と文法1	
	2	中国語の語彙と文法2	
	3	第1課～第3課（人称・指示代名詞、疑問詞疑問文、副詞、所有）	
	4	第4課～第6課（量詞、形容詞、数字、日時、完了、助動詞、所在、幾つ）	
	5	第7課～第9課（前置詞、時間量、反復疑問、）	
	6	第10課～第12課（動作の態様、進行形、選択疑問、二重目的）	
	7	復習、絵教材を使用した会話1	
8	復習、絵教材を使用した会話2		
教 科 書	《新版2訂版》 中国語はじめの一步 白水社		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめ暗記する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	定期試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	医学英語	授 業 形 態	講義
単 位 数	1 単位	回 数	8 回
履 修 年 次	2 年前期・後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	上羽 由香 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医学英語の理解とその必要性は昨今のグローバル社会では通訳者、翻訳者だけではなく、幅広い分野で必要とされつつあり、とくに医療従事者の基礎知識として必要とされるものへと変化してきている。医学誌・ウェブサイトでの情報収集、論文の執筆、国際学会での発表などにおいて不可欠である医学英語について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は英語を学ぶ必要性を考え、医学英語学習の理解を深める。 2. 学生は医療に関連する語彙を構築し、その学習方法を習得する。 3. 医学論文の検索方法など、専門職が必要とする情報収集の方法を習得する。 4. 医学論文の成り立ち、構成を学ぶことで、基礎的な読解力を身につける。 5. 学会発表やその後の討議、交流の場でのコミュニケーションに親しむ。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	医療従事者が医学英語を学ぶ必要性とその学習法について	
	2	語彙構築①～医療英単語の構成について～	
	3	語彙構築②～医療分野・部位別～	
	4	医学論文検索とその方法について	
	5	医学論文の構成とその読解①	
	6	医学論文の構成とその読解②	
	7	英語を用いたコミュニケーション/プレゼンテーション①	
	8	英語を用いたコミュニケーション/プレゼンテーション②	
教 科 書	藤枝 宏壽 (編)『これだけは知っておきたい 医学英語の基本用語と表現(日本語)』 第3版 メディカルビュー社 清水 雅子 (著)『リハビリテーションの基礎英語』第3版 メディカルビュー社		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	語学の学習は、積極的な授業参加のみならず、日々の自主的な学習が不可欠である。授業前に、ノートや配布資料・教科書の予習・復習を最低30分すること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	『アクセプトされる英語医学論文を書こう!』ネル・ケネディ著/メディカルビュー社 『PT・OT が書いたリハビリテーション英会話』三木 貴弘共著/メディカルビュー社		
成 績 評 価 方 法	提出物(予習・復習、授業ノート)50%(評価内訳:見やすく構成されているか、工夫がなされているか、予習や復習の自主的な学びがみられるか)、小テスト(3回)30%、参加態度20%		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業前後		

授 業 科 目 名	解剖学 I (総論・神経系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	高野 康夫、田口 尚弘 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医療に携わる専門職に就く者として、人体の生体の正常な構造を正しく理解することは必須である。系統解剖学の立場から、中枢神経、末梢神経、感覚器について学修する。中枢神経系は脳と脊髄から構成され、外界からの情報を感受し、その情報を処理、統合して行動、情動、思考、記憶など高度な指令を出す重要な部分である。これらの形態と構造に関わる基礎的知識を修得する。末梢神経では、感覚器により得られた外界の情報を中枢神経に送り、中枢神経系からの出力情報を末梢効果器に伝える神経系について学習する。さらに運動神経系、感覚神経系、自律神経系の機能と形態との関連性について習得する。併せて解剖学用語などの医学用語を修得する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学の基本的な人体の形態と構造を理解することができる。 2. 中枢神経系 (脳・脊髄) の構造・機能を理解する。 3. 中枢神経系における神経路 (伝導路) を理解する。 4. 末梢神経系 (脳神経・脊髄神経・自律神経) の基本構成やその走行、ならびにその傷害されやすい部位を理解することができる。 5. 感覚器系 (外皮、視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器) の構造および構成を理解することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	解剖学総論、組織学	
	2	神経系総論	
	3	大脳	
	4	脳幹・小脳	
	5	末梢神経 (脊髄神経)	
	6	末梢神経 (脳神経・自律神経)	
	7	感覚器系 (視覚器・嗅覚器・味覚器)	
8	感覚器系 (平衡聴覚器・外皮)		
教 科 書	(1)「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」シリーズ監修 奈良勲、鎌倉矩子、編集 野村巖、最新版、医学書院 (2)「プロメテウス解剖学コアアトラス」最新版、監訳 坂井建雄、医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	復習はその日に必ず済ませ、疑問点は参考書で調べて能動的に問題解決能力を養ってください。また予習を行い、予備知識を入れて講義に臨み、積極的に質問して専門知識をより吸収するようにして下さい。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	(1)「プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖」第2版、2014、監訳 坂井建雄、河田光博、医学書院、(ISBN978-4-260-01441-0) (2)「グレイ解剖学」原著第2版、2013、訳塩田浩平、瀬口春道、大谷浩、杉本哲夫、エルゼビア・ジャパン(株)(ISBN978-4-86034-773-4) (3)「イラスト解剖学」第9版、2017、松村譲児、中外医学社(ISBN978-4-498-00043-8)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、小試験 (10%)、レポート (20%)、積極的な授業参加態度 (10%)の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	解剖学Ⅱ (内臓・脈管系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	高野 康夫、田口 尚弘 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	内臓系と脈管系を中心に人体の正常構造について系統解剖学の立場から基本的な概念と知識の習得を目指す。臨床系専門科目に先駆けて、心臓血管系、リンパ系、消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系、内分泌系など多岐におよぶ学習範囲を系統立てて学修する。単なる名称の記憶にとどまらず、形態と機能との関わりを考え、医療に携わる者として基盤となる知識や論理性のある思考能力を身につける。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脈管系を構成する動脈・静脈と心臓の構造を理解できる。 2. 体循環、肺循環、胎児循環を理解できる。 3. 全身の動脈と静脈分布ならびにその分布相違を理解できる。 4. リンパ系の構成を理解できる。 5. 消化器系を構成する各器官の形態・構造や位置を理解できる。 6. 呼吸器系を構成する各器官の形態・構造や位置を理解できる。 7. 泌尿器系を構成する各器官の形態・構造や位置を理解できる。 8. 生殖器系を構成する各器官の形態・構造や位置を理解できる。 9. 内分泌系を構成する各器官の形態・構造や位置、分泌ホルモンを理解できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	脈管系Ⅰ (心臓)	
	2	脈管系Ⅱ (動脈・静脈・リンパ)	
	3	消化器系Ⅰ (口腔・咽頭・食道・胃・小腸)	
	4	消化器系Ⅱ (大腸・肝臓・胆嚢・膵臓)	
	5	呼吸器系	
	6	泌尿器系	
	7	生殖器系 (男性・女性)	
	8	内分泌系	
教 科 書	(1)「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」シリーズ監修 奈良勲、鎌倉矩子、編集 野村嶺、最新版、医学書院 (2)「プロメテウス解剖学コアアトラス」最新版、監訳 坂井建雄、医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	復習はその日に必ず済ませ、疑問点は参考書で調べて能動的に問題解決能力を養ってください。また予習を行い、予備知識を入れて講義に臨み、積極的に質問して専門知識をより吸収するようにして下さい。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	(1)「プロメテウス解剖学アトラス：胸部/腹部・骨盤部」第2版、2015、監訳 坂井建雄、大谷修、医学書院、(ISBN978-4-01411-3) (2)「グレイ解剖学」原著第2版、2013、訳塩田浩平、瀬口春道、大谷浩、杉本哲夫、エルゼビア・ジャパン(株)(ISBN978-4-86034-773-4) (3)「イラスト解剖学」第9版、2017、松村譲児、中外医学社(ISBN978-4-498-00043-8)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、小試験 (10%)、レポート(20%)、積極的な授業参加態度(10%)の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	解剖学Ⅲ (骨格系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	高野 康夫、田口 尚弘 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人体の基礎を構成し、運動器系の重要な器官である骨について分類・構造・発生などの総論と、それぞれの骨の部位や形態・特徴などを学修する。解剖学的用語を理解する模型を用いてそれが何骨で、特徴的な部位を指し、名称・付属するものを答えることができる。何骨と何骨が接し、何関節を構成しているかを理解する。関節の形態や動きによる分類ができる筋の解剖学的用語を理解する骨の基本的構造を知る。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論的に骨の構造、発生・成長や連結を説明できる。 2. 骨の構造・骨格の成り立ち、関節の構造・種類や補強構造物について説明できる。 3. 頭蓋の構成・構造や特徴を説明できる。 4. 脊柱および胸郭の構成・構造や特徴を説明できる。 5. 人体の関節ならびにその運動と関連靭帯とについて説明できる。 6. 上肢帯の骨と自由上肢の骨の構造と名称や特徴を説明できる。 7. 上肢帯の骨の連結、自由上肢骨の連結とその運動、および関連靭帯を説明できる。 8. 下肢帯の骨、自由下肢の骨の構造と名称や特徴を説明できる。 9. 下肢帯の骨の連結、自由上肢骨の連結とその運動、およびこれら関連靭帯を説明できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	骨学総論、靭帯学総論	
	2	頭蓋・下顎骨およびその連結・靭帯	
	3	脊柱およびその連結・靭帯	
	4	胸郭・骨盤骨格およびその連結・靭帯	
	5	上肢の骨 (上肢帯・自由上肢の骨)	
	6	上肢の骨の連結・靭帯	
	7	下肢の骨 (下肢帯・骨盤・自由下肢の骨)	
8	下肢の骨の連結・靭帯		
教 科 書	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」 シリーズ監修 奈良勲、鎌倉矩子、編集 野村蟻、最新版、医学書院 (2) 「プロメテウス解剖学コアアトラス」最新版、監訳 坂井建雄、医学書院 		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	「解剖学Ⅲ」はリハビリ関連専門科目の中で基礎となる重要な科目です。内容的に難解で専門的な医学用語や膨大な学習知識を必要としますので、復習はその日に必ず済ませ、疑問点は参考書で調べて能動的に問題解決能力を養ってください。また予習を行い、予備知識を入れて講義に臨み、積極的に質問して、講義内容をより吸収するようにして下さい。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」第2版、2011、監訳 坂井建雄、松村譲児、医学書院 (ISBN 978-4-260-01068-9)、 (2) 「グレイ解剖学」原著第2版、2013、訳 塩田浩平、瀬口春道、大谷浩、杉本哲夫、エルゼビア・ジャパン (株) (ISBN978-4-86034-773-4) (3) 「イラスト解剖学」第9版、2017、松村譲児、中外医学社 (ISBN978-4-498-00043-8) 		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、小試験 (10%)、レポート (20%)、積極的な授業参加態度 (10%)の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	解剖学Ⅳ (筋系)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	高野 康夫、田口 尚弘 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医療に携わる専門職に就く者として、人体の生体の正常な構造を正しく理解することは必須である。この科目では、筋ならびに筋を支配する神経についての構造と役割・特性について知り、人体の構造を立体的に捉え、関節と運動の仕組みについて学修する。具体的には、肩関節・肘関節、手関節、手指の関節、股関節、膝関節、足関節、体幹 (頸椎・胸椎・腰椎・仙椎) に関与する筋、神経について、名称とその概要について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 骨格筋の一般的な構造と機能を説明できる 2. 人体の主要な骨格筋の名称、構造 (起始・停止・走行)、支配神経、作用を理解する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	筋学総論・頭頸部の筋	
	2	体幹前面の筋	
	3	体幹後面の筋	
	4	上肢帯・上肢の筋	
	5	前腕・手の筋	
	6	骨盤・殿部の筋	
	7	大腿・下肢の筋	
8	足の筋、肢・下肢の断層解剖		
教 科 書	(1)「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」シリーズ監修 奈良勲、鎌倉矩子、編集 野村巖、最新版、医学書院 (2)「プロメテウス解剖学コアアトラス」最新版、監訳 坂井建雄、医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	「解剖学Ⅳ」はリハビリ関連専門科目の中で基礎となる重要な科目です。内容的に難解で専門的な医学用語や膨大な学習知識を必要としますので、復習はその日に必ず済ませ、疑問点は参考書で調べて能動的に問題解決能力を養ってください。また予習を行い、予備知識を入れて講義に臨み、積極的に質問して講義内容をより吸収するようにして下さい。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	(1)「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」第2版、2011、監訳 坂井建雄、松村譲児、医学書院 (ISBN 978-4-260-01068-9), (2)「グレイ解剖学」原著第2版、2013、訳 塩田浩平、瀬口春道、大谷浩、杉本哲夫、エルゼビア・ジャパン(株) (ISBN978-4-86034-773-4) (3)「イラスト解剖学」第9版、2017、松村譲児、中外医学社 (ISBN978-4-498-00043-8)		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、小試験 (10%)、レポート (20%)、積極的な授業参加態度 (10%) の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	生理学Ⅰ（動物性機能）	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	椋 秀人（兼任）、大迫 洋治（兼任）、奥谷 文乃（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人が環境に適応して活動する上で働く神経系の機能、すなわち動物的生理機能について、感覚機能、運動機能、高次脳機能などを通して学修する。主な学修内容としては「生理学の基礎」「神経・筋肉の基本的機能」「神経系の機能/概説（自律神経系を含む）」「感覚機能」「運動機能」「神経系の高次機能」である。これらの学修を通して、人の感覚・運動機能や高次脳機能の神経メカニズムについて理解を深める。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経の興奮・伝導とシナプス伝達の機構を説明できる。 2. 骨格筋細胞の興奮から収縮に至るまでの一連の過程を説明できる。 3. 自律神経系の経路と働きを説明できる。 4. 感覚受容器における生体電気信号への変換機構、感覚伝導路、感覚情報処理の特徴、感覚障害について説明できる。 5. 運動の反射性調節、随意運動の制御系、運動中枢の障害について説明できる。 6. 学習と記憶、情動、睡眠・覚醒の神経機構を概説できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	生理学の基礎	
	2	神経の基本的機能（1）	
	3	神経の基本的機能（2）	
	4	筋肉の基本的機能	
	5	神経系の機能/概説（自律神経系を含む）	
	6	感覚機能（1）	
	7	感覚機能（2）	
	8	感覚機能（3）	
	9	感覚機能（4）	
	10	感覚機能（5）	
	11	運動機能（1）	
	12	運動機能（2）	
	13	運動機能（3）	
	14	神経系の高次機能（1）	
15	神経系の高次機能（2）		
教 科 書	貴邑 富久子、根来 英雄 著『シンプル生理学』改訂第7版 南工堂		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書、パワーポイント資料、配付資料等を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	本間研一 監修『標準生理学』第9版 医学書院 坂井 建雄、河原 克雅 編集『人体の正常構造と機能』第3版 日本医事新報社		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	生理学Ⅱ (植物性機能)	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	梶 秀人 (兼任)、田中 健二郎 (兼任)、大塚 智子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>人体の生命維持に関わる生理機能の仕組み、すなわち植物的生理機能について、細胞の働きから各臓器の機能を通して学修する。主な学修内容としては「細胞の生理機能」「内分泌・生殖・発生」「消化と吸収」「血液」「循環と呼吸」「腎臓」「代謝と体温、老化」である。これらの学修を通して、医療人として必要とされる生命活動やその維持機能に関して科学的視点から学習を行う。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各内分泌器官から分泌されるホルモンの産生・作用・分泌調節・分泌異常を説明できる。 2. 生殖腺・脳の性分化、性周期発現の機序、精子形成の過程を説明できる。 3. 栄養補給系の全体像を説明できる。 4. 心筋細胞の電気現象、心臓の刺激伝導系、心電図のポイントを説明できる。 5. 心拍出量・血圧の調節機序、毛細血管における物質交換の機序を説明できる。 6. 血中酸素・二酸化炭素の運搬・処理機構、重炭酸緩衝系、呼吸の調節機構を説明できる。 7. 腎尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿濃縮の機序を説明できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	細胞の生理機能、内部環境とホメオスタシス	
	2	内分泌 (1)	
	3	内分泌 (2)	
	4	内分泌 (3)	
	5	生殖・発生	
	6	消化と吸収 (1)	
	7	消化と吸収 (2)	
	8	消化と吸収 (3)	
	9	血液	
	10	循環と呼吸 (1)	
	11	循環と呼吸 (2)	
	12	循環と呼吸 (3)	
	13	腎臓 (1)	
	14	腎臓 (2)	
15	代謝と体温、老化		
教 科 書	貴邑 富久子、根来 英雄 著『シンプル生理学』改訂第7版 南堂		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認とテキストならびに配付資料を読んでおく。復習は、講義板書、パワーポイント資料、配付資料等を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	本間研一 監修『標準生理学』第9版 医学書院 坂井 建雄、河原 克雅 編集『人体の正常構造と機能』第3版 日本医事新報社		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	運動生理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	大倉 三洋、辻 博明		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>運動生理学とは、身体運動によってヒトの生理機能にどのような変化が生じるのか、その現象と仕組みについて理解する学問である。解剖学や生理学を基礎として、運動時における身体機能の変化やトレーニングによる適応性について学習することで、医療現場や健康増進活動、スポーツ現場において必要とされる運動生理学の基礎知識を身につける。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法の基盤となる運動生理学の概要について修得する。 2. 患者の体力、生活習慣病や介護予防の面から体力の概念、重要性について修得する。 3. 筋機能（筋力、筋パワー、筋持久力）に関する運動生理学的知識を修得する。 4. 運動と神経系（中枢神経、末梢神経）に関する運動生理学的知識を修得する。 5. 運動と代謝に関する運動生理学知識を修得する。 6. 運動と呼吸機能の関係について運動生理学面から理解を深める。 7. 運動と循環機能の関係について運動生理学面から理解を深める。 8. 各体力要素に対する運動処方理論を修得する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	運動生理学と理学療法	
	2	運動と体力	
	3	運動と筋肉	
	4	運動と神経	
	5	運動と代謝	
	6	運動と呼吸	
	7	運動と循環	
8	運動処方理論		
教 科 書	石井喜八、宮下充正・他 『新訂 運動生理学概論』 大修館書店 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は授業前に配布する資料中心に教科書と合わせて読んでおくこと。復習は配布資料と講義内容を参照にして要点をまとめること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	石河利寛・他 『運動生理学』 建帛社 朝山正己・他 編 『イラスト 運動生理学』 東京教学社		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	運動生理学実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	大倉 三洋、辻 博明、稲岡 忠勝、有光 一樹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	運動を行うと、心拍数の増加、呼吸機能の亢進、また体温の上昇といった現象が見られるように、運動と器官系の機能は密接に関連している。運動生理学で学習した呼吸、循環、筋活動等の生理現象を実際に把握するため、運動中の人体の生理学的応答を測定する実習を行う。運動によって起こる身体機能の一時的変化や適応現象を観察し、データの収集、処理および考察をすすめる。具体的には、生理学のための弱電（呼吸数、心拍数、血圧、体温、皮膚温の測定）、運動時心拍数の測定、心電図の測定などである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体生理現象の測定に関して、測定機器の作成方法あるいは使用方法や測定意義などを修得できる。 2. 実験デザインの作成方法を修得する。 3. 実習を通し、収集されたデータの処理及び解析方法を修得する。 4. 解析されたデータについて、他験者も含めた変化に対して運動生理学的に考察ができる。 5. 実験報告レポートの正しい作成方法を修得する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、筋力・筋持久力の測定 I	
	2	筋力・筋持久力の測定 II	
	3	筋電図の測定	
	4	筋電図の解析（積分筋電図）	
	5	運動生理学のための弱電 I（エレクトロゴニオメータ）	
	6	運動生理学のための弱電 II（ホイートストーンブリッジ）	
	7	エルゴメトリー I（呼吸代謝データの測定及び無酸素性代謝閾値の測定）①	
	8	エルゴメトリー I（呼吸代謝データの測定及び無酸素性代謝閾値の測定）②	
	9	エルゴメトリー II（全身持久性：PWC170 の測定など）①	
	10	エルゴメトリー II（全身持久性：PWC170 の測定など）②	
	11	エルゴメトリー III（心拍数、呼吸数、体温の測定）①	
	12	エルゴメトリー III（心拍数、呼吸数、体温の測定）②	
	13	心電図測定 I（安静時 12 誘導心電図の測定）	
	14	心電図測定 II（運動負荷時の心電図測定及び運動前-中-後の血圧変化）①	
15	心電図測定 II（運動負荷時の心電図測定及び運動前-中-後の血圧変化）②		
教 科 書	宮下充正、石井喜八・他 編著 『新訂運動生理学概論』 大修館書店		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習はオリエンテーション時に配布する実験デザインプリントを各実験前に熟読し、その項目に関する事前学習を配布プリント、教科書及び参考資料より学習してくること。復習は各課題に応じた収集資料、採点后に返却される各教員からのレポート添削をまとめ、見直すと共に 1～5 の目標が達成できるまで練習やレポート指導を受けること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	中村隆一、齋藤宏・他 『基礎運動学』第6版補訂 医歯薬出版 真島英信・他 『人体生理の基礎』 杏林書院		
成 績 評 価 方 法	各課題における実験レポート（100%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	基礎運動学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	重島 晃史		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人間が運動する場合、筋・骨格系のみならず人間の正常な身体運動の発生機序と、それに関わる身体構造と機能の関係を学習する。具体的には、運動の成り立ち、力学の基礎、人体の重心、支持基底面と重心線との関係、全身の重心と分節構造、角加速度と慣性モーメント姿勢とその制御などで、てこの種類と人体での作用の例、てこの力学的有利性、身体重心と安定性について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全身の主要な関節とその関節運動を説明できる。 2. 運動の観察と分析の手法が理解できる。 3. 身体運動における「てこ」とモーメントが理解できる。 4. 身体の重心および安定性との関係が理解できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション、運動学の概念と身体運動のとらえ方	
	2	運動学と運動力学	
	3	身体運動の面と軸	
	4	全身の主要な関節とその関節運動①	
	5	全身の主要な関節とその関節運動②	
	6	全身の主要な関節とその関節運動③	
	7	身体部位と運動の観察①	
	8	筋の作用と収縮様式①	
	9	筋の作用と収縮様式②	
	10	身体運動とてこの関係①	
	11	身体運動とてこの関係②	
	12	身体運動とてこの関係③	
	13	姿勢と安定性①	
	14	姿勢と安定性②	
15	身体動作の観察と分析		
教 科 書	中村隆一、他・著『基礎運動学第6版補訂』医歯薬出版株式会社 ヒントレ研究所 編 『PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編』改訂第2版 南江堂		
事前事後の予習復習	必要に応じて授業終了時に次回講義に関する予習内容を提示する。復習では授業で実施した課題を再度振り返り実施する。		
履 修 の 条 件	特記事項なし		
参 考 文 献	鎌倉矩子、他『PT・OT 学生のための運動学実習』三輪書店 藤澤宏幸、他『観察による運動・動作分析演習ノート』医歯薬出版株式会社 江原義弘、他『PT・OT・PO 身体運動の理解につなげる物理学』南江堂		
成 績 評 価 方 法	授業態度 (10%)、小テスト (40%)、定期試験 (50%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	運動機能学実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	選択
担 当 教 員 名	相澤 徹、重島 晃史、有光 一樹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	身体を構成する各関節について、正常な基本動作の関節運動メカニズムと動作特性について学修する。具体的には、関節運動の基礎、股関節、膝関節、足関節、脊椎、肩関節、肘関節の運動法則と運動のメカニズムについて学修する。本講義は、身体障害領域における評価・治療の基本となる知識を学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 身体における各関節の解剖学的構造や機能を再理解し、身体動作運動との関連について習得する。 2. 解剖学及び運動学で学んだ専門用語を適切に活用できるようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス・運動機能学概論 授業進行方法の説明、解剖学及び運動学における基礎用語、基礎知識の復習	
	2	股関節Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	3	股関節Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴	
	4	膝関節Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	5	膝関節Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴	
	6	足関節及び足部Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	7	足関節及び足部Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴	
	8	肩甲帯・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	9	肩甲帯及び肩関節・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	10	肩甲帯及び肩関節・身体運動における関節の動きと特徴	
	11	肘関節・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋・身体運動時の関節の動きと特徴	
	12	手関節と手指Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
	13	手関節と手指Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴	
	14	脊椎Ⅰ・解剖学的構造と特徴、運動に関わる筋	
15	脊椎Ⅱ・身体運動における関節の動きと特徴		
教 科 書	渡辺正仁 『PT・OT・STのための解剖学』第4版 廣川書店 中村隆一、齋藤宏、長崎浩 『基礎運動学』第6版 医歯薬出版		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	単元毎に授業プリントを配布するので、教科書と併せて熟読し、予習しておくこと。授業後は骨モデルなどで詳細を復習すること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	荻島秀男 監訳 『カバンディ関節の生理学 下肢 体幹 上肢』 医歯薬出版 井原秀俊 他訳 『関節・運動器の機能解剖 上肢・脊柱編 下肢編』 協同医書出版社		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (90%)、小テスト (10%)、ただしこの比率は若干変更する場合もある。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法運動学演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	山崎 裕司・柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人間が動作するには、動作に必要な関節可動域、筋収縮、重心位置と支持基底面の関係を適切に保つバランス、動作学習の要素が必要である。授業では、動作と関節可動域、筋収縮、バランス、動作学習の関係について学ぶ。そして、起居動作や歩行・階段動作の観察、分析から、これらの動作に必要な関節可動域、筋収縮、バランスが理解できるように学習していく。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動作中の関節可動域を見積もることができる。 2. 動作中の筋活動が理解できる。 3. 動作中の重心と支持基底面の関係が理解できる。 4. 動作の獲得に必要な学習の働きが理解できる。 5. 動作観察・分析からその動作に必要な関節可動域、筋活動、バランスが分析できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、単関節運動中の関節可動域の見積もり	
	2	複合関節運動中の関節可動域の見積もり	
	3	動作中の関節可動域の見積もり①	
	4	動作中の関節可動域の見積もり②	
	5	単関節運動中の主動作筋の理解	
	6	主動作筋、拮抗筋、共同筋、固定筋、筋収縮様式の理解	
	7	動作中の主動作筋、筋収縮様式の見積もり①	
	8	動作中の主動作筋、筋収縮様式の見積もり②	
	9	動作中の重心位置と支持基底面の関係の理解、平衡機能とバランスの理解	
	10	支持基底面と視覚、前庭機能が立位バランスに与える影響の理解	
	11	運動学習の基本原則と基本手技	
	12	運動学習（車椅子のキャスター挙げ操作を題材として初めての動作の学習体験を実施）	
	13	動作観察練習（立ち上がり、起き上がり動作）動画の観察から動作中の関節可動域、筋活動、重心位置と支持基底面の変化を分析	
	14	動作観察練習（歩行1） ：動画の観察から歩行中の関節可動域変化、筋活動変化を分析	
15	動作観察練習（歩行2）動画の観察から歩行中の関節可動域変化、筋活動変化、重心位置と支持基底面の変化を分析		
教 科 書	ヒントレ研究所 編『PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編』 南江堂		
専 前 専 後 の 予 習 復 習	授業終了時に次回の授業の予習内容を伝える。授業理解に欠かすことのできない、関節の運動方向、筋肉作用や関節可動域表現方法など基礎的知識の記憶を予習で行う。復習は、授業で行った練習課題をもう一度行う。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	山崎裕司・山本淳一 編 『リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ第2版』 三輪書店		
成 績 評 価 方 法	課題（10%）、小テスト（20%）、定期試験（70%）の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	作業療法運動学演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	清水 一・石元美知子・有光 一樹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	人が作業をする場合に必要となる運動制御と身体運動について、日常生活上の各種動作における運動学的分析について学修する。具体的には、運動神経回路の働きと各動作における運動コントロールを理解していく。また、日常生活の各種動作における手や上肢機能、姿勢、歩行などの移動について分析することで、身体障害領域における評価・治療の基本となる知識を学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人の動きを、解剖学と運動学に照合させ関節や筋肉の特性から特徴が説明できる。 2. 人の動きを運動学の用語を用いて生体力学的に分析できる。 3. 運動のタイプを神経系やエネルギー代謝・呼吸循環器系から説明できる。 4. 姿勢・歩行を運動学的に分析して運動相(パターン)として説明することができる。 5. 動作習熟の側面を運動速度、力、フォームから分析することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	作業療法運動学演習授業概説と下肢帯および下肢の関節運動概説と演習	
	2	下肢帯と下肢の機能解剖演習	
	3	下肢帯および下肢の関節運動と演習と実習	
	4	上肢帯および上肢の関節運動概説と演習	
	5	上肢帯および上肢の関節運動(肩甲帯・肩関節)の演習と実習	
	6	上肢帯および上肢の関節運動(肘関節・前腕・手関節・指)の演習と実習	
	7	頭頸部・体幹の機能解剖演習	
	8	脊柱・体幹の関節運動の演習と実習	
	9	②EMGを用いた筋活動の分析(視覚、触覚、聴覚、二重課題反応時間)	
	10	③静止姿勢(重心(直接法と間接法)、アライメント、リーチ test)の分析	
	11	④姿勢と動作分析(記述による) 起き上がり、立ち上がり、把持様式…	
	12	⑤歩行分析(カメラあるいはスマホ動画による)	
	13	⑥呼吸と循環 運動負荷 6分間歩行 test、漸増シャトルウォーキング test	
	14	⑦運動学習分析(速度、筋力、エラー数、フォーム)の習熟特性	
15	総括と発表 ①から⑦班の成果発表 1班10分程度		
教 科 書	①理学療法・作業療法テキスト 運動学実習 中山書店 2016 ②PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート 第2版 医歯薬出版 2016		
事前事後の予習復習	各授業前日までに教科書の関係部分①ならびに②を精読しておくこと。 7班の集団で学習するが各班に1回ずつ担当部分の講義を課すので講義の準備も		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	基礎運動学 第6版 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	提出演習レポート11回分(80%)と発表担当①から⑦のうち1回分(30%)		
オ フィ ス ア ワ ー	火曜日午後		

授 業 科 目 名	人間発達学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	中野 良哉 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>生命が誕生するしくみと生まれるまでの各組織の発生、さらに乳幼児から小児期・少年期までの運動と認知機能および情意面の発達の違いやその特徴について学修する。これらの学修を通じて、人間が発達するために多くの支援や環境が必要であることの理解を深める。また、成人期・老年期そして死に至るまでの量的・質的变化(老化)の過程について、発達という観点から生理機能、運動機能および認知機能について考究し理解を深める。それぞれの時期に特徴的に出現する病気や障害について、人間のライフサイクルという視点に立って理解する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の心身の発達に興味を持つことができる。 2. 発達の基本的な知識や概念を理解し、説明できる。 3. 発達の順序、発達課題を理解することができる 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	発達理論・発達の研究法	
	2	胎児期・新生児期の発達	
	3	乳児期の発達	
	4	幼児期の発達	
	5	児童期の発達	
	6	青年期の発達	
	7	成人期・中年期の発達	
	8	高齢期の発達	
教 科 書	必要に応じて資料を配付する		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<p>配布資料を事前に読んでくること。 授業の内容を復習し理解を深めること。</p>		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	適宜紹介する		
成 績 評 価 方 法	筆記試験を行い(100%)、総合評価する		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	医学概論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	吾妻 美子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	臨床医学におけるその基本的考え方と基礎を理解し、医療人としての見識を学修する。具体的には、医学及び医療の歴史、感染症とその対策、生命倫理移植医療、インフォームド・コンセントなど再生医療、生命倫理、病気の診断と治療、リハビリテーションの役割、予防医学、生活習慣病の原因と予防法、平均寿命と健康寿命、老化と死などについて学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代医療における基礎医学、臨床医学の各分野について理解することができる。 2. 医学・医療の歴史と発展に貢献した人物について理解することができる。 3. 移植医療、再生医療、ゲノム医療と生命倫理について考察することができる。 4. 現代医療におけるリハビリテーションの役割について理解することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	基礎医学と臨床医学、各医療職種とその果たす役割	
	2	医学及び医療の歴史	
	3	感染症（1）予防と消毒の方法	
	4	感染症（2）院内感染症とバイオハザード	
	5	平均寿命と健康寿命、老化と死	
	6	移植医療（臓器移植と骨髄移植）と生命倫理、インフォームド・コンセント	
	7	再生医療の基礎概念と生命倫理、現代および未来において果たす役割	
	8	ゲノム医療と生命倫理、ヒトの遺伝、がん遺伝子、遺伝カウンセリング	
教 科 書	日野原重明著『系統看護学講座 別巻 医学概論』医学書院 配布資料		
事前事後の予習復習	予習は、シラバスの確認とテキストをよく読み問題点を明らかにしておく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめノートを整理する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	ステイーブ・パーカー著『医療の歴史』創元社 服部成介著『よくわかるゲノム医学』羊土社		
成 績 評 価 方 法	定期試験（90%）、レポート（10%）、		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	病理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必須
科 目 担 当 者	吾妻 美子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定するのを目的とする学問であり、疾病の原因、経過および結果など、疾病の成り立ちについて学修する。具体的には、病理学理論、各種疾病の病態の概要、代謝異常、退行性病変、進行性病変（増殖と修復）、循環障害、炎症と免疫、感染症、腫瘍、放射線障害、老化、先天的異常および各種疾患について学ぶ。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学の目的である病気の原因や発生機序を理解することができる。 2. 医学、医療において病理診断が果たしている役割を理解することができる。 3. 各種疾病の病態や臨床症状を学ぶことにより、患者の痛みや苦しみを理解することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	病理学の概要と医療における病理診断の果たす役割。病気の原因	
	2	退行性病変（変性、萎縮、壊死 etc.）、進行性病変（肥大、化生 etc.）	
	3	代謝障害（蛋白質、アミノ酸、核酸、脂質、糖質、無機物質、色素）	
	4	循環障害（体液循環、局所の循環障害、全身循環障害）	
	5	炎症（原因、炎症細胞）、感染症（感染経路、病原微生物の種類と疾患）	
	6	免疫の概念、免疫不全、アレルギー、自己免疫疾患、移植	
	7	腫瘍（定義、原因、分類、形態、進展様式、発癌のメカニズム、治療法）	
8	先天異常、奇形（遺伝性疾患、染色体異常症、奇形）		
教 科 書	梶原博毅監修、横井豊治、村雲芳樹編集『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学』医学書院、配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認とテキストをよく読み問題意識を涵養しておく。復習は、講義板書ならびに配付資料を参照して、要点をまとめノートの整理をする。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	大橋健一、谷澤徹著『系統看護学講座 専門基礎分野 病理学』医学書院		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	内科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	小野 歩 (兼任)・田中 肇 (兼任)・竹中 奈奈 (兼任)・石元 篤雄 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	内科学の概念、おもな症状、臨床検査、治療法、主要な内科疾患などを理解する。内科疾患から起こる障害に対するハビリテーションを実施する際の基礎知識をつけ、実践の場で役立てられることを目的とする。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科の基本的な診察方法と検査方法について説明できるようになる。 2. 内科の各疾患の症候と病態生理について説明できるようになる。 3. 内科の各疾患の診断方法について説明できるようになる。 4. 内科の各疾患の治療方法について説明できるようになる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	内科学総論、診療と治療の実際、治療 内科学の概念、内科臨床とリハビリテーション、臨床医学の実際、診断の進め方、臨床検査とデータの解析・治療、治療についての考え方の変化と新しい治療	
	2	循環器疾患総論① 心臓血管系の構造と働き、症候、身体診察、検査、高血圧	
	3	循環器疾患総論② 心臓血管系の構造と働き、症候、身体診察、検査、高血圧	
	4	循環器疾患各論① 心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋疾患、心膜疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢動脈疾患肺性心	
	5	循環器疾患各論② 心不全、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋疾患、心膜疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢動脈疾患肺性心	
	6	呼吸器疾患総論 肺の構造と生理、症候と病態生理、診療、検査、呼吸器リハビリテーション、呼吸不全	
	7	呼吸器疾患各論 呼吸器感染症、慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎、気管支喘息、拘束性肺疾患、腫瘍性肺疾患、胸膜疾患、異常呼吸	
	8	消化器疾患 消化管の解剖と生理、症候と病態生理、診断、口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患	
	9	肝・胆・膵疾患 肝・胆・膵の解剖と生理、症候と病態生理、検査、肝疾患、胆道疾患、膵疾患、腹膜疾患	
	10	血液・造血器疾患 血液の形態と生理、血液細胞の生成と分化、症候と病態生理、検査、赤血球系疾患、白血球系疾患、リンパ系疾患、異常蛋白血症、出血性疾患	
	11	腎・泌尿器疾患 腎の解剖と生理、症候と病態生理、検査、腎不全、糸球体疾患、尿管機能異常、腎硬化症、薬剤性腎障害、尿路疾患、腫瘍	
	12	代謝疾患 代謝調節、水・電解質代謝異常、糖尿病、高脂血症、肥満症、メタボリックシンドローム、痛風、骨粗鬆症	
	13	内分泌疾患 ホルモンの作用機序、内分泌腺の解剖生理、症候と病態、検査、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	
	14	膠原病・アレルギー性疾患・免疫不全 免疫総論、自己免疫性疾患（膠原病）、アレルギー疾患、免疫不全	
15	感染症 感染症総論、細菌感染症、ウイルス感染症、その他の感染症、寄生虫症		
教 科 書	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版』医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習として、授業予定の内容について教科書の該当部分を読み把握しておくこと。 復習として、授業中に強調した部分を中心に教科書を読み、身につけるべき知識の再確認を行うこと。		
履 修 の 条 件	内科学で理解しなければならない事項が多いため、プリントの内容をスライドで提示しながら講義を進める。講義内容が多いため、かなりの集中力を要する。		
参 考 文 献	コメディカルのための内科学 第3版 医/学出版社		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後に質問を受けつける。		

授 業 科 目 名	整形外科科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	選択
担 当 教 員 名	相澤 徹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科的診断、治療法を理解する。骨折、脱臼、および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説し、そこから生じる障害について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	整形外科における運動器の形態・機能・病態生理と評価・検査・治療方法、および総論的主要疾患等について、リハビリテーションに必要な基礎的知識と概念を獲得する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	整形外科の基礎科学、整形外科診断総論	
	2	整形外科とリハビリテーション医学、四肢切断と義肢	
	3	骨・関節・筋肉の感染症、リウマチとその類縁疾患	
	4	慢性関節疾患（退行性、代謝性）、四肢循環障害と阻血壊死性疾患	
	5	先天性骨系統疾患と先天異常症候群、代謝性骨疾患	
	6	骨腫瘍、軟部腫瘍、神経疾患、筋疾患	
	7	肩関節、肘関節の外傷	
	8	手関節および手指の外傷	
	9	頸椎、胸郭、腰椎の外傷	
	10	股関節、膝関節、足関節と足趾の外傷	
	11	軟部組織損傷	
	12	骨折・脱臼総論	
	13	骨折・脱臼（上肢、下肢）、脊椎・脊髄損傷	
	14	末梢神経損傷	
15	スポーツ傷害、救急災害		
教 科 書	松野丈夫、中村利孝 総編集 『標準整形外科学』第12版 医学書院		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は教科書の授業予定範囲を読んでおくこと。復習は講義内容を参照して要点をまとめること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	精神医学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	加賀野井 聖二 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	精神疾患は誰でもかかる可能性のある疾患で、適切な治療の継続により、その症状は相当程度安定化し、軽快または治癒する病気である。理学療法士は、理学療法対象者が、総合失調症、気分障害 (脳卒中後うつ病など)、アルコール/薬物依存症、認知症、せん妄、高次脳機能障害、睡眠障害などに罹患している可能性が高く、精神疾患や精神症状が理学療法アウトカムに大きな影響を及ぼしていることを認識しなければならない。本講義は、精神疾患の理解を高め、適切な対応ができるようになること、医療従事者として精神医学の正しい知識の普及・啓発ができるようになることを学習目標とする。運動が精神症状に及ぼす影響についても学習を深める。		
授 業 の 到 達 目 標	精神医学の領域について、正しい知識を身につけ精神疾患に対する理解を深め、適切な対応ができるようになること。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	精神医学とは	
	2	精神障害における症状	
	3	精神科面接法と診断への過程	
	4	症状性を含む器質性精神障害	
	5	精神作用物質使用による精神および行動の障害	
	6	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	
	7	気分 (感情) 障害	
	8	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	
	9	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	
	10	成人のパーソナリティおよび行動の障害	
	11	児童・青年期の精神障害	
	12	高齢者と精神医学	
	13	精神科包括治療	
	14	各精神疾患の病態生理と薬物療法	
15	地域社会と精神医療・保健・福祉、精神科領域における理学療法		
教 科 書	『学生のための精神医学』医歯薬出版、『臨床につながる精神医学』医歯薬出版、配布資料		
事前事後の予習復習	教科書を事前に読んで、予習をしておくこと。言葉の理解をするようにすること。講義後は疾患等をしっかりイメージしながら理解を深めるように学習すること。		
履 修 の 条 件	精神医学に関する各種新書を興味関心に応じて読むことが望ましい。		
参 考 文 献	「心理・精神領域の理学療法 はじめの一步」医歯薬出版、精神疾患が合併していても身体リハビリテーションはできる!協同医書出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験100%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当の教員に相談の上随時対応可能。 対応可能かどうかを事前に授業前後にて確認することが望ましい。		

授 業 科 目 名	臨床神経学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期・後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	倉田 浩充 (兼任)・金子 恵子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	神経内科で取り扱う疾患の基本的知識を理解し、それに伴う神経症状について学修する。具体的には、神経内科総論、神経解剖学、神経心理学、神経診察、神経学的検査 (MRI・核医学)、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、パーキンソン病、認知症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋委縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、筋ジストロフィーなどである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経系の解剖に応じた神経症状を理解する。 2. 神経症状の評価方法を修得する。 3. 中枢神経系の画像検査を理解する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	神経学総論・神経学的評価Ⅰ	
	2	神経学的評価Ⅱ	
	3	神経解剖学・画像評価	
	4	脳卒中 閉塞性脳血管障害	
	5	脳卒中 出血性脳血管障害	
	6	脳卒中 評価・治療	
	7	頭部外傷	
	8	腫瘍性疾患	
	9	水頭症関連疾患・先天異常	
	10	感染症および炎症性疾患	
	11	神経変性疾患	
	12	神経筋疾患	
	13	認知症	
	14	脊髄脊椎疾患	
15	機能的神経徴候 (てんかん・疼痛・痙縮)		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	神経に関する解剖学と生理学の復習をすること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	医療情報科学研究所編 病気がみえる Vol.7 脳・神経		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	小児科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	武市 知己 (兼任)・小倉 英郎 (兼任)・小谷 治子 (兼任)・三宅 典子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	成長、発達段階にある小児の特性をふまえ、主にリハビリテーションに関連した小児疾患についての成因と症状などについて学修する。具体的には、小児科学概論、神経発達と乳幼児の行動、発達栄養と摂食、小児保健、小児の一時救命、新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝病、循環器疾患、感染症、消化器疾患、内分泌疾患、血液疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病、習癖、心身症、腎疾患、神経骨系統疾患、重症心身障害児などである。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の神経発達の考え方を理解することができる。 2. 小児疾患と小児リハビリテーションの関連を理解することができる。 3. 小児リハビリテーションをそれぞれのライフステージに応じた、かつ包括的な医療として考えることができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	小児科学概論、発達概論	
	2	新生児、先天異常・遺伝	
	3	神経・筋・骨系統疾患	
	4	神経・筋・骨系統疾患	
	5	循環器、呼吸器、感染症	
	6	消化器、内分泌、血流、免疫アレルギー	
	7	心身症虐待、眼科、耳鼻科、重症心身障害児	
	8	重症心身障害児	
教 科 書	標準理学療法学・作業療法学「小児科」Ver. 5 医学書院 配布資料		
事前事後の予習復習	予習はシラバスの確認とテキストならびに配布資料を読んでおく。 復習は講義内容、配布資料を参照して要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	正常発達 脳性まひ治療への応用 (初版) Jung Sun Hong 著 三輪書店 または 正常発達 (第2版) 脳性まひの治療アイデア Jung Sun Hong 著 三輪書店		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	リハビリテーション医学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	2年前期・後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	宮本 寛 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	リハビリテーション医学は実践的臨床医学の一つであり、各種の幅広い疾患と様々な障害に対して急性期より介入するものである。その介入手段は多岐にわたる。このためリハビリテーション医学の診断、検査、評価、治療の進め方と同時に、リハビリ医療は「急性期からリスクを管理しながら行う」ことの重要性を理解することを授業の目標とする。到達目標は、各疾患の評価とリハビリテーションの進め方の基本について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	急性期、回復期、生活期の各種疾患やそれにより生じる後遺障害に対するリハビリテーションの在り方や、臨床現場におけるリハビリテーションスタッフの役割や多職種との連携の仕方について理解する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	リハビリテーションの臨床現場における多職種間の関係	
	2	急性期におけるリハビリテーションの在り方	
	3	回復期におけるリハビリテーションの在り方	
	4	生活期におけるリハビリテーションの在り方	
	5	運動麻痺の回復過程	
	6	高次脳機能障害	
	7	ICF	
	8	リハビリテーション医学概観	
教 科 書	目で見えるリハビリテーション医学 上田 敏 東京大学出版会		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	自己判断に任せます。		
履 修 の 条 件	私語は絶対禁。座席指定なし。自主性を尊重。		
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	筆記試験 (100%) 体調面・精神面の不調に対しては幅広く配慮します。講師または事務所に本人又は保護者等が口頭か書面又はその他の方法で相談してください。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	臨床心理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	中野 良哉 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	病院の患者や施設などの入居者の心理を系統的に学び、各々のケースの心理状態を客観的に把握することで、患者や入居者の心理を理解するための知識を習得する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の基礎的な理論を理解することができる。 2. どのような心理アセスメント法があるか説明できる。 3. 心理療法の各理論、各技法を理解することができる。 4. 援助関係を形成する技法について説明できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	臨床心理学の誕生と発展	
	2	臨床心理学の基礎理論	
	3	アセスメント・診断1 アセスメントの手続き	
	4	アセスメント・診断2 検査法(性格検査)	
	5	アセスメント・診断3 検査法(知能検査, 発達検査)	
	6	心理療法の過程	
	7	主な心理療法1 精神分析療法	
	8	主な心理療法2 来談者中心療法	
	9	主な心理療法3 行動療法・認知行動療法	
	10	ストレスと心身症	
	11	人格とその障害	
	12	発達とその障害	
	13	病院・医療機関での心理臨床	
	14	医療スタッフと患者のコミュニケーション過程	
15	臨床心理学の研究法 質的研究と量的研究		
教 科 書	必要に応じて資料を配付する		
事前事後の予習復習	配布資料を事前に読んでくること。 授業の内容を復習し理解を深めること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	適宜紹介する		
成 績 評 価 方 法	筆記試験(100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	耳鼻咽喉科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	奥谷 文乃 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	ヒトをヒト以外の動物から区別する機能の一つに言語機能がある。ヒトの成長過程における言語機能の獲得は、聴覚による理解から始まり、つづいて発語（喉頭における発声に基づく）、最後に文字言語の使用へと進められる。耳鼻咽喉科学は言語理解の最も重要な聴覚機能、音声言語機能の障害をきたす種々の疾患を扱う学問である。本科目においては、言語聴覚士として最低限必要とされる耳鼻咽喉科領域の疾患に関する診断や治療といった知識を身につけ、理解を深める。		
授 業 の 到 達 目 標	言語聴覚士として最低限必要とされる耳鼻咽喉科領域の疾患に関する診断や治療といった知識を身につけ、理解を深める。特に鼻・口腔・咽頭の疾患を重点的に扱う。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	鼻の解剖生理	
	2	鼻・副鼻腔疾患①	
	3	鼻・副鼻腔疾患②	
	4	鼻・副鼻腔疾患③	
	5	鼻・副鼻腔疾患④	
	6	口腔・咽頭の解剖生理	
	7	口腔・咽頭疾患①	
	8	口腔・咽頭疾患②	
	9	口腔・咽頭疾患③	
	10	口腔・咽頭疾患④	
	11	口腔・咽頭疾患⑤	
	12	頸部・顔面の解剖生理	
	13	頸部・顔面疾患①	
	14	頸部・顔面疾患②	
15	頸部・顔面疾患③		
教 科 書	病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科 メディックメディア社		
事前事後の予習復習	講義終了後必ず復習をし、次回の小テストに備えること		
履 修 の 条 件	板書が多いので、十分な筆記具を用意すること。質問など、積極的な態度が望まれる。		
参 考 文 献	「新耳鼻咽喉科学」 野村恭也著 南山堂		
成 績 評 価 方 法	試験（筆記）80% 小テスト20%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	形成外科学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	秋山 謙三（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	生まれつき、あるいは病気や怪我で失われたり損なわれたりした身体の表面的異常を、主に手術という手段を用いて正常な形に近づける治療を行う医療分野について、主に口腔周辺の唇裂・口蓋裂を中心に、原因や治療法、また、言語聴覚士の役割について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	先天的疾患を持って生まれ乳幼児期より成人期まで社会生活を送るうえでの言語聴覚士さんの重要な役割を理解することができます。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	顎・顔面の発生と発育・構造について①	
	2	顎・顔面の発生と発育・構造について②	
	3	障害に対する歯科医学的治療法	
	4	手術療法・人工材料・再建による機能回復について①	
	5	手術療法・人工材料・再建による機能回復について②	
	6	手術療法・人工材料・再建による機能回復について③	
	7	手術療法・人工材料・再建による機能回復について④	
	8	手術療法・人工材料・再建による機能回復について⑤	
教 科 書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学第2版 配布資料		
事前事後の予習復習			
履 修 の 条 件	なし		
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	臨床歯科医学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	秋山 謙三 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	80歳までに自分の歯を20本残す8020運動のように、人の健康において、歯はとても重要なものである。歯科医学の基礎および臨床的な知識を学び口腔機能について理解を深めてもらう。口腔は消化器の一部であり、また、摂食、嚥下、発音に関する重要な器官である。口腔内だけでなく、顔面や頸部の発育や構造、機能、特性を十分に認識し、種々の疾患についての理解を深め、機能障害の診断や治療を学ぶことによって、口腔機能障害の予防と回復に役立てるようにする。		
授 業 の 到 達 目 標	口腔と言語・摂食・嚥下との関連についてと言語聴覚士さんの役割と必要性を理解することができます。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能について①	
	2	歯・口腔・顎・顔面の構造と機能について②	
	3	歯・歯周組織疾患及び歯科医的処置について	
	4	口腔・顎・顔面の疾患について①	
	5	口腔・顎・顔面の疾患について②	
	6	口腔・顎・顔面の疾患について③	
	7	咀嚼・摂食・嚥下・構音障害について①	
8	咀嚼・摂食・嚥下・構音障害について②	まとめ	
教 科 書	言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学第2版 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	教科書に目を通して置いて下さい。		
履 修 の 条 件	なし		
参 考 文 献	言語聴覚士に必要な歯科の知識 インテル出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	画像診断学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択必修
科 目 担 当 者	伊東 賢二（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	各種撮像法の基本原理と画像診断の理論について学修し、リハビリテーション専門職が扱う代表的疾患の画像に関する知識を学ぶ。具体的には、CT、MRI、超音波画像、単純写真などの正常画像を把握する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種画像検査法の原理と特徴を理解する。 2. 診療用画像の基礎知識を修得する。 3. 各部位（臓器）におけるX線写真、CT画像、MR画像を理解する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	画像診断機器・検査の原理と基礎（Ⅰ）	
	2	画像診断機器・検査の原理と基礎（Ⅱ）	
	3	胸部単純撮影・肺・縦隔の画像診断の基礎	
	4	中枢神経・頭頸部の画像診断	
	5	体幹部の画像診断（脊椎・脊髄）	
	6	体幹部の画像診断（腹部・骨盤・四肢）	
	7	血管造影検査・IVRの原理と基礎	
	8	核医学検査の原理と基礎	
教 科 書	授業毎の講義資料		
事前事後の予習復習	復習：配布資料を確認のこと		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方（医歯薬出版） X線画像解剖ポケットアトラス（メディカルサイエンスインターナショナル） CT・MRI 画像解剖ポケットアトラス（メディカルサイエンスインターナショナル）		
成 績 評 価 方 法	試験（国家試験形式設問）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後、質問を受け付けます		

授 業 科 目 名	臨床栄養学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	渡邊 慶子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会の変化は食生活を豊かにした一方、生活習慣病の増加など様々な問題を引き起こしている。食事は単に栄養素を摂取することだけでなく、心身の順調な発育・発達や成熟を促し、健康な生活を営むための基礎である。この科目では、栄養学の基本となるエネルギーや栄養素、食品の非栄養成分などを学修し、病気の原因や治療に関して理解を深める。		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床におけるリハビリテーション栄養の意義と栄養の基礎について理解できる。 ・傷病者・要介護者への栄養ケアプロセスの手法が理解できる。 ・病態、疾患に対応した栄養療法が理解できる。 ・NST (栄養サポートチーム) について説明できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	リハビリテーションにおける栄養の意義 NST (栄養サポートチーム) の実際 栄養ケアプロセス	
	2	栄養の基礎 ①栄養補給ルート ②エネルギー代謝 ③栄養素の役割	
	3	④運動時の栄養 ⑤栄養不良時の栄養 ⑥侵襲時の栄養 小テスト① 課題①	
	4	小テスト①フィードバック 課題①発表	
	5	主な病態の栄養療法 ①低栄養 ②摂食・嚥下障害	
	6	4. 主な病態の栄養療法 ②フレイル ④サルコペニア ⑤メタボリックシンドローム 小テスト② 課題②	
	7	主な疾患の栄養療法 ①脳卒中 ②がん ③脊椎損傷 ④大腿骨近位部骨折 小テスト②フィードバック 課題②フィードバック	
	8	主な疾患の栄養療法 ⑤慢性閉塞性肺疾患 ⑥慢性心不全 ⑦褥瘡 まとめ	
教 科 書	柏下淳、若林秀隆 編著. リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第2版. 医歯薬出版.		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習: テキストを事前に熟読し、疑問点、質問事項をまとめておくこと (1時間) 復習: テキスト、配布資料、ノート等で理解を深めること (3時間)		
履 修 の 条 件	病態生理の復習をしておくこと。		
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡田晋吾 編著 キーワードでわかる臨床栄養 令和版 羊土社 2020年 ・イラスト 症例からみた臨床栄養学 第3版 福井富穂、他 著. 東京教学社 		
成 績 評 価 方 法	試験40%、課題30% 小テスト20% 授業への取り組み10% 課題の内容などで習熟度を評価する (3点×10回 3点: 重要点を十分理解している 2点: 重要点の理解があいまいである 1点: 項目の列挙にとどまっている)。小テストの結果について解説を配布してフィードバックする。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業後または、メールにて質問を受け付ける。最初の授業でメールアドレスを伝える。		

授 業 科 目 名	臨床薬理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	小野川 雅英 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	生体内における医薬品の標的である受容体や酵素といった様々な機能性分子と、化学物質である医薬品との相互作用を明らかにすることで医薬品の薬理作用機序を解明することができる。この科目では、薬理学の基本的な考え方を学修し、種々な薬物の薬理作用や有害事象についても学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	薬物を用いた疾病の治療と効果や副作用について理解し、薬物を投与した際の管理や観察における基本的な知識について習得する。 また、薬物によって起こりうる有害事象を理解し、理学療法・作業療法における注意点を説明できるようになる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	薬を理解するために必要な基礎知識①	
	2	薬を理解するために必要な基礎知識②	
	3	感染・炎症の制御と薬物療法	
	4	神経疾患の薬物療法	
	5	精神疾患の薬物療法	
	6	循環器系の薬物療法	
	7	疼痛の制御と薬物療法	
	8	注意すべき頻用される薬物	
教 科 書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学		
事前事後の予習復習	教科書の該当箇所を一読する、配布資料を確認する		
履 修 の 条 件			
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	期末試験 100%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後と、随時メールにて受け付ける		

授 業 科 目 名	救急管理実習	授 業 形 態	実験・実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期・後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	吉岡 邦展 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医療職として、病気やけが、災害などの緊急時に、自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師や救急隊に引き継ぐことは重要な役割である。この科目では、救命手当・応急手当に関する知識と技術を学修し、心肺蘇生、AED の使用方法、気道異物除去などについて学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不慮の事故や疾病に対して応急的に実施されるべき救急処置の技術や知識を習得する。 2. 怪我及び体調不良、健康障害による急性期症状を理解する。 3. 怪我及び体調不良、健康障害による急性期症状に対する対応を選択できる。 4. 救命処置のうち、人工呼吸について必要な知識と技術を習得する。 5. 救命処置のうち、胸骨圧迫について必要な知識と技術を習得する。 6. 救命処置のうち、自動体外式除細動器 (AED) について必要な知識と技術を習得する。 7. 受傷時及び体調不良時の応急処置のうち、適切な方法を選択し、対応できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス 救急法概論 1・急変・受傷時の急性期症状とその対応方法	
	2	救急法概論 2・心肺蘇生法 (CPR) の方法と適応、効果、AED の適応と使用方法、気道異物除去など	
	3	実技：手当の基本と一次救命処置 (BLS) 1	
	4	実技：一次救命処置 (BLS) 2	
	5	実技：一次救命処置 (BLS) 3 学習内容と実技のまとめと復習	
	6	実技：きずの手当 1	
	7	実技：きずの手当 2	
	8	実技：きずの手当 3	
	9	実技：骨折の手当 1	
	10	実技：骨折の手当 2 傷病者の搬送方法	
	11	実技：災害時の救護	
	12	実技：シミュレーション 1	
	13	実技：シミュレーション 2	
	14	実技：シミュレーション 3	
15	実技：シミュレーション 4		
教 科 書	配付資料、日本赤十字社救急法指導教本 (受講前に購入)		
事前事後の予習復習	事前に配付資料や指導教本に目を通しておくこと。実技は必ず復習をすること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	『BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2015 準拠』アメリカ心臓病協会出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (筆記 50%、実技 50%)		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	小嶋 裕・大倉 三洋		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの理念・定義を正しく理解し、リハビリテーションの専門職としての基本的知識について学修する。 ・具体的には、リハビリテーションの対象と範囲、国際生活機能分類 (ICF)、リハビリテーションの流れ、リハビリテーションにおけるチームアプローチ (関連職)、関連する医療福祉制度、地域リハビリテーション活動などの概要を把握する。 		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念と保健・福祉・医療との関わりを理解する。 2. リハビリテーションにおける障害の捉え方を理解する。 3. リハビリテーションの分野・過程を理解する。 4. リハビリテーション関連職 (チームアプローチ) を理解す。 5. 今日的に社会で求められているリハビリテーションの果たす役割を理解する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業オリエンテーション、リハビリテーションの起源・定義・理念	
	2	ノーマライゼーション理念・自立生活運動、健康の定義	
	3	国際疾病分類、国際障害分類、国際生活機能分類 (ICF) (小テスト①)	
	4	障害 (者) の概念、障害受容	
	5	リハビリの領域 (分野)、リハビリ医療の流れ、医療職種に関わる諸問題 (1) (インフォームド・コンセント、医療安全、守秘義務 (小テスト②))	
	6	医療職種に関わる諸問題 (2) (チーム医療、EBM)、ADLの概念	
	7	QOLの概念、障害の捉え方、関連する医療・福祉制度 (小テスト③)	
8	関連する医療・福祉制度、地域リハビリ活動、リハビリ・ケア、総括 (小テスト) ④		
教 科 書	上好昭孝・他 編著 『医学生・コメディカルのための手引き書 リハビリテーション概論』永井書店、他資料配付		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にシラバス内容を確認すること。 ・前もって授業内容のパワーポイント資料を配付する。 ・毎授業終了時に次回授業内容の概要を提示する。 ・小テストの実施、レポートの提出に留意する。 		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	参考書籍の一覧表を手渡すとともに、授業内で適宜に紹介または配布する。		
成 績 評 価 方 法	小テスト (4回, 20%)、レポート (1回, 10%)、定期試験 (70%) を総合評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	社会福祉概論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年次 前期・後期	必 修 ・ 選 択	必須
科 目 担 当 者	矢吹 了一 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会福祉は福祉を実現するための方法であり、理想と現実の間にある個々の生活における隔たりを解消・軽減するためには、社会的努力が求められる。社会福祉では、制度やサービスを役立つ形にするための援助を行う。これらの社会福祉に関する概要と、リハビリテーション専門職との協働等について学修する。具体的には、我が国の社会保障制度の概要と変遷、社会保障を取り巻く環境、社会福祉の基礎、公的扶助、などについてである。		
授 業 の 到 達 目 標	社会福祉 (社会保障を含む) とは何か、最近の制度・施策 (児童家庭福祉・障害者福祉・高齢者福祉等) に対する具体的内容を学ぶ。社会福祉関係職員と理学療法士・作業療法士・言語聴覚士との協同等についても考える。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	社会福祉の基礎① 社会福祉と社会保障を取り巻く近年の動向等 (人口動態を含む)	
	2	社会福祉の基礎② 国・自治体の組織、社会福祉従事者・担い手	
	3	公的扶助① 生活保護をめぐる状況の変化、被保護人員等の動向等	
	4	公的扶助② 生活困窮者自立支援対策 子どもの貧困対策等	
	5	児童家庭福祉① 児童家庭福祉と次世代育成支援	
	6	児童家庭福祉② 少子化対策の展開、要保護児童対策、ひとり親家庭支援	
	7	障害者福祉① 障害者保健福祉施策について	
	8	障害者福祉② 障害者の福祉、障害児の福祉	
	9	障害者福祉③ 障害者に対する社会手当等、障害者の雇用と支援	
	10	介護と高齢者福祉等① 介護保険制度について	
	11	介護と高齢者福祉等② 高齢者の福祉と医療、高齢者の住まい対策	
	12	地域福祉等① 地域福祉の推進「地域共生社会」の実現に向けた取り組み、ひきこもり対策等、権利擁護・成年後見制度	
	13	地域福祉等② 社会福祉と権利擁護・成年後見制度、住宅確保要配慮者への居住支援、消費生活協同組合およびその他事業	
	14	まとめ① 2040年を見据えた社会保障・働き方改革の課題と将来推計等 福祉の動向と介護の動向等まとめ①	
15	まとめ② 上記まとめ②		
教 科 書	資料配布による。		
事 前 事 後 の 予 習	復習は講義板書ならびに配布資料を参照して、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	社会福祉の動向2022 (中央法規) 社会保障入門2022 (中央法規) 国民の福祉と介護の動向2021/2021 (厚生労働統計協会) " 2022/2023 (") 2022年9月発行予定		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (70%) 授業態度 (10%) 出欠数 (20%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	地域包括ケア論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	川上 理子 (兼任)・森下 幸子 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	高齢者や障害者が、地域において自らが望む生活を送るためには、さまざまな複合的な課題に対してアプローチを行うことが必要となる。生活の目標とそのための課題解決に至る道筋と方向を明らかにし、地域にある資源を活用し、総合的かつ効率的に課題解決を図っていくプロセスとアプローチについて学修する。具体的には、個別のニーズを明らかにするアセスメントから、ニーズに対するフォーマル・インフォーマルサービスの概要と、チームアプローチに必要な保健・医療・福祉の連携のあり方について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムの考え方、現状と課題、構築の実際を理解することができる 2. 地域包括ケアシステムの展開におけるフォーマル・インフォーマルサービスの概要および多職種連携を理解することができる 3. 地域で暮らす高齢者や障害者の生活ニーズと課題を理解し、ICFモデルに基づくアセスメントと課題解決方法を理解することができる。 4. 理論と方法を活用し、具体的な事例の適用について考察することができる 		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	医療制度と介護保険制度	川上
	2	地域包括ケアシステムの考え方	川上
	3	地域包括ケアシステムの現状と課題	川上
	4	地域包括ケアシステム構築の実際	川上
	5	地域包括ケアシステムの展開 (1) サービスの概要	川上
	6	地域包括ケアシステムの展開 (2) 多職種連携	川上
	7	地域共生社会の考え方	川上
	8	地域で暮らす高齢者・障害者の生活ニーズと課題	森下
	9	ICFモデルに基づくアセスメント (1) 個別ニーズの抽出	森下
	10	ICFモデルに基づくアセスメント (2) 支援方針の検討	森下
	11	課題解決のためのケアマネジメント (1) 生活目標とサービス内容の検討	森下
	12	課題解決のためのケアマネジメント (2) サービスの選択と連携	森下
	13	生活志向的アプローチによる個別支援計画	森下
	14	事例演習	森下
15	事例演習	森下	
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	事前・事後学習については、授業計画にそって科目担当者より提示する		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	厚生 の 指 標 増 刊 国 民 衛 生 の 動 向 vol. 67 No. 9 2020/2021		
成 績 評 価 方 法	出席回数と定期試験を合わせて100%		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後、メールで (川上 kawakami@cc.u-kochi.ac.jp、森下 sachim@cc.u-kochi.ac.jp) 質問等を受け付けます。		

授 業 科 目 名	チーム連携論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	4年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	川村 博文 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段である。より良いサービスを実践するための多専門職種との有機的な連携と協業について学修する。具体的には、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム連携、チーム医療、チームワークの意義と関わる用語等を理解できる。 2. チーム連携の役割、歴史、目標・目的、理論を理解できる。 3. 多職種の専門性、リーダーシップ、リーダー、有効なチーム連携を理解できる。 4. 患者・家族・利用者を中心とした効果的なチーム連携を理解できる。 5. 医療・保健・福祉のチーム連携による効果的な治療などを理解できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	オリエンテーション、チーム連携、チーム医療、チームワークの意義など	
	2	チーム連携の役割、歴史、目標・目的	
	3	チーム連携における多職種の専門性、リーダーシップ、リーダー、有効性	
	4	チーム連携での協調性・論理的発言・積極態度、役割の共通理解	
	5	患者・家族・利用者を中心とした効果的なチーム連携	
	6	多職種チームカンファレンスの意義・役割・コミュニケーション・進め方	
	7	多職種チーム連携の目標設定とアプローチ	
8	チーム連携の総括・アンケートなど		
教 科 書	大嶋伸雄編著：はじめてのIPー連携を学びはじめる人のためのIP入門ー (ラーニングシリーズ IP (インタープロフェッショナル) /保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践)、共同医書出版社、2018年		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認、教科書の熟読。復習は、講義配布資料を参照・まとめる		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	柴崎智美ら編：保健・医療・福祉のための専門職連携教育プログラム：地域包括ケアを担うためのヒント、ミネルヴァ書房、2019年		
成 績 評 価 方 法	レポート課題 (100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法概論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	小嶋 裕		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法の定義および概念を踏まえ、理学療法士として必要な基本的知識や技術について学修する。具体的には、理学療法の定義、医療における位置づけ、業務内容、学問的体系、さらには今後の職域の可能性について論じ、将来、理学療法士となるための動機づけを行うとともに理学療法に関する基本的な知識について学修する。本講義は最初の理学療法専門科目であり、理学療法に対する意欲、興味関心、基礎的価値観を養う。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション医療の中での理学療法（士）の役割を理解する。 2. 理学療法の基本的理念、基本的知識（概要）を理解する。また、障害の分類と対象疾患を理解する。 3. 理学療法を構成する方法・技術の概要を理解する。 4. 理学療法の組織・倫理、活動分野、医療事故、法律などを理解する。 5. 理学療法士を目指す学生に必要な資質を養う。また、理学療法（士）の置かれた現状を理解し、今後の課題や今後の展望を把握する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業オリエンテーション（授業計画、評価方法、受講上での留意点など） リハビリ医療と理学療法、理学療法の概念と歴史 （リハ医学の概念、ノーマライゼーション、自立生活運動、QOLなど）	
	2	理学療法に関する法律・法規（PT・OT法）、理学療法の意義・役割	
	3	障害の分類、理学療法の対象者と対象疾患、理学療法方法 （障害の評価、理学療法の過程）	
	4	理学療法の方法1（運動療法、物理療法、義肢装具療法）	
	5	理学療法の方法2（日常生活動作指導、理学療法記録と報告書）	
	6	理学療法の組織・倫理、教育、活動分野 （医療分野、保健福祉分野、教育・研究分野、スポーツ分野、地域活動分野）	
	7	医療事故、リスクマネジメント、理学療法部門での事故防止、理学療法（士）に関連する法律（医療保険法、介護保険法、障害者総合支援法）	
	8	理学療法士に求められる資質 （職業意識、学習方法、コミュニケーション能力、対象者の理解）個人情報 の管理と対象者の権利、理学療法（士）の課題と展望	
教 科 書	田原弘幸・他 編 『理学療法概論』 神陵文庫		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	授業前にシラバス内容を確認すること。 前もって授業内容のパワーポイント資料を配布する。 毎授業終了前に、次回の授業内容の概要を解説する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	授業内で適宜に紹介する。 必要がある時は、適宜に配布する。		
成 績 評 価 方 法	小テスト（4回、20%）、課題レポート（1回、10%）、定期試験（70%）を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法概論演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	濱田 和範・清岡 学		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法の対象となる人が、自身の望む生活活動ができるようになるための援助方法と基本的態度について学修する。具体的には、障がい者の模擬体験を通して障害の特性を理解し、国際生活機能分類に基づいてニーズの焦点化や目標設定、プランニングなどを学び、他職種とのチーム医療について多角的な見地から議論を深め、医療・保健・福祉における理学療法の位置づけについて理解を深めるとともに、理学療法士としての基本的態度について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障がい者が実際の生活で制約を受けていることを説明することができる。 2. 対象者の生活像を国際生活機能分類に従って説明することができる。 3. 他職種との協業について説明することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス（授業計画、評価方法、受講上での留意点など） 障がい者模擬体験における学習ポイント	
	2	障がい者模擬体験1	
	3	障がい者模擬体験2	
	4	障がい者模擬体験3	
	5	障がい者模擬体験4	
	6	障がい者模擬体験5	
	7	障がい者模擬体験6	
	8	訪問リハビリテーション等における理学療法の実際	
	9	病院等における理学療法の実際	
	10	施設等における理学療法の実際	
	11	障害の捉え方（国際障害分類と国際生活機能分類）	
	12	事例検討（国際生活機能分類をまとめる）	
	13	災害リハビリテーション（災害時（前）にリハビリテーション職が行うこと）	
	14	災害リハビリテーション（トリアージの方法）	
15	災害リハビリテーション（避難所の運営方法）		
教 科 書	配付資料		
事前事後の予習復習	予習はシラバスの確認と配布資料を読んでおく。復習は授業内容と配布した資料と学んだことを確認しながらノートを整理する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	上田敏『目でみるリハビリテーション医学』東京大学出版社、庄本康治『理学療法概論』羊土社		
成 績 評 価 方 法	レポート（50%）、発表（30%）、演習態度（20%）を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法セミナー I (PBL)	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	宮崎 登美子・柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	全人間的復権を目指して行われているリハビリテーション医療の中で、理学療法士が担っている役割および今後期待されている事柄を理解する。特に理学療法を行う上で重要となる運動・動作に関する基礎科学について、グループワークを通してお互いに理解出来るように学びを共有する。また、理解できない語句や内容について文献検索し、自ら調べ理解する姿勢（基礎的課題解決能力）を身につけ、今後の学修へとつなげることを目標とする。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検索ができる。 2. 課題に対してグループ学習ができる。 3. 医学用語も含めて、基本動作について理解することができる。 4. グループでまとめた課題を発表することができる。 5. 課題発表においてディスカッションができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	医学に関する文献検索の方法, グループ学習	
	2	起き上がり動作について	
	3	グループ学習	
	4	グループ学習, 発表練習含む	
	5	課題発表・ディスカッション	
	6	起立・着座動作について	
	7	グループ学習	
	8	グループ学習	
	9	課題発表・ディスカッション	
	10	歩行について	
	11	グループ学習	
	12	グループ学習, 小テスト	
	13	グループ学習	
	14	課題発表・ディスカッション	
15	課題発表, ディスカッション, 小テスト		
教 科 書	石井慎一郎 編集 『動作分析 臨床活用講座』 MEDICALVIEW 社		
事前事後の予習復習	配布資料に基づき、運動・動作に関する知識を補充し、自己学習を積極的にすすめること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	課題提出 (10%)、小テスト (40%)、レポート課題 (50%)		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後 担当教員研究室		

授 業 科 目 名	理学療法セミナーⅡ (PBL)	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	稲岡 忠勝、明崎 禎輝		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	社会人としての基本的態度を身につけるとともに、理学療法の対象者への接し方について学修する。礼儀正しい態度や言葉遣いを修得するとともに、治療者として必要なコミュニケーション能力についての知識を得て、演習を中心とした技術学修を行う。具体的には、コミュニケーションの実際として、聞き取りやすい発音と話し方、身だしなみと態度・表情、報告・連絡・相談など、臨床場面を想定した技能について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションについて理解する。 2. 社会人として相応しいコミュニケーション能力を備える。 (聴く力・伝える力を理解する、適切な礼儀や言葉遣いを理解し、実行できる) 3. 医療従事者として相応しいコミュニケーション能力を備える (医療従事者として礼儀・作法・言葉遣いなどを理解し、実行できる) 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	講義及び演習オリエンテーション、講義：コミュニケーションについて	
	2	講義及び演習：非言語コミュニケーションⅠ	
	3	講義及び演習：非言語コミュニケーションⅡ	
	4	講義及び演習：言語コミュニケーションⅠ	
	5	講義及び演習：言語コミュニケーションⅡ	
	6	演習：医療従事者としてのコミュニケーションⅠ	
	7	演習：医療従事者としてのコミュニケーションⅡ	
	8	講義：医療面接について	
	9	演習：医療面接Ⅰ	
	10	演習：医療面接Ⅱ	
	11	講義及び演習：清潔動作	
	12	講義及び演習：個人情報保護について	
	13	総合演習Ⅰ	
	14	総合演習Ⅱ	
15	総合演習Ⅲ		
教 科 書	配付資料		
事前事後の予習復習	事前：前回の講義及び演習を演習ノート他で確認しておくこと。 事後：講義毎の内容を復習し、実践することにより修得に取り組むこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	講義及び演習態度 (30%)、課題提出 (20%)、演習発表内容 (50%)		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後 各教員研究室 変更する場合がありますので、研究室入り口の掲示で時間帯等を確認のこと。		

授 業 科 目 名	臨床運動学	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	山崎 裕司		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	基礎運動学や運動学演習で学んだ正常な身体運動の基礎知識をもとに、主に支持基底面と重心、各関節の動き、各関節に作用する外力と内力による関節モーメント、筋による制御などの観点から身体運動がどのようなメカニズムで成り立っているのかを理解する。そのうえで、主な関節の関節可動域制限や筋力低下による動作障害の基本的な機序を学び、症例の基本動作を運動学的に分析し、問題点の抽出と治療計画に応用可能となることを目標とする。対象とする動作を動画によって提示し、起居、端座位・立位姿勢、椅子からの立ち上がり、移乗、歩行等について分析方法を学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	健常者・障害者の身体運動を運動学的に分析できる。基本動作障害の分析ができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	関節可動域障害	
	2	筋短縮と関節可動域	
	3	日常生活動作に必要な関節可動域	
	4	関節可動域障害による動作異常	
	5	筋力低下の原因と病態1（関節可動域に関する小テスト）	
	6	筋力低下の原因と病態2	
	7	筋力と動作能力の関連	
	8	日常生活動作に必要な筋力	
	9	バランス障害の原因分析	
	10	日常生活動作とバランス能力の関連	
	11	動作分析、動作障害の分析	
	12	歩行の運動学復習	
	13	歩行の動作分析	
	14	異常歩行の分析（片麻痺患者）	
15	異常歩行の分析（その他）（動作障害・異常歩行に関する小テスト）		
教 科 書	山崎裕司・山本淳一（編）リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ（第3版）三輪書店、2019		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	授業終了時に次回の授業の予習内容を伝える。復習は、授業で行った実技内容をもう一度練習する。		
履 修 の 条 件			
参 考 文 献	山崎裕司（編）「理学療法士・作業療法士のためのできるADL練習」南江堂2016		
成 績 評 価 方 法	小テスト（筆記：50%）、期末テスト（筆記：50%）の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	在室時随時		

授 業 科 目 名	理学療法管理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	田頭 勝之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	医療・福祉の現場で理学療法を行う上で必要となる理学療法士としての倫理と管理・運営について学修する。具体的には、患者のリスク管理、リスクマネジメントにおける記録・報告の方法、感染の基礎と予防の実態、職場運営管理、機材管理、緊急時対応について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の現状と職場について理解できる。 2. 目指すべき理学療法士像を考えることができる。 3. 理学療法士の倫理観を養うことができる。 4. 組織とチームアプローチを理解できる。 5. 医療安全とリスク管理を理解できる。 6. 診療保険と介護保険の仕組みを知ることができる。 7. コミュニケーションスキルを身につけることができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	理学療法の現状と職場管理	
	2	理学療法士としての倫理	
	3	組織とチームアプローチ	
	4	医療保険制度と診療報酬	
	5	介護保険制度と介護報酬	
	6	社会人のマナーとしてのコミュニケーション	
	7	臨床で役立つコミュニケーションスキル	
	8	目指すべき理学療法士像	
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	授業終了時に次回の予告を行うので、配布した資料に目を通しておくこと。復習は授業で学んだ事を確認しておくこと。次回授業開始時に理解できているかの確認を行う。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	上好昭孝、田島文博 編著 『リハビリテーション概論』第3版 永井書店 細田多穂、半田健壽、中山彰一、中屋久長 編著 『理学療法士プロフェッショナル・ガイド』 文光堂		
成 績 評 価 方 法	課題レポート (100%)、8回の授業終了後に提出してもらい、内容を精査し評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法管理実務	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	松木 秀行 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	患者・障害者等に対して一定水準以上の治療等のサービスを効果的に提供するために必要な理学療法マネジメントの知識、職業倫理を含む理学療法教育のあり方や理学療法にかかわる各種の記録・報告などの実践的な内容について学ぶ。また、医療・介護サービス技術の価値を裏付けるものとしての保険制度とその報酬の仕組みを理解し、コスト感覚をもつことの重要性について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法に必要な法律、職業倫理、諸制度を理解することができる。 2. 制度に基づいた実践的な理学療法業務を理解することができる。 3. 仕事をしていく上でマネジメントの重要性を理解することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	マネジメントの重要性	
	2	職業人としての規律	
	3	リスク管理	
	4	マネジメント① 概略	
	5	医療保険・介護保険制度①	
	6	医療保険・介護保険制度②	
	7	マネジメント② 組織管理	
8	マネジメント③ 実務		
教 科 書	「リハビリテーション管理学」 羊土社		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習はシラバスの確認とテキストを読んでおく。復習は、講義板書の要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	大庭潤平 編著「作業療法管理学」第2版入門 厚生労働省令和2年、4年診療報酬改定資料 回復期リハビリテーション病棟協会 セラピスト10か条・5か条		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	理学療法評価学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	重島 晃史		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法を実施するにあたって必要となる対象者の基礎的な情報の種類とその収集方法について学修する。具体的には、医学記録の判読と観察、代表的な検査測定法と適応・意義、面接によって対象者の全体像をいかにとらえるかについて、一部演習を交えながら学修を進める。また、バイタルサインから対象者の全身状態を把握することの意義と方法についても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念と構造を説明できる。 2. 理学療法評価の目的が説明できる。 3. 理学療法評価の構成要素および評価の進め方が理解できる。 4. 理学療法における代表的な検査測定法を列挙し、その概要を説明できる。 5. バイタルサインの検査およびその解釈ができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業のオリエンテーション、障害の概念と構造	
	2	理学療法評価の位置づけ	
	3	評価の構成要素および評価の進め方① 間接的情報収集（カルテ情報、他部門情報、X線・CT・MRI等の画像情報など）	
	4	評価の構成要素および評価の進め方② 直接的情報収集（面接、検査測定、動作観察、画像を用いた動作分析など）	
	5	理学療法における代表的な検査測定法①	
	6	理学療法における代表的な検査測定法②	
	7	バイタルサイン①	
8	バイタルサイン②		
教 科 書	千住秀明・監修『理学療法評価法第3版』神陵文庫		
事前事後の予習復習	必要に応じて授業終了時に次回講義に関する予習内容を提示する。復習では授業で実施した課題を再度振り返り実施する。		
履 修 の 条 件	特記事項なし		
参 考 文 献	阿部正和、他『バイタルサイン』医学書院		
成 績 評 価 方 法	授業態度（10%）、小テスト（40%）、定期試験（50%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時（要予約）		

授 業 科 目 名	理学療法測定実習 I	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	2 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	稲岡 忠勝、明崎 禎輝		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	各種運動障害の評価に共通した基本的評価法である形態測定、関節可動域測定を中心にそれらの理論と実際について学修する。各測定の方法、適応、意義などを講義したのち、学生同士でペアとなって実習を行う。実習では、身体部位の固定法、機器の使用法と起こりやすい間違い、代償動作等について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種運動障害に対する評価の意義を学び、各種検査法の記載法ならびに検査結果の妥当性を理解する。 2. 身体指標点の触診が正確に実施できる。 3. 形態測定の意義と目的を理解し、測定を実施することができる。 4. 関節可動域測定の意義と目的を理解し、測定を正確に実施することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	形態測定法の理論と実際	
	2	身体指標点の触診	
	3	形態測定法の実技 1 (身長、体重、座高など)	
	4	形態測定法の実技 2 (胸囲、腹囲、指極など)	
	5	形態測定法の実技 3 (四肢長)	
	6	形態測定法の実技 4 (四肢周径)	
	7	関節可能域測定の理論と実際	
	8	関節可動域測定の実技 1 (下肢)	
	9	関節可動域測定の実技 2 (下肢)	
	10	関節可動域測定の実技 3 (下肢)	
	11	関節可動域測定の実技 4 (下肢)	
	12	関節可動域測定の実技 5 (頸部・体幹)	
	13	関節可動域測定の実技 6 (上肢)	
	14	関節可動域測定の実技 7 (上肢)	
15	関節可動域測定の実技 8 (上肢)		
教 科 書	千住秀明 監修『理学療法評価法』第 3 版神陵文庫		
事前事後の予習復習	準備学習として、授業前にテキストを読み、疑問点について調べてくること。また、授業後に各種検査法の練習を繰り返し行い、技術の習得に取り組むこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	奈良勲 監修 標準理学療法学『理学療法評価学』 医学書院 細田多穂 監修 『理学療法評価学テキスト』 南江堂 細田多穂、柳澤健 編 『理学療法ハンドブック』 協同医書出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (筆記 50%・実技 50%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法測定実習Ⅱ	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員 名	稲岡 忠勝、明崎 禎輝		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法に関わる主要な評価項目の手技（技術）および記録法について学修する。具体的には、反射・反応検査、知覚検査、疼痛検査などの検査・測定の目的と方法について学修する。本講義では学生同士でペアとなって実習を行い、健常者の多様性についても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 反射・反応検査の意義と目的を理解し、検査を実施することができる。 2. 感覚検査の意義と目的を理解し、検査を実施することができる。 3. 疼痛に関する評価の意義と目的を理解し、検査を実施することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	反射・反応検査の理論と実際	
	2	反射・反応検査の実技1（深部反射）	
	3	反射・反応検査の実技2（深部反射）	
	4	反射・反応検査の実技3（深部反射）	
	5	反射・反応検査の実技4（表在反射）	
	6	反射・反応検査の実技5（表在反射）	
	7	反射・反応検査の実技6（病的反射）	
	8	反射・反応検査の実技7（病的反射）	
	9	反射・反応検査の実技8（病的反射）	
	10	感覚検査の理論と実際	
	11	感覚検査の実技1（表在感覚）	
	12	感覚検査の実技2（深部感覚）	
	13	感覚検査の実技3（複合感覚）	
	14	疼痛の評価の理論と実際	
15	疼痛検査の実技		
教 科 書	千住秀明 監修 理学療法テキストⅡ『理学療法評価法』第3版 神陵文庫 田崎義昭・他『 ベッドサイドの神経の診かた』 南山堂		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	準備学習として、授業前にテキストを読み、疑問点について調べてくること。また、授業後に各種検査法の練習を繰り返し行い、技術の習得に取り組むこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	奈良勲 監修 標準理学療法学『理学療法評価学』 医学書院 細田多穂 監修 『理学療法評価学テキスト』 南江堂 細田多穂、柳澤健 編 『理学療法ハンドブック』 協同医書出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記50%・実技50%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法検査実習 I	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	片山 訓博、柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法に関わる主要な評価項目の手技（技術）および記録法について学修する。具体的には、筋触診、筋力検査などの検査の目的と方法について学修する。本講義では学生同士でペアとなって実習を行い、健常者の多様性についても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筋力検査の目的と意義、特に徒手筋力検査法（以下、MMT）の方法や段階付け、記録法等について説明ができる。 2. 理学療法士に必要な筋触診技術を修得できる。 3. MMTの段階0・1の検査を実施し、正しい判定をすることができる。 4. MMTの段階2の検査を実施し、正しい判定をすることができる。 5. MMTの段階3・4・5の検査を実施し、正しい判定をすることができる。 6. 模擬症例に対してMMTを実施し、その判定結果を適切に解釈し障害部位の推測ができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業オリエンテーション 筋力検査の基礎	
	2	筋の触診〔下肢・体幹〕	
	3	筋の触診〔上肢・肩甲帯・頸部〕	
	4	MMT段階0・1の実技〔下肢・体幹〕	
	5	MMT段階0・1の実技〔上肢・肩甲帯・頸部〕	
	6	MMT段階2の実技〔下肢・体幹〕	
	7	MMT段階2の実技〔上肢・肩甲帯・頸部〕	
	8	MMT段階3・4・5の実技①〔下肢・体幹〕	
	9	MMT段階3・4・5の実技②〔下肢・体幹〕	
	10	MMT段階3・4・5の実技③〔下肢・体幹〕	
	11	MMT段階3・4・5の実技①〔上肢・肩甲帯・頸部〕	
	12	MMT段階3・4・5の実技②〔上肢・肩甲帯・頸部〕	
	13	MMT段階3・4・5の実技③〔上肢・肩甲帯・頸部〕	
	14	模擬症例に対するMMTの実技	
15	MMTのまとめ		
教 科 書	津山直一 訳 『新・徒手筋力検査法』 協同医書出版 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習内容は毎授業にて説明する。主にMMTの教科書の指定部分にアンダーラインを引いて熟読してくること。復習は教科書、配布資料に授業での学習内容を追記するとともに、実技については制限時間内に全ての検査項目が適切に実施できるよう技術練習を反復しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	奈良勲 監修 標準理学療法学『理学療法評価学』 医学書院 米本恭三・他 編 『リハビリテーションにおける評価 Vor. 2』 クリニカル・リハビリテーション別冊 和才嘉昭・他 リハビリテーション医学全書5『測定と評価』 医歯薬出版 岩倉博光 監修 『理学療法評価法』 金原出版 細田多徳、柳澤健 編 『理学療法ハンドブック』 協同医書出版		
成 績 評 価 方 法	提出物（5%）、小テスト（25%）、定期試験（70%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法検査実習Ⅱ	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員 名	片山 訓博、柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法に関わる主要な評価項目の手技（技術）および記録法について学修する。具体的には、筋トーンス検査、運動協調性検査、脳神経検査、高次脳機能検査などの検査の目的と方法を学ぶ。本講義では学生同士でペアとなって実習を行い、健常者の多様性についても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症、意識障害の検査を適切に実施し、説明することができる。 2. 筋トーンス検査・協調性検査を適切に実施し、説明することができる。 3. 脳神経検査を適切に実施し、説明することができる。 4. 高次脳機能検査（失語・失行・失認）を適切に実施し、説明することができる。 5. 片麻痺機能検査（Brunnstrom test）を適切に実施し、説明することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、認知症、意識障害の検査	
	2	筋トーンス検査・協調性検査①	
	3	筋トーンス検査・協調性検査②	
	4	筋トーンス検査・協調性検査③	
	5	筋トーンス検査・協調性検査④	
	6	脳神経検査①	
	7	脳神経検査②	
	8	脳神経検査③	
	9	高次脳機能検査（失語・失行・失認）①	
	10	高次脳機能検査（失語・失行・失認）②	
	11	高次脳機能検査（失語・失行・失認）③	
	12	片麻痺機能検査（Brunnstrom test）①	
	13	片麻痺機能検査（Brunnstrom test）②	
	14	片麻痺機能検査（Brunnstrom test）③	
15	その他の評価		
教 科 書	田崎義昭・他 『ベッドサイドの神経の診かた』 南江堂 千住秀明・他 編 『理学療法評価法』 神陵文庫 配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習内容は毎授業にて説明し、指定部分については熟読しておくこと。復習は教科書、配布資料に授業での学習内容を追記しておくこと。また、小テストは実技内容も含むため、全ての検査項目が適切に実施できるよう技術練習を反復しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	奈良勲 監修 標準理学療法学『理学療法評価学』 医学書院 米本恭三・他 編 『リハビリテーションにおける評価 Vor. 2』 クリニカル・リハビリテーション別冊 和才嘉昭・他 リハビリテーション医学全書5『測定と評価』 医歯薬出版 岩倉博光 監修 『理学療法評価法』 金原出版 細田多穂、柳澤健 編 『理学療法ハンドブック』 協同医書出版		
成 績 評 価 方 法	小テスト（40%）、定期試験（60%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	電気診断学	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大倉 三洋		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	心電図・筋電図・脳波を学ぶ上での基礎知識および方法について学修する。具体的には、心電図では生体の電気現象の特性と測定法、循環器概論、心電図の意義と各誘導方法、心電図に必要な生理解剖、心電図のみかたと分析方法、心電図を用いたリスク管理など、筋電図については、筋電図の基礎知識、筋電図のみかたと分析方法など、脳波は脳波記録方法、脳波の分類とみかたなどについて学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体の電気現象の基礎知識を理解する。 2. 筋電図の基礎知識、筋電図の分析・評価について理解する。 3. 心電図の基礎知識を理解し、その目的と意義もあわせて理解する。 4. 心電図の正常異常を理解し、虚血や不整脈などの身体活動リスクを判断できる。 5. 脳波の基礎知識を理解し、その分類と正常異常を理解する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	総論：筋電図の基礎知識（生体の電気現象を含む）	
	2	各論Ⅰ：筋電図のみかた、分析方法について	
	3	各論Ⅱ：心電図の基礎（循環器概論、電気生理学概論、意義、誘導方法）	
	4	各論Ⅲ：正常心電図について（各波形の名称や意味、正常値）	
	5	各論Ⅳ：虚血性心疾患の心電図とリスク管理	
	6	各論Ⅴ：不整脈の心電図とリスク管理①	
	7	各論Ⅵ：不整脈の心電図とリスク管理②	
8	各論Ⅶ：脳波の基礎（正常波形と分類、経時的変化、異常波形）		
教 科 書	配付資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業開始前にシラバス内容を確認する。 ・ 講義毎の内容を資料で復習し、知識の修得に取り組むこと 		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	授業内で適宜配布又は紹介する。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後 変更する場合がありますので、研究室入り口の掲示で時間帯等確認のこと。		

授 業 科 目 名	運動療法学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15 回
履 修 年 次	2 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	柳澤 健		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	運動療法学は、理学療法の中において大きな柱として位置づけられており、解剖学、運動学、生理学などの専門基礎知識を背景に、理学療法士が得意とする分野である。本講義では、基本的な運動療法を適切に行うための知識と技術について学修する。総論として、運動療法の定義、対象、理論、種類、機器について学び、各論として、基本的な各種運動療法（関節可動域運動、筋力増強運動、持久力増強運動、協調性運動、その他の領域の運動療法）について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法の原理について理解できる。 2. 運動の分類について理解できる。 3. 関節可動域訓練の理論と分類について理解できる。 4. 筋力増強訓練の理論と分類について理解できる。 5. 協調性訓練の理論と分類について理解できる。 6. 全身調整訓練の理論と分類について理解できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	運動療法の概念・定義、位置付け	
	2	結合組織の構造と機能、関節の構造と機能	
	3	骨格筋の構造と機能、神経系の構造と機能	
	4	組織の修復過程、運動器の修復および再生の実際とその機序、浮腫の発生、痛みの発生	
	5	基本的運動	
	6	運動療法機器 1	
	7	運動療法機器 2	
	8	運動療法機器 3	
	9	関節可動域運動 1	
	10	関節可動域運動 2	
	11	筋力維持増強運動 1	
	12	筋力維持増強運動 2	
	13	協調性運動	
	14	全身調整運動 1	
15	全身調整運動 2		
教 科 書	柳澤 健 編 運動療法学 改訂第2版 金原出版		
事前事後の予習復習	関節可動域訓練においては解剖学の復習を、筋力増強訓練においては生理学の復習を特に実施しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	大井淑雄、博田節夫 リハビリテーション医学全書7『運動療法』 医歯薬出版 服部一郎、細川忠義、和才嘉昭 『リハビリテーション技術全書』 医学書院 岩倉博光 監修 『理学療法士のための運動療法』 金原出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記 60%）レポート（20%）、小テスト（20%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	運動療法学実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	柳澤 健		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法の対象疾患は多岐に渡り、それらに対する運動療法も他種多様である。しかし、系統だった一連の運動療法は、個々の基本的な運動療法手技の延長上にある。そこで、運動療法学で学修した運動療法の中で、特に基本的なものについて実習を行う。具体的には、人への触れかた、四肢の把持のしかた、体の支えかたに始まり、徐々に人の体を操作する内容へ進んでいく。その結果として、関節可動域運動やストレッチング、基本動作練習へと繋げて学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節可動域運動の基本的な手技ができるようになる。 2. 筋力維持増強運動の基本的な手技ができるようになる。 3. 協調性運動の基本的な手技ができるようになる。 4. 全身調整運動の基本的な手技ができるようになる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	関節可動域運動Ⅰ（他動関節可動域運動、自動介助運動、自動自由運動、自動抵抗運動）の基本的な手技①	
	2	関節可動域運動Ⅰ（他動関節可動域運動、自動介助運動、自動自由運動、自動抵抗運動）の基本的な手技②	
	3	関節可動域運動Ⅰ（他動関節可動域運動、自動介助運動、自動自由運動、自動抵抗運動）の基本的な手技③	
	4	関節可動域運動Ⅰ（他動関節可動域運動、自動介助運動、自動自由運動、自動抵抗運動）の基本的な手技④	
	5	関節可動域運動Ⅱ（伸張運動）の基本的な手技①	
	6	関節可動域運動Ⅱ（伸張運動）の基本的な手技②	
	7	関節可動域運動Ⅱ（伸張運動）の基本的な手技③	
	8	関節可動域運動Ⅱ（伸張運動）の基本的な手技④	
	9	筋力維持増強運動（徒手）の基本的な手技①	
	10	筋力維持増強運動（徒手）の基本的な手技②	
	11	筋力維持増強運動（徒手）の基本的な手技③	
	12	筋力維持増強運動（徒手）の基本的な手技④	
	13	協調性運動の基本的な手技①	
	14	協調性運動の基本的な手技②	
15	全身調整運動の基本的な手技		
教 科 書	柳澤 健 編 運動療法学（理学療法学ゴールド・マスター・テキスト2） MEDICALVIEW社		
事前事後の予習復習	関節可動域運動Ⅰ・Ⅱにおいては解剖学の復習を、筋力維持増強運動においては生理学の復習を特に実施しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	大井淑雄、博田節夫 リハビリテーション医学全書7『運動療法』 医歯薬出版 服部一郎、細川忠義、和才嘉昭 『リハビリテーション技術全書』 医学書院 岩倉博光 監修 『理学療法士のための運動療法』 金原出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記・実技60%）、レポート（20%）、小テスト（20%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	物理療法学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	山本 双一 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>(概要) 物理療法は、水、温熱、光線、電気などの物理的手段を用いた治療手技であり、患部の疼痛や循環障害を改善することを目的としている。本講義では、これらの作用機序と適応・禁忌について論じた後、各々の治療器具の特性と操作方法について学修する。各種の物理療法を実施するために、物理療法と関連する物理学および生理学的事項を理解し、物理療法が生体に及ぼす作用、適応と禁忌、リスク管理の知識についても学修する。</p> <p>(目的) 物理療法の治癒理論と、それぞれの治療法についての基本的な知識を学修する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<p>講義にて、物理療法を臨床で用いるための、必要な知識を修得する。 具体的には、物理療法に必要な物理学と生理学を学び、治癒理論を理解したうえで、物理療法の作用・効果や禁忌・リスク管理について学修する。</p>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	定義・分類と機器の紹介	
	2	物理療法のための物理学と生理学	
	3	物理療法の効果と適応	
	4	物理療法のリスク管理と禁忌	
	5	温熱療法の分類	
	6	ホットパック・パラフィン	
	7	赤外線療法・レーザー光線	
	8	極超短波療法・超短波療法	
	9	超音波療法	
	10	水治療法	
	11	寒冷療法	
	12	紫外線療法	
	13	牽引療法	
	14	電気診断法・低周波電流治療法	
15	振動刺激療法とマッサージ		
教 科 書	庄本康治 編 「PT・OT ビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法」 羊土社		
事前事後の予習復習	印刷物と教科書を解読のこと		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	印刷物『物理療法のすすめ』		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (筆記試験 100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	物理療法学実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	明崎 禎輝、山本 双一（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	物理療法機器の実際の操作方法および使用方法について学修する。特に温度や出力の適正值の設定や禁忌事項の遵守といった安全性の確認に重点をおいて実習を通じて身に付ける。具体的には、温熱療法・寒冷療法・水治療法・光線療法・電気・電磁波療法・牽引療法・超音波療法について機器を用いて実習する。さらに症状に適した物理療法の処方とリスク管理について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 温熱療法の治療手技獲得及び体験、生体機能の変化を説明することができる。 2. 寒冷療法、紫外線療法、牽引療法の治療手技獲得及び体験、生体機能の変化を説明することができる。 3. 電気診断法、低周波電流治療法、振動刺激療法とマッサージの治療手技獲得及び体験、生体機能の変化を説明することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	温熱療法の治療手技獲得及び体験① (ホットパック、パラフィン、赤外線療法)	
	2	温熱療法の治療手技獲得及び体験② (ホットパック、パラフィン、赤外線療法)	
	3	温熱療法の治療手技獲得及び体験③ (赤外線療法、極超短波療法、超短波療法、超音波療法)	
	4	温熱療法の治療手技獲得及び体験④ (赤外線療法、極超短波療法、超短波療法、超音波療法)	
	5	寒冷療法の治療手技獲得及び体験①	
	6	水治療法の治療手技獲得及び体験①	
	7	水治療法の治療手技獲得及び体験②	
	8	光線療法の治療手技獲得及び体験①	
	9	光線療法の治療手技獲得及び体験②	
	10	電気・電磁波療法の治療手技獲得及び体験① (電気診断法、低周波電流治療法)	
	11	電気・電磁波療法の治療手技獲得及び体験② (電気診断法、低周波電流治療法)	
	12	牽引療法の治療手技獲得及び体験①	
	13	牽引療法の治療手技獲得及び体験②	
	14	振動刺激療法、マッサージの治療手技獲得及び体験①	
15	振動刺激療法、マッサージの治療手技獲得及び体験②		
教 科 書	Camer. M.H. 『EBM物理療法』原著第4版 医歯薬出版		
事前事後の予習復習	講義にて修得した物理療法に必要な知識を必ず復習しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	講義資料（印刷物）『物理療法のすすめ』		
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記30%・実技40%）、レポート（30%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法日常生活活動学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	山崎 裕司		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	日常生活で基本として行われる食事、排泄、更衣、移動などの代表的な動作（日常生活活動：ADL）を取り上げ、それらの動作の分析・評価方法と障害を有する対象者のトランスファーや歩行補助器の使用など生活自立を目指した指導方法について学修する。また、生活の質についての基本的な考え方についても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	日常生活動作、日常生活関連動作、生活の質の概念について説明できる。 各種日常生活動作の障害を評価できる。 日常生活動作障害への介入方法を説明できる。 歩行補助具、車椅子の機能について説明できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	日常生活動作，基本的動作の概念	
	2	日常生活関連動作と生活の質	
	3	日常生活動作障害とは	
	4	日常生活動作障害の原因	
	5	日常生活動作障害の評価（1）FIMとBarthel Index	
	6	日常生活動作障害の評価（2）課題分析	
	7	日常生活動作障害の評価（3）原因分析	
	8	歩行補助具（1）：名称と機能	
	9	歩行補助具（2）：使用方法	
	10	車椅子（1）：名称と機能	
	11	車椅子（1）：適合と処方	
	12	歩行補助具と車椅子のまとめ、小テスト	
	13	日常生活動作障害への介入方法（1）総論，知識の問題への介入	
	14	日常生活動作障害への介入方法（2）技術，動機づけの問題への介入	
15	日常生活動作障害への介入方法（3）事例検討		
教 科 書	「理学療法士・作業療法士のためのできる！ADL練習」南江堂 「日常生活活動学（第5版）」医学書院		
事前事後の予習復習	授業終了時に次回の授業の予習内容を伝える。復習は、授業で行った内容をノートにまとめる。		
履 修 の 条 件			
参 考 文 献	「リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ（第3版）」三輪書店2019		
成 績 評 価 方 法	小テスト（20%）、提出課題（20%）、期末テスト（筆記：60%）の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	在室時随時		

授 業 科 目 名	理学療法日常生活活動学実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	山崎 裕司、宮崎登美子		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	起居動作や移乗・移動動作などを実際に行うことによって、動作障害に対する ADL 動作指導や介助法指導の要点について学修する。日常生活活動学で学んだ生活基本動作の分析・評価および指導方法について実習を通して学修する。本授業を通じて、介助者、被介助者、様々な生活環境を推測でき、適切な動作を選択、指導ができるように学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的動作の全介助、部分介助が実施できる。 2. 基本的動作能力の課題分析とそれに基づく評価が実施できる。 3. 基本的動作を再獲得させるための動作練習方法が立案・実施できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、介助の基本原理	
	2	全介助（寝返り、起き上がりなど床上動作）	
	3	全介助（立ち上がり、車いすーベッド間移乗動作）	
	4	全介助（片麻痺の床上動作と移乗動作）	
	5	全介助（まとめ）	
	6	部分介助（寝返り、起き上がりなど床上動作）	
	7	部分介助（立ち上がり、車いすーベッド間移乗）	
	8	部分介助（片麻痺の床上動作と移乗）	
	9	部分介助（まとめ）	
	10	基本的動作の課題分析と評価チャートの作成	
	11	基本的動作能力の評価実習（床上動作と移乗動作）	
	12	動作練習の実際（プロンプト・フェイディング法）	
	13	動作練習の実際（段階的難易度設定、連鎖化の技法）	
	14	動作練習の実際（シェイピングと強化刺激の整備）	
15	動作学習体験（箸操作、模擬大腿義足歩行など）		
教 科 書	山崎裕司 編『理学療法士・作業療法士のためのできる ADL 練習』 南江堂		
事前事後の予習復習	授業終了時に次回の授業の予習内容を伝える。復習は、授業で行った実技内容をもう一度練習する。		
履 修 の 条 件	ジャージ着用		
参 考 文 献	山崎裕司、山本淳一 編 『リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ』三輪書店		
成 績 評 価 方 法	小テスト（実技 30%）、提出課題（20%）、定期試験（筆記・実技：50%）の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	在室時随時		

授業科目名	内部障害理学療法実習	授業形態	実習
単位数	2	回数	30回
履修年次	3年前期	必修・選択	必修
科目担当者	山崎 裕司、宮川 哲夫、片山 訓博		
授業の概要・目的	内部障害（循環機能障害、呼吸機能障害、腎機能障害、代謝障害など）の定義や特徴について正しく理解し、内部障害の原因疾患の理解と内部障害に対する理学療法の理論を習得し、臨床応用できる知識を系統的に学修するために、理学療法士が行うことのできる内部障害の評価、運動療法、生活指導、リスク管理の具体的な方法について学修する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓の解剖学・生理学が説明できる。 2. 心疾患の病態と治療が説明できる。 3. 心機能の評価ができる。 4. 心疾患のリハビリテーションを説明でき、実施できる。 5. 呼吸不全の病態と治療について説明できる。 6. 呼吸器疾患患者の評価ができる。 7. 呼吸器疾患のリハビリテーションを説明でき、実施できる。 8. 糖尿病の病態と治療について説明できる。 9. 糖尿病患者の評価ができる。 10. 糖尿病の運動療法を実施できる。 		
授業計画	回	内容	担当
	1	授業ガイダンス、心臓の解剖・生理学 1	山崎
	2	心臓の解剖・生理学 2	山崎
	3	心疾患の病態と治療 1（虚血性心疾患の病態と治療法）	山崎
	4	心疾患の病態と治療 2（虚血性心疾患の病態と治療法）	山崎
	5	心疾患の病態と治療 3（虚血性心疾患の病態と治療法）	山崎
	6	循環のフィジカルアセスメント 1（画像診断などデータの診方）	山崎
	7	循環のフィジカルアセスメント 2（画像診断などデータの診方）	山崎
	8	循環のフィジカルアセスメント 3（画像診断などデータの診方）	山崎
	9	狭心症・心筋梗塞の運動機能評価 1（運動負荷試験など）	山崎
	10	狭心症・心筋梗塞の運動機能評価 2（運動負荷試験など）	山崎
	11	虚血性心疾患や心不全患者の運動療法の実際 1	山崎
	12	虚血性心疾患や心不全患者の運動療法の実際 2	山崎
	13	呼吸不全の病態と治療 1（呼吸不全の分類や内科的治療）	宮川、片山
	14	呼吸不全の病態と治療 2（呼吸不全の分類や内科的治療）	宮川、片山
	15	呼吸器疾患の評価と実際 1（聴診器の扱い方など）	宮川、片山
	16	呼吸器疾患の評価と実際 2（患者シミュレーションなど）	宮川、片山
	17	呼吸器疾患の評価と実際 3（血液ガス/呼吸機能など）	宮川、片山
	18	呼吸器疾患の評価と実際 4（胸郭拡張差など）	宮川、片山
	19	呼吸器疾患患者の運動療法 1（急性期の離床）	宮川、片山
	20	呼吸器疾患患者の運動療法 2（慢性期の ADL 指導/HRQL）	宮川、片山
	21	排痰手技と吸引操作 1（呼吸リハの手技）	宮川、片山
	22	排痰手技と吸引操作 2（吸引操作の理論と実際）	宮川、片山
	23	人工呼吸器について（人工呼吸機能モードとウイニング）	宮川、片山
	24	糖尿病の病態と治療（I型II型の区別、薬）	宮川、片山
	25	血糖管理の重要性と評価 1（合併症/インスリンなど）	宮川、片山
	26	血糖管理の重要性と評価 2（合併症/腎症など）	宮川、片山
	27	糖尿病と運動療法 1（非インスリン依存の血糖降下作用）	宮川、片山
	28	糖尿病と運動療法 2（運動療法の効果）	宮川、片山
	29	血糖値測定と運動療法の実際 1（血糖値の実習/測定の意義）	宮川、片山
30	血糖値測定と運動療法の実際 2（リスク管理/その他）	宮川、片山	
教科書	細田多穂 監修 シンプル理学療法シリーズ『内部障害理学療法テキスト』改訂第2版 南江堂 宮川哲夫 『動画でわかる呼吸リハビリテーション』 中山出版 ヒントレ研究所 編 『ヒント式トレーニング 臨床医学編』南江堂 宮川 哲夫 『動画でわかるスクイーピング』 文光堂		
事前事後の予習復習	予習は授業前に1年次の解剖学・生理学、2年次の内科学の知識を学習しておくこと。復習は配布資料や授業で学んだことを再度自己学習すること。		
履修の条件	特になし		
参考文献	山田純生 編 理学療法 Mook12『循環器のリハビリテーション』 三輪書店 聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部 編 『理学療法 リスク管理マニュアル』第3版 三輪書店		
成績評価方法	定期試験（80%）、演習態度（20%）		
オフィスアワー	授業終了後		

授 業 科 目 名	中枢神経障害理学療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	3 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	小笠原 正（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	脳血管障害による中枢神経性の片麻痺や小脳性運動失調症、協調運動障害などの病態を理解し、それらの評価法と運動療法の考え方について学修する。具体的には脳血管障害患者・パーキンソン病患者・脊髄小脳変性症患者等に対する評価・予後予測・理学療法の実際について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	脳血管障害の病態を理解し、評価および理学療法に必要な知識、技術を理解する。 脳血管障害の ADL 自立に向けた知識・技術を修得する。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	脳血管障害の病型・病因・疫学 時期別リハビリテーション医療の役割（予防リハ～終末期）	
	2	脳血管障害の病態の実際①	
	3	脳血管障害の病態の実際②	
	4	脳血管障害の病態の実際③	
	5	脳血管障害の病態の実際④	
	6	中枢神経障害① 評価	
	7	中枢神経障害② 評価	
	8	中枢神経障害③ 理学療法（急性期・回復期）	
	9	中枢神経障害④ 理学療法（生活期・家庭訪問・住宅改修）	
	10	基本動作（臥位から立位）	
	11	移乗動作（ベッド⇄車いす、座位修正、車いす駆動）	
	12	理学療法の実際①	
	13	理学療法の実際②	
	14	理学療法の実際③	
15	理学療法の実際④		
教 科 書	正門由久・高木誠 編著「脳卒中」基礎知識から最新リハビリテーションまで 医歯薬出版		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	講義終了時に次回の講義範囲（教科書のページ数）を提示しますので、講義前に必ず目を通すこと。復習は授業で学んだことを確認しながらまとめなおすとともに、修得できるまで技術練習を行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フィ ス ア ワ ー	授業の終了後		

授 業 科 目 名	脊髄障害理学療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	3 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員 名	岩崎 洋		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	脊髄障害に関する理学療法治療理論、技術の基本的知識について学修する。具体的には、脊髄損傷の病態像と機能障害の関係、回復過程および予後に関する知識、合併症、理学療法評価における障害の捉え方、病期に対応した理学療法の実践手順について学修する。さらに、脊髄障害に対する必要な基本的理学療法技術や各種指導方法についても実技を踏まえ学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊髄損傷の基本的知識を説明できる。 2. 脊髄損傷における身体および精神・心理面の障害を理解し、理学療法評価の意義および方法を修得できる。 3. 脊髄障害に対する基本的理学療法手段を修得できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	脊髄の解剖学的特徴、脊髄損傷の受傷原因、臨床像、一次障害と合併症	
	2	理学療法評価、機能的予後	
	3	急性期（安静固定期）の理学療法の実際 1（合併症の予防など）	
	4	急性期（安静固定期）の理学療法の実際 2（廃用症候群の予防など）	
	5	離床初期（亜急性期～回復期）の理学療法の実際 1（座位バランス、起居・移乗など）	
	6	離床初期（亜急性期～回復期）の理学療法の実際 2（シーティング、介助法など）	
	7	離床後期（慢性期・安定期）の理学療法の実際 1（車いす、立位・歩行）	
	8	離床後期（慢性期・安定期）の理学療法の実際 2（ADL・APDL など）	
	9	脊髄損傷者の動作指導の実際 1（寝返り、起き上がり）	
	10	脊髄損傷者の動作指導の実際 2（プッシュアップ・移乗、車いす駆動など）	
	11	脊髄損傷者の下肢装具・車いす、立位・歩行動作指導の実際	
	12	脊髄不全損傷者のリハビリテーションの実際	
	13	脊髄損傷者の精神・心理面、性機能、住宅改修、就労、スポーツ	
	14	発表会①	
15	発表会②		
教 科 書	岩崎 洋 編著 脊髄損傷理学療法マニュアル 文光堂		
事前事後の予習復習	予習は授業前に配布する資料を基に、教科書や参考図書を用いて授業までに確認する。復習は授業で学んだことを確認しながら資料をまとめなおすとともに、修得できるまで技術練習を行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷マニュアル編集委員会 『脊髄損傷マニュアル リハビリテーション・マネジメント』第 2 版 医学書院 細田多穂・他 編 『理学療法ハンドブック第 3 巻』改訂第 4 版 協同医書出版		
成績評価方法	定期試験（50%）、プレゼンテーション（50%）の結果を総合して評価する。		
オフィスアワー	授業の前後		

授 業 科 目 名	運動器障害理学療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	柳澤 健、清岡 学、山本 双一（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法士が運動器疾患を有する患者に接する機会が多い。筋肉・骨・関節構成体などの運動器の障害に対する理学療法の考え方・進め方について学修する。主として骨折、靭帯損傷、各関節の痛みあるいは変形など整形外科疾患により生じる機能障害、ADL・QOLの低下を理解し、それに対する理学療法評価と理学療法の進め方や、予防・再発予防について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	運動器障害の代表的傷病から、自己学習内容を発表、討議、そして実技を実習することで、相互学習する。これにより知識を理解し臨床応用できるよう、患者評価ができ適切な治療法を修得するとともに、学習に対する積極性・探究心・問題解決能力を養う学習方法を養う。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	下肢関節の検査測定	
	2	腰痛症の理学療法①	
	3	腰痛症の理学療法②	
	4	腰痛症の理学療法③	
	5	腰痛症の理学療法④	
	6	肩関節障害の理学療法①	
	7	肩関節障害の理学療法②	
	8	下肢運動器障害の理学療法①	
	9	下肢運動器障害の理学療法②	
	10	下肢運動器障害の理学療法③	
	11	下肢運動器障害の理学療法④	
	12	下肢運動器障害の理学療法⑤	
	13	骨折の理学療法	
	14	脊髄性失調症の理学療法①	
15	脊髄性失調症の理学療法②		
教 科 書	S.Hoppenfeld 『図解 四肢と脊柱の診方』 医歯薬出版		
事前事後の予習復習	小テストと自己学習レポートの提出		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	R.Cailliet 『腰痛症候群』 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記40%・実技20%）、レポート（20%）、小テスト（20%）		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	発達障害理学療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	重島 晃史		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	運動発達障害を呈する小児疾患の中の中枢神経疾患である脳性麻痺の障害とその特徴について学修するとともに、その障害の捉え方と評価、運動療法についての知識を学修する。また、脳性麻痺の異常運動発達を理解するために必要な姿勢反射と正常運動発達について学修する。さらに、脳性麻痺以外の運動発達障害を呈する小児疾患についても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常運動発達過程と発達の原理を説明できる。 2. 姿勢反射の検査を実践し、検査結果を解釈できる。 3. 脳性麻痺の病態やタイプ、症状について説明できる。 4. 脳性麻痺に対する理学療法評価・治療を説明できる。 5. 筋ジストロフィー、ダウン症、重症心身障害、発達性協調運動障害の臨床症状、評価、治療について説明できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	発達（特に運動）の原理・理論	
	2	出生から6ヶ月までの正常運動発達	
	3	7か月以降の正常運動発達	
	4	姿勢反射の概要と検査手技1	
	5	姿勢反射の概要と検査手技2	
	6	姿勢反射の概要と検査手技3	
	7	脳性麻痺の理学療法評価・治療1（総論）	
	8	脳性麻痺の理学療法評価・治療2（痙直型両麻痺）	
	9	脳性麻痺の理学療法評価・治療3（痙直型四肢麻痺）	
	10	脳性麻痺の理学療法評価・治療4（アテトーゼ型）	
	11	脳性麻痺の理学療法評価・治療5（理学療法評価）	
	12	脳性麻痺の理学療法評価・治療6（理学療法）	
	13	筋ジストロフィーの概要、臨床症状、理学療法評価・治療	
	14	重症心身障害の概要、臨床症状、理学療法評価・治療	
15	ダウン症、発達性協調運動障害の概要、臨床症状、理学療法評価・治療		
教 科 書	細田多穂 監修 『小児理学療法テキスト』第2版 南江堂		
事前事後の予習復習	予習は教員が指示した内容について期日までに遂行し、必要に応じて提出物を求める。復習は授業で学んだことを見直し、定期的な小テストを実施するので、所定の範囲を習得しておくこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	M. R. Fiorentino 『脳性麻痺の反射検査』 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験（50%）、小テスト（40%）、授業態度（10%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	老年期障害理学療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	田頭 勝之、清岡 学		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	高齢者の加齢に伴う心身機能の変化、高齢期に特有の疾患や症状等についての理解をもとに、高齢期障害の対象者の身体・認知・精神機能における適切な評価方法および疾患に応じて評価を選択する方法について学修する。高齢者では心身機能面での評価だけでなく、生活の質（QOL）をさらに重視した評価が大切であるため、対象者の生活史や生活環境に対する評価の視点とその具体的方法について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期障害の特徴を理解できる。 2. 老年期理学療法の目的と役割、基本的視点を理解できる。 3. 老年期理学療法の評価を理解できる。 4. 老年期理学療法の計画・治療・支援を理解できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	加齢による変化と疾患	
	2	サルコペニアの理学療法評価・治療①	
	3	サルコペニアの理学療法評価・治療②	
	4	高齢者の知能と記憶	
	5	高齢者循環器系疾患の理学療法評価・治療	
	6	高齢者の代謝系・内分泌系疾患の理学療法評価・治療	
	7	高齢者の運動器系疾患の理学療法評価・治療①	
	8	高齢者の運動器系疾患の理学療法評価・治療②	
	9	悪性腫瘍（がん）の理学療法評価・治療①	
	10	悪性腫瘍（がん）の理学療法評価・治療②	
	11	感染症の理学療法評価・治療	
	12	脳血管疾患の理学療法評価・治療①	
	13	脳血管疾患の理学療法評価・治療②	
	14	認知症の理学療法評価・治療①	
15	認知症の理学療法評価・治療②		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	授業終了時に次回の予告を行いますので、配布した資料に目を通しておくこと。復習は授業で学んだ事を確認しておくこと。次回授業開始時に理解できているかの確認を行う。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	飯島節、鳥羽研二 編著 『老年学テキスト』 南江堂 島田洋一、高橋仁美 編著 『動器疾患の治療とリハビリテーション』 メジカルビュー社		
成 績 評 価 方 法	定期試験（100%）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	義肢装具学演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	濱田 和範・岩崎 洋		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	身体各部位ごとの代表的義肢・装具の名称及び機能を理解し、各疾患と機能・構造障害との関連性を理解することにより、疾患や障害に適した義肢・装具を選択し、また義肢・装具のチェックアウトが行えることを目的とする。また、義肢・装具の変遷、近年の適応、義肢・装具の構造や機能、評価法を学び、義肢を利用する切断患者のリハビリテーションや装具を使ったリハビリテーションについても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 装具の構造・機能について理解できる。 2. 主要疾患に対する装具と、その役割について理解できる。 3. 装具のチェックアウト、適切な装具利用法を修得できる。 4. 切断の原因とその治療についての知識を修得できる。 5. 義肢の構造・機能・アライメントチェックについて理解できる。 6. 四肢切断の理学療法の基本事項を修得できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	装具の概論	
	2	短下肢装具	
	3	長下肢装具・股装具・膝装具	
	4	靴形装具	
	5	下肢装具のチェックアウト	
	6	体幹装具、側彎症装具	
	7	主要疾患に対する各種装具の関わり①	
	8	主要疾患に対する各種装具の関わり②	
	9	切断と離断・切断部位と手術手技・断端管理法	
	10	股義足	
	11	足継手（足部）・膝継手の種類と特徴	
	12	大腿義足	
	13	下腿義足	
	14	膝義足・サイム義足・足部部分義足	
15	下肢切断の理学療法		
教 科 書	高田治実 『義肢・装具学』 羊土社		
事前事後の予習復習	予習は教科書や参考図書を用いて授業までにまとめてくること。復習は授業で学んだことを確認しながら、配布資料やノートをまとめなおす。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	加倉井周一 『新編 装具治療マニュアル』 医歯薬出版 澤村誠志 『切断と義肢』 医歯薬出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記70%・実技20%）レポート課題（10%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法技術実習 I (運動関節学的手技)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	3 年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	板場 英行 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	関節可動障害、筋機能障害、運動時の痛みなどの運動機能障害に対する理学療法は、理学療法士として高いレベルの知識と技術を有することが大切である。本講義では、運動機能障害理学療法の一治療手技である徒手的治疗手技について、運動関節学的手技の理論的背景と基本的事項について学修する。四肢、脊柱の関節可動障害に対する関節モビライゼーションの基本的治療手技を演習し、臨床実施上のポイントについて学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 運動関節学的手技の理論的背景と基本的事項を理解できる。 2. 筋・骨格系疾患患者の評価および治療法の基本的手技が実施できる。 3. 四肢、脊柱の関節可動障害に対する評価および基本的治療手技が実施できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、徒手的治疗手技の概要	
	2	徒手的治疗手技の基本的事項 1	
	3	徒手的治疗手技の基本的事項 2	
	4	徒手的治疗手技の基本的事項 3	
	5	肩関節の徒手的治疗手技①	
	6	肩関節の徒手的治疗手技②	
	7	肩甲帯の徒手的治疗手技①	
	8	肩甲帯の徒手的治疗手技②	
	9	膝関節の徒手的治疗手技①	
	10	膝関節の徒手的治疗手技②	
	11	足関節の徒手的治疗手技①	
	12	足関節の徒手的治疗手技②	
	13	腰椎の徒手的治疗手技①	
	14	腰椎の徒手的治疗手技②	
15	腰椎の徒手的治疗手技③		
教 科 書	配付資料		
事前事後の予習復習	予習は事前に配布する講義資料を配布するので、参考図書を活用して事前に学習してくる。復習は、講義で学修したことを再確認し、重要事項を各自でまとめて、理解を深めること。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	竹井仁、黒澤和生 編 『系統別治療手技の展開』第3版 協同医書出版 CarolyT. Wadsworth 著 Paul D. Andrew 監修『脊柱と四肢のマニュアルセラピー』 医道の日本社		
成 績 評 価 方 法	授業態度 (20%)、定期試験 (80%) の結果を総合して評価する。		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法技術実習Ⅱ (神経筋促通手技)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	選択
担 当 教 員 名	柳澤 健、富田 浩(兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	固有受容性神経筋促通手技(PNF)の基本概念と原理を理解し、基本手技ができるように学修する。また、機能評価に役立て、治療プログラムの立案に応用できるように学修する。更に、実技演習を通して、疾患別の応用が適切にできるように学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 固有受容性神経筋促通手技(PNF)の基本概念と原理が理解できる。 2. 固有受容性神経筋促通手技(PNF)に関する基本手技を行うことができる。		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	固有受容性神経筋促通手技(PNF)の基本概念と原理①	柳澤
	2	固有受容性神経筋促通手技(PNF)の基本概念と原理②	柳澤
	3	上肢の基本手技①	柳澤
	4	上肢の基本手技②	富田
	5	上肢の基本手技③	富田
	6	上肢の基本手技④	富田
	7	下肢の基本手技①	柳澤
	8	下肢の基本手技②	柳澤
	9	下肢の基本手技③	柳澤
	10	特殊テクニック手技	富田
	11	肩甲帯・骨盤の基本手技	富田
	12	頸部・体幹の基本手技	富田
	13	応用手技①	富田
	14	応用手技②	富田
15	応用手技③	富田	
教 科 書	柳澤健・他 『PNFマニュアル』第4版 南江堂		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	事前学習として、臨床運動学、筋の解剖学・運動学、神経生理学等の復習をしておくこと。復習は授業で学んだことを確認しながらまとめなおすとともに、修得できるまで技術練習を行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	細田多穂・他 編 『理学療法ハンドブック』第4版 協同医書出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験(筆記・実技100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法技術実習Ⅲ（生体観察手技）	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	西村 敦司（兼任）		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	解剖学・運動学と運動療法との関わりについて学修する。特に整形外科分野における評価・治療の流れを実習を通して学修する。これまでに学んだ解剖学や運動学を理学療法場面にあてはめ、評価や治療に繋げることが出来るように学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 解剖学・運動学と運動療法との関わりが理解できる。 2. 整形外科分野における評価および治療法の基本的手技が実施できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	生体観察手技の概要①	
	2	生体観察手技の概要②	
	3	脊柱疾患の生体観察手技①	
	4	脊柱疾患の生体観察手技②	
	5	肩関節疾患の生体観察手技①	
	6	肩関節疾患の生体観察手技②	
	7	肘関節～手関節疾患の生体観察手技①	
	8	肘関節～手関節疾患の生体観察手技②	
	9	股関節疾患の生体観察手技①	
	10	股関節疾患の生体観察手技②	
	11	膝関節疾患の生体観察手技①	
	12	膝関節疾患の生体観察手技②	
	13	足関節疾患の生体観察手技①	
	14	足関節疾患の生体観察手技②	
	15	足関節疾患の生体観察手技③	
教 科 書	渡辺正仁 『PT・OT・STのための解剖学』第4版 廣川書店 中村隆一・他 『基礎運動学』第6版 医歯薬出版 津山直一 訳 『新・徒手筋力検査法』 協同医書出版		
事前事後の予習復習	予習は授業前に配布する資料を基に、教科書や参考図書を用いて授業まで確認する。復習は授業で学んだことを確認しながら資料をまとめなおすとともに、修得できるまで技術練習を行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	中村利孝 監修 『標準 整形外科学』 医学書院		
成 績 評 価 方 法	授業態度（10%）、小テスト（20%）、定期試験（筆記50%・実技20%）の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法治療学実習 I (脳障害)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	3 年前期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	岩崎 史明 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	脳障害の病態生理や医学的治療、リスク管理について理解し、理学療法評価や治療方法について学修する。特に脳卒中は、社会の高齢化や生活習慣の欧米化などの要因により増加の一途を辿り、理学療法士の臨床研究の焦点となっている。評価や治療手技を実習の中で実演・経験し、その治療方法について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳障害の病態生理や医学的治療、リスク管理について理解し、その障害像を医学的観点から説明できる。 2. 個々の症例に応じた脳障害の理学療法評価項目が列挙でき、その方法を実施できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	脳画像の見方① (CT・MRI・MRA)	
	2	脳画像の見方② (CT・MRI・MRA)	
	3	脳卒中における理学療法評価①	
	4	脳卒中における理学療法評価②	
	5	脳卒中における理学療法評価③	
	6	脳卒中における理学療法①	
	7	脳卒中における理学療法②	
	8	脳卒中における理学療法③	
	9	運動失調における理学療法評価	
	10	運動失調における理学療法	
	11	急性脳外傷の理学療法評価①	
	12	急性脳外傷の理学療法評価②	
	13	急性脳外傷の理学療法①	
	14	急性脳外傷の理学療法②	
15	急性脳外傷の理学療法③		
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は参考文献等を基に、授業内容の概要を確認する。復習は授業で学んだことを確認しながら資料をまとめなおすとともに、修得できるまで技術練習を行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	日本脳卒中学会、脳卒中ガイドライン委員会 編 『脳卒中治療ガイドライン 2015』松澤正・他 『理学療法評価学』改訂第 5 版 金原出版		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、小テスト (30%)、授業態度 (10%) の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア フ タ	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法治療学実習Ⅱ (ICU)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	前田 秀博 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	呼吸器疾患、循環器疾患の医学的知識、病態、解剖学、生理学の理解を深め、理学療法がどのように展開されているかをエビデンスを基に学修する。具体的な疾患は、肺炎、慢性閉塞性肺疾患、神経筋疾患、急性心筋梗塞、慢性心不全、閉塞性動脈硬化症などを中心に行う。また、リスク管理の一環として、救命処置の知識や、血液データの活用法、胸部レントゲン写真や胸部CT画像の診かたについても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. リスク管理の基本となる基礎知識と技術を習得できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	内部障害と循環器疾患、心臓リハビリテーション	
	2	心循環系の構造と機能	
	3	循環器疾患の病態と評価、リスク管理と理学療法 ①	
	4	循環器疾患の病態と評価、リスク管理と理学療法 ②	
	5	循環器疾患の病態と評価、リスク管理と理学療法 ③	
	6	循環器疾患の病態と評価、リスク管理と理学療法 ④	
	7	循環器疾患の病態と評価、リスク管理と理学療法 ⑤	
	8	循環器疾患の病態と評価、リスク管理と理学療法 ⑥	
	9	循環器疾患の運動、ADL指導	
	10	呼吸器系の構造と機能	
	11	呼吸器疾患の病態と評価、リスク管理と理学療法 ①	
	12	呼吸器疾患の病態と評価、リスク管理と理学療法 ②	
	13	呼吸器疾患の病態と評価、リスク管理と理学療法 ③	
	14	J-PAD ガイドライン、PICS、ICU-AW	
15	ABCDEs バンドル、VAP バンドル		
教 科 書	配付資料		
事前事後の予習復習	予習は授業前に配布する資料を基に、教科書や参考図書を用いて授業までに確認する。復習は授業で学んだことを確認しながら資料をまとめなおすとともに、修得できるまで技術練習を行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	細田多穂 監修 『内部障害理学療法学テキスト』改訂第2版 南江堂 丸山仁司・他 編 『考える理学療法 [内部障害編] 評価から治療手技の選択』 文光堂 木全心一 監修 『狭心症・心筋梗塞のリハビリテーション』改訂第4版 南江堂 増田 卓・他 編 『循環器疾患理学療法の理論と技術』 メジカルビュー社		
成績評価方法	授業態度 (15%)、定期試験 (85%)		
オフィスアワー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法治療学実習Ⅲ (スポーツ障害)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	選択
担 当 教 員 名	森本 哲郎 (兼任)、山田 義久 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	競技スポーツから健康維持を含めた生涯スポーツ場面で生じやすい傷害に対して理学療法士として適切に対応するための知識・技術について学修する。スポーツ障害の病態と発生機序を理解し、スポーツ選手の体調を管理し、外傷・障害を予防するための理学療法について学修する。競技復帰する過程のアスレチックリハビリテーションを実践するために必要な知識と技術について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. スポーツ障害の病態と発生機序を理解できる。 2. スポーツ外傷や障害を予防するための理学療法を修得できる。 3. アスレチックリハビリテーションを実践するために必要な知識と技術を修得できる。		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	スポーツ医学概論	森本
	2	スポーツ外傷・障害の病態と評価①	森本
	3	スポーツ外傷・障害の病態と評価②	森本
	4	スポーツ外傷・障害の病態と評価③	森本
	5	スポーツ外傷・障害の病態と評価④	森本
	6	スポーツ外傷・障害の病態と評価⑤	森本
	7	スポーツ外傷・障害の病態と評価⑥	森本
	8	スポーツとバイオメカニクス① (ランニング・ジャンプ・カッティング・スローイング 他)	山田
	9	スポーツとバイオメカニクス② (ランニング・ジャンプ・カッティング・スローイング 他)	山田
	10	スポーツ外傷・障害の理学療法①	山田
	11	スポーツ外傷・障害の理学療法②	山田
	12	スポーツ外傷・障害の理学療法③	山田
	13	テーピング	山田
	14	ストレッチング①	山田
15	ストレッチング②	山田	
教 科 書	日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部門 監修 『スポーツ医学研修ハンドブック 基礎科目』『スポーツ医学研修ハンドブック応用科目』 文光堂 臨床スポーツ医学編集委員会 編 『新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド』 文光堂		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	講義終了時に次回の講義範囲(教科書のページ数)を提示しますので、講義前に必ず目を通すこと。復習は授業で学んだことを確認しながらまとめなおすとともに、修得できるまで技術練習を行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	中嶋寛之 編 『スポーツ整形外科学』 南江堂 黒田善雄・他 編 『最新スポーツ医学』 文光堂 林浩一郎 監訳 『トレーニングとスポーツ医学』 文光堂 森本哲郎、妻木充法 『スポーツ傷害 予防と対策』 成美堂 Danie I.N. Kulund 『The Injured Athlete.』 Lippincott, Joseph S. Tong et al 『Rehabilitation of Athletic Injuries. An Atlas of Therapeutic Exercise.』 Year Book Medical Publishers Inc.		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法治療学実習Ⅳ (障害者スポーツ)	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	選択
担 当 教 員 名	小林 順一 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	障害者スポーツは、社会参加を目的としたスポーツと日常生活の自立やリハビリテーションの一環として行われる医療的スポーツに大別される。この科目では、全ての障害者が障害の種類や程度に応じて、それぞれに適したスポーツやレクリエーションに参加できるよう、スポーツの意義・効果、指導方法、注意事項、障害に応じたスポーツの工夫について学修する。また、日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度についても学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	各種の障害者スポーツの実技を通して、スポーツの意義・効果、指導方法、注意事項等を理解できる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	障害者福祉施策と障害者スポーツ①	
	2	障害者福祉施策と障害者スポーツ② 安全管理	
	3	身体障害者とスポーツ①	
	4	身体障害者とスポーツ② 知的障害者とスポーツ①	
	5	知的障害者とスポーツ②	
	6	障害者スポーツの意義と理念	
	7	全国障害者スポーツ大会概要 障害者当事者にとってのスポーツ①	
	8	障害者当事者にとってのスポーツ②	
	9	ボランティア論①	
	10	ボランティア論②	
	11	障害に応じたスポーツの工夫・実施①	
	12	障害に応じたスポーツの工夫・実施①	
	13	精神障害者とスポーツ	
	14	公認障害者スポーツ指導者制度①	
15	公認障害者スポーツ指導者制度②		
教 科 書	公益財団法人日本障害者スポーツ協会 『最新版 全国障害者スポーツ大会競技規則集』『障害者スポーツ指導教本 初級・中級』株式会社ぎょうせい		
事前事後の予習復習	特になし		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	臨床理学療法技法演習 (PBL)	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	重島 晃史、宮崎 登美子、柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	この講座においては、学生が相互に模擬症例となり評価のシミュレーションを行い、国際生活機能分類 (ICF) の考え方にに基づき理学療法評価全体の流れについて学修する。その中で運動機能評価を中心に、得られた情報を統合・解釈し、問題点を抽出し、目標を設定し、理学療法プログラムを立案し、考察するという具体的な理学療法評価の組み立てについて学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ● 症例情報および理学療法評価結果から統合と解釈できる。 ● 統合解釈した結果から、ICF の枠組みに基づき模擬症例の生活機能と障害 (問題点) との関連を捉えることができる。 ● 抽出された模擬症例の生活機能および障害 (問題点) の情報や文献等の活用により、治療目標を立案することができる。 ● 模擬症例が示す症状および活動制限の原因を解釈し、理学療法プログラムを立案することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業オリエンテーション、理学療法評価の進め方	
	2	模擬症例の疾患や症状、検査、社会的情報などの情報の理解・解釈①	
	3	模擬症例の疾患や症状、検査、社会的情報などの情報の理解・解釈②	
	4	模擬症例に基づいた理学療法評価の列挙とその根拠①	
	5	模擬症例に基づいた理学療法評価の列挙とその根拠②	
	6	理学療法評価の実施およびデータの解釈①	
	7	理学療法評価の実施およびデータの解釈②	
	8	ICF に基づいた生活機能と障害の予測①	
	9	ICF に基づいた生活機能と障害の予測②	
	10	治療目標 (短期目標、長期目標) の設定①	
	11	治療目標 (短期目標、長期目標) の設定②	
	12	理学療法プログラムの立案①	
	13	理学療法プログラムの立案②	
	14	模擬症例のレジメ作成①	
15	模擬症例のレジメ作成②		
教 科 書	千住秀明・監修『理学療法評価法第3版』神陵文庫 山崎裕司、山本淳一・編集『リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ 第3版』神陵文庫		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業前までに指定された課題を遂行すること。 ● 教科書『理学療法評価法』5～19 ページを熟読しておくこと。 		
履 修 の 条 件	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業で提示する課題を指定された日時までに提出すること。 ● 実施した課題について若干名の学生に発表させる。発表内容に関して自分の言葉で十分説明できるよう理解を深めておくこと。 		
参 考 文 献	松澤正、江口勝彦『理学療法評価学 改訂第6版』金原出版株式会社		
成 績 評 価 方 法	授業態度 (10%)、課題提出 (4%×7回分)、小テスト (6%×2回分)、定期試験 (50%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	地域理学療法学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年 後期	必 修 ・ 選 択	必須
科 目 担 当 者	小嶋 裕		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーションとは、生活拠点に立脚し、保健・医療・福祉・生活・介護に関わる理念と技術が統合されたものである。 ・理学療法を中心に幅広く地域リハビリテーションに関わる理念、医療モデル・生活モデルの流れと関連性、生活評価、各種サービス供給能力とその連携などに関する理解を深め、地域活動における理学療法士の在り方について学修する。 		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 地域理学療法の理念・概念（捉え方、意義、役割）を理解する。 (2) 地域理学療法に関連する施策（制度）内容を理解する。 (3) 地域理学療法の実際（在宅・通所・施設・終末での各ケア）を理解する。 (4) 地域理学療法に関わる介護予防を理解する。 (5) 今日的な地域理学療法に対する要請を理解し、今後の活動展開を模索する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業オリエンテーション、地域リハビリテーションの視座（視点）	
	2	地域リハビリの定義、ノーマライゼーション・IL運動・ICFとの関連	
	3	地域理学療法の概要、その誕生の背景	
	4	多他職との連携（他専門職、連携方法）、地域理学療法の対象者、テスト①	
	5	社会福祉の法体系、医療保険、介護保険法、障害者総合支援法	
	6	地域包括ケアシステムと理学療法（士）の関わり（期待）	
	7	介護保険サービスと理学療法（士）（1）（訪問・通所）	
	8	介護保険サービスと理学療法（士）（2）（施設）、小テスト②、レポート提出①	
	9	在宅医療（概念）と理学療法（士）、寝たきりの前兆、廃用性症候群	
	10	在宅医療での理学療法（士）に必要な知識（1）（呼吸・栄養・褥瘡）	
	11	在宅医療での理学療法に必要な知識（2）（健康状態の評価・リスク管理）	
	12	住環境の整備、福祉用具の導入、小テスト③	
	13	動作指導（支援）と介助方法の指導（支援）	
	14	健康増進への取り組み、終末期のリハビリテーション	
15	地域ケアに関する視座（視点）、総括、小テスト④、レポート提出②		
教 科 書	「ビジュアルレクチャー 地域理学療法学」 浅川育世 編、医歯薬出版		
事前事後の予習復習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にシラバス内容、事前に手渡すパワーポイント資料内容を確認しておく。 ・毎授業終了時に次回授業内容の概要を提示するので確認する。 ・小テスト（クイズ）の実施、レポート提出に留意する。 		
履 修 の 条 件	・特になし。		
参 考 文 献	・参考書籍の一覧表を手渡すとともに、授業内で適宜に紹介または配布する。		
成 績 評 価 方 法	・小テスト（4回、20%）、レポート課題（2回、10%）、定期試験（70%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	地域理学療法学演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	川瀬 正敬 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>リハビリテーション医療は施設・病院から在宅へと、地域を基盤として展開が図られ、維持期（生活期）リハビリテーションと統合し、疾患・障害から、生活を基盤とした新たなリハビリテーションの展開が強く求められている。本講義では、保健・医療・福祉の動向を踏まえて、地域における理学療法の方法論（通所・入所・訪問・介護予防など）を学び、地域リハビリテーションの考え方、システム、チームアプローチの重要性、理学療法士の役割について学修する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域リハビリテーションの考え方を理解する。 2. 地域における理学療法を考え方を理解する。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	地域リハビリテーションの考え方	
	2	地域における障害者・高齢者の現状	
	3	介護保険における各サービスの役割①	
	4	介護保険における各サービスの役割②	
	5	生活期における理学療法士の役割①	
	6	生活期における理学療法士の役割②	
	7	通所リハビリテーションと理学療法士の役割①	
	8	通所リハビリテーションと理学療法士の役割②	
	9	通所リハビリテーションと理学療法士の役割③	
	10	訪問リハビリテーションと理学療法士の役割①	
	11	訪問リハビリテーションと理学療法士の役割②	
	12	訪問リハビリテーションと理学療法士の役割③	
	13	介護支援専門員、ケアマネジメントについて①	
	14	介護支援専門員、ケアマネジメントについて②	
15	入所サービスについて		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	シラバスの確認		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	地域理学療法学テキスト		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (80%)、出席状況 (20%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	随時 (要予約)		

授業科目名	生活環境支援理学療法実習	授業形態	実習
単位数	1	回数	15回
履修年次	3年前期	必修・選択	必修
科目担当者	田頭 勝之		
授業の概要・目的	地域リハビリテーションを支える生活環境支援について、社会福祉制度を知るとともに、生活環境としての居住環境を中心に学修する。具体的には、バリアフリー・ユニバーサルデザインの基本、家屋調査の考え方と実際、住宅改修の目的と適合判定からそれらを作製する過程に必要な知識と技術について学修する。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住環境整備の基本的技術や知識を理解できる。 2. 各疾患・障がいにおける住環境整備の方法を習得できる。 3. 在宅生活における福祉用具の活用方法を習得できる。 4. 相談援助と住環境整備の進め方を理解できる。 		
授業計画	回	内容	
	1	授業ガイダンス、生活環境とは	
	2	生活環境と住宅関連施策	
	3	ICFと生活環境、住宅におけるバリアフリーとユニバーサルデザインの実際	
	4	住環境整備の実践に必要な図面の読み方	
	5	住環境整備①（部位別1：段差の解消等）	
	6	住環境整備②（部位別2：手すりの設置等）	
	7	住環境整備③（生活行為別1：屋内・外の移動）	
	8	住環境整備④（生活行為別2：排泄・入浴行為）	
	9	住環境整備⑤（生活行為別3：整容・食事行為）	
	10	住環境整備⑥（疾患別1）	
	11	住環境整備⑦（疾患別2）	
	12	住環境整備⑧（疾患別3）	
	13	ケアマネジメントにおける福祉住環境整備に関する相談援助の実際①	
	14	ケアマネジメントにおける福祉住環境整備に関する相談援助の実際②	
15	福祉用具に関連する諸制度（介護保険・自立支援法他）と適応の実際		
教科書	ユーキャンの福祉住環境コーディネーター2級 速習レッスン 2022年版 ユーキャンの福祉住環境コーディネーター2級 重要過去問&予想模試 2022年版 ユーキャン 自由国民社		
事前事後の予習復習	講義終了時に次回の講義範囲（教科書のページ数）を提示しますので、講義前に必ず目を通すこと。復習は、講義で学習したことを再確認し、重要事項を各自でまとめて、理解を深めること。		
履修の条件	特になし		
参考文献	鶴見隆正 編 標準理学療法学専門分野『日常生活活動学・生活環境学』 医学書院		
成績評価方法	授業態度（10%）、課題レポート（10%）、小テスト（10%）、定期試験（70%）の結果を総合して評価する。		
オフィスアワー	授業終了後		

授 業 科 目 名	機能代償支援理学療法実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
担 当 教 員 名	明崎 禎輝、有光 一樹		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	在宅障害者や高齢者の生活をより豊かにし、自立生活や介護負担軽減を図るために用いる福祉用具について、その種類と機能、特性を解説し、生活範囲の拡大を目指した福祉用具の適用原則と注意点について学修する。また、現在の医療・福祉における福祉用具に関連した制度についても学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉用具について理解できる。 2. 福祉用具における理学療法士の役割を理解できる。 3. ADLにおける福祉用具の活用方法を身につけることができる。 4. シーティングがもたらすADL能力の効果を理解する。 5. シーティングスキルを身につける。 		
授 業 計 画	回	内 容	担 当
	1	福祉用具の定義、福祉用具活用の目的、福祉用具の効果、福祉用具の種類、福祉用具の適用原則と注意点	明崎
	2	福祉用具と理学療法士の役割、福祉用具に関連する諸制度	明崎
	3	起居関連用具の活用方法の実際	明崎
	4	移乗関連用具の活用方法の実際	明崎
	5	移動関連用具の活用方法の実際	明崎
	6	排泄関連用具の活用方法の実際	明崎
	7	入浴関連用具の活用方法の実際	明崎
	8	その他の生活関連用具の活用方法の実際	明崎
	9	シーティングの目的	有光
	10	シーティングの評価	有光
	11	シーティングに対する自助具・福祉機器の適応	有光
	12	シーティングの実践①	有光
	13	シーティングの実践②	有光
	14	福祉用具展示コーナーの見学研修①	明崎
15	福祉用具展示コーナーの見学研修②	明崎	
教 科 書	配付資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	授業終了時に次回の予告を行いますので、配布した資料に目を通しておくこと。復習は授業で学んだことを確認しながら資料をまとめなおすとともに、修得できるまで技術練習を行うこと。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	鶴見隆正 編 標準理学療法学専門分野『日常生活活動学・生活環境学』第4版 医学書院		
成 績 評 価 方 法	授業態度（10%）、課題レポート（20%）、定期試験（70%）の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	ヘルスプロモーション演習	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	小嶋 裕		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>これまでの理学療法士は、その対象を「障害を有する人」とし、基本的な動作能力の回復を図るために、主に病院で「治療」を行ってきた。しかし今日、理学療法士に対するニーズは、治療という観点のみならず、病気や怪我の予防、高齢者の要介護状態になることの防止、障害を抱えながら生活する人たちへの支援、健康増進などQOLの立場からもその期待が高まっている。本講義では、リハビリテーション医療の中心的役割を担ってきた従来の理学療法に加え、疾病予防や介護予防、健康増進を含んだ包括的な理学療法の理論と実践について学修する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<p>(1) 公衆衛生、健康の概念からヘルスプロモーション（HP）活動の経緯、役割を理解する。 (2) 高齢者の特性とHP、介護予防について理解する。 (3) 高齢者の機能評価方法を理解する。 (4) HPの具体的な実践方法を理解する。</p>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業オリエンテーション、公衆衛生と健康（予防）の概念	
	2	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	
	3	国民健康づくり、健康日本 21、健康増進法	
	4	老化、高齢者の病気、老化の特徴（身体機能）（小テスト①）	
	5	老化の特徴（認知機能、心理機能、社会性）、老年・廃用症候群	
	6	フレイル、サルコペニア（概要、判定・基準）	
	7	ロコモティブシンドローム（概要、判定）（小テスト②）	
	8	ヘルスプロモーションの進め方、評価方法（レポート提出①）	
	9	高齢者総合機能評価、他の評価スケール	
	10	高齢者の身体機能評価（小テスト③）	
	11	ヘルスプロモーションの実践Ⅰ（虚弱予防）	
	12	ヘルスプロモーションの実践Ⅱ（転倒予防）	
	13	ヘルスプロモーションの実践Ⅲ（認知症予防）（小テスト④）	
	14	行動科学とヘルスプロモーション（レポート提出②）	
15	総括		
教 科 書	「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション」（南江堂）		
事前事後の予習復習	・授業前にシラバス内容、事前に手渡すパワーポイント資料を確認する。		
履 修 の 条 件	・特になし		
参 考 文 献	・参考図書の一覧表を手渡すとともに、授業内で紹介または配布する。		
成 績 評 価 方 法	・小テスト（4回、20%）、レポート課題（2回、10点）、試験（70点）		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	理学療法臨床実習 I	授 業 形 態	実習【臨】
単 位 数	1	回 数	1 週間
履 修 年 次	2 年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大倉 三洋、山崎 裕司、田頭 勝之、宮川 哲夫、柳澤 健、濱田 和範、 岩崎 洋、片山 訓博、重島 晃史、稲岡 忠勝、明崎 禎輝、清岡 学、 宮崎登美子、柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	臨床場における理学療法の実際について学修するため、理学療法の提供の場である病院 および施設において行う。医療専門職として基本となる病院や施設の仕組みと、各部門間 の役割と理学療法士の業務について学ぶ。具体的には、病院や施設等における理学療法 の実際と対象者の概要について学ぶとともに、併せて医療専門職としての基本的態度を身に つけられるよう、指導者や関係スタッフ、対象者とのコミュニケーションを体験する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 病院や施設の役割及び機能について知ることができる。 2. 理学療法士の実際の業務を知ることができる。 3. 理学療法の対象者の概要について知ることができる。		
授 業 計 画	内 容		
	1. 学内における事前準備 ・オリエンテーションにて、臨床実習の目的や心得、リスク管理などについて説明す る。 ・臨床実習の目的に合わせて、事前学習を行う。 2. 臨床実習 ・期間は、1 施設（理学療法科）で1 週間の実習を行う。 ・臨床実習指導者の指示に従い、指導者の助言を受けながら学修する。 ・指導者や関係スタッフ、対象者とのコミュニケーションを行う。 ・実習ノートの記載 3. 学内における事後学修 ・学生をグループに分けて、経験した実習内容について報告会を行う。 ・各グループに専任教員を配置して、適宜助言・指導を行う。		
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	・事前に理学療法臨床実習 I の手引きをよく読み、理学療法の概要や対象者の概要につい て調べておく。また、「理学療法セミナーII (PBL)」の復習をしておくこと。 ・事後には臨床実習の学修内容について振り返り、自己の課題について取り組む。		
履 修 の 条 件	「理学療法セミナーII (PBL)」を受講していること。		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	全日程の5分の4以上の出席とする。 ①臨床実習指導者による成績評価、②臨床実習中の記録・提出物、③臨床実習終了後の報 告会での報告内容、④学内における専任教員の指導による改善状況、以上の4項目より臨 床実習委員会にて総合的に判断する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	オリエンテーション時に説明する。		

授 業 科 目 名	理学療法臨床実習Ⅱ	授 業 形 態	実習【臨】
単 位 数	4	回 数	4週間
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大倉 三洋、山崎 裕司、田頭 勝之、宮川 哲夫、柳澤 健、濱田 和範、岩崎 洋、片山 訓博、重島 晃史、稲岡 忠勝、明崎 禎輝、清岡 学、宮崎登美子、柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法士としての基本的態度を身につけるとともに、理学療法の評価を実際に学修するため、理学療法の提供の場である病院および施設において行う。具体的には、臨床場面において対象者の評価として、情報収集、検査・測定、観察、結果の統合と解釈、解決すべき課題の列挙を体験する。また、実施した内容を適切に記録・報告することを体験する。学内での事後学修として、理学療法プログラムの立案について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法及理学療法士の組織における役割を理解することができる。 2. 対象者への適切な対応ならびにリスク管理を行うことができる。 3. 理学療法評価計画の立案、評価の準備と実施ができる。 4. 理学療法評価結果の解釈と理学療法の目標設定ができる。 5. 理学療法評価内容の報告と記録ができる。 		
授 業 計 画	<p style="text-align: center;">内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内における事前準備 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションにて、臨床実習の目的や心得、リスク管理などについて説明する。 ・臨床実習の目的に合わせて、事前学習を行う。 2. 臨床実習 <ul style="list-style-type: none"> ・期間は、1施設（理学療法科）で4週間の実習を行う。 ・臨床実習指導者の指示に従い、指導者の助言を受けながら、対象者の理学療法評価を行う。 ・実施した内容についての記録および報告を行う。 ・実習ノートに記載する。 3. 学内における事後学修 <ul style="list-style-type: none"> ・報告会用の症例サマリーを作成する。 ・学生をグループに分けて経験した症例について報告会を行う。 ・学生主体でディスカッションを実施し、専任教員を配置して適宜、修正・助言・指導を行う。 ・知識・技術などの不足や誤った認識等があった場合には、その改善ができるように課題を提示する等の事後学修を専任教員が指導を行う。 <p>※通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習をこの科目で行う学生については、下記の通りとする。</p> <p>通所又は訪問に関する見学実習を、1週間行う。</p> <p><授業の到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所又は訪問リハビリテーションの役割や機能について知ることができる。 ・通所又は訪問リハビリテーションにおける理学療法士の実際の業務を知ることができる。 ・通所又は訪問リハビリテーションにおける理学療法の対象者の概要について知ることができる。 		
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に理学療法臨床実習Ⅱの手引きをよく読み、授業にて学修した理学療法評価についての知識と技術を習得しておく。 ・事後には臨床実習の学修内容について振り返り、自己の課題について取り組む。 		
履 修 の 条 件	「臨床理学療法技法演習（PBL）」を受講していること。		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	<p>全日程の5分の4以上の出席とする。</p> <p>①臨床実習指導者による成績評価、②臨床実習中の記録・提出物及び症例サマリー、③臨床実習終了後の報告会での報告内容、④学内における専任教員の指導による改善状況、⑤臨床実習Ⅱ判定試験（筆記試験）、以上の5項目より総合的に判断する。</p>		
オ フ ィ ス ア ワ ー	オリエンテーション時に説明する。		

授 業 科 目 名	理学療法臨床実習Ⅲ	授 業 形 態	実習【臨】
単 位 数	18	回 数	18 週間
履 修 年 次	4 年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	大倉 三洋、山崎 裕司、田頭 勝之、宮川 哲夫、柳澤 健、濱田 和範、岩崎 洋、片山 訓博、重島 晃史、稲岡 忠勝、明崎 禎輝、清岡 学、宮崎登美子、柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	理学療法士としての基本的態度を身につけるとともに、理学療法の評価から治療・援助に至る一連の流れについて学修するため、理学療法の提供の場である病院および施設において行う。具体的には、臨床場面において対象者の評価として、情報収集、検査・測定、観察、結果の統合と解釈、解決すべき課題の列挙、理学療法プログラムの立案、理学療法プログラムの実施までを体験する。また、実施した内容を適切に記録・報告すること、他職種とのリハビリテーションのチームアプローチを体験する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法及び理学療法士の組織における役割を理解することができる。 2. 対象者への適切な対応ならびにリスク管理を行うことができる。 3. 理学療法評価計画の立案、評価の準備と実施ができる。 4. 理学療法評価結果の解釈と理学療法の目標設定ができる。 5. 理学療法治療計画の立案と実施ができる。 6. 評価内容ならびに治療内容の報告と記録ができる。 7. 理学療法士としての管理・運営業務を理解できる。 		
授 業 計 画	内 容		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学内における事前準備 <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションにて、臨床実習の目的や心得、リスク管理などについて説明する。 ・臨床実習の目的に合わせて、事前学習を行う。 2. 臨床実習 <ul style="list-style-type: none"> ・期間は、1施設9週間で2回とし、2施設で実習を行う。 ・臨床実習指導者の指示に従い、指導者の助言を受けながら、対象者の理学療法評価、理学療法治療の計画立案と実施を行う。 ・実施した内容についての記録および報告を行う。 ・実習ノートに記載する。 ・管理・運営業務について学修する。 3. 学内における事後学修 <ul style="list-style-type: none"> ・報告会用の症例サマリーを作成する。 ・学生をグループに分けて経験した症例について報告会を行う。 ・学生主体でディスカッションを実施し、専任教員を配置して適宜、修正・助言・指導を行う。 ・知識・技術などの不足や誤った認識等があった場合には、その改善ができるように課題を提示する等の事後学修を専任教員が指導を行う。 		
教 科 書	配布資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に理学療法臨床実習Ⅲの手引きをよく読み、授業にて学修した理学療法評価ならびに治療・援助についての知識と技術を習得しておく。また、理学療法臨床実習Ⅱの学修内容の復習をしておくこと。 ・事後には臨床実習の学修内容について振り返り、自己の課題について取り組む。 		
履 修 の 条 件	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次末までに修得しなければならない全ての科目を修得済みであること。 ・履修前（4月）に実施する「客観的臨床能力試験（OSCE）」に合格していること。 		
参 考 文 献	特になし		
成 績 評 価 方 法	<p>全日程の5分の4以上の出席とする。</p> <p>①臨床実習指導者による成績評価、②臨床実習中の記録・提出物及び症例サマリー、③臨床実習終了後の報告会での報告内容、④学内における専任教員の指導による改善状況、⑤臨床実習終了後の臨床実習Ⅲ判定試験（筆記ならびに実技・口頭試験）、以上の5項目より臨床実習委員会にて総合的に判断する。</p>		
オ フ ィ ス ア ウ ー	オリエンテーション時に説明する。		

授 業 科 目 名	生涯スポーツ論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	辻 博明		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	現代社会・生活構造の変化を踏まえ、生涯スポーツの理念と歴史、政策、現状および課題、ライフステージに応じた生涯スポーツの展開・実践に必要な実践的理論、生涯スポーツの多様性や今後の可能性について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代におけるスポーツの役割について説明できる。 2. スポーツ政策の概要を説明できる。 3. 生涯スポーツの役割について説明することができる。 4. ライフステージとスポーツの関係を説明できる。 5. スポーツの特徴と多様性を説明できる。 6. 自分自身の生涯スポーツを実践できる。 7. 生涯スポーツイベントを企画できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス スポーツの概念、自分とスポーツの関わり	
	2	各国のスポーツ施策（生涯スポーツの現代的意義）	
	3	生涯スポーツの理念と定義（生涯スポーツの背景）	
	4	スポーツの特徴と多様性（含生理的・運動学的）	
	5	健康とスポーツ（健康の概念、健康づくり施策）	
	6	文化としてのスポーツ	
	7	みんなのスポーツとチャンピオンスポーツ	
	8	ライフステージと生涯スポーツ	
	9	医療の中のスポーツ	
	10	子どもとスポーツ	
	11	高齢者とスポーツ	
	12	障害者とスポーツ	
	13	スポーツのクラブと指導者	
	14	スポーツイベントの企画	
15	総合的演習		
教 科 書	日下裕弘、加納弘二 『生涯スポーツの理論と実際 豊かなスポーツライフを実現するために』改訂版 大修館書店		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は教科書の授業予定範囲から要点を抜き出し、ノートに箇条書きにする。復習は授業で配布した資料と学んだことを確認しながらノートを整理する。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	必要に応じてプリントを配布する		
成 績 評 価 方 法	定期試験（60%）、小テスト（20%）、レポート（20%）の結果を総合して評価する。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	スポーツ心理学	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	1年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	矢野 宏光 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	運動やスポーツにおける心と身体に関連を学ぶことにより、運動技能の修得やパフォーマンスの向上との繋がりを理解する。健康の維持・増進という視点から、スポーツ心理学の活用と人の行動との関連性について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツにおける心理的要因を理解することができる 2. 競技スポーツ現場に必要なメンタルトレーニングについて理解することができる 3. 競技スポーツの指導者として必要な基礎的な知識と技術を修得することができる 4. 健康スポーツの心理的なアプローチを理解することができる 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	スポーツ心理学の目的と役割	
	2	スポーツ行動の心理的メカニズム	
	3	スポーツにおける目標設定の重要性	
	4	スポーツにおける覚醒水準とパフォーマンスの関係	
	5	パフォーマンスに影響する心理的要因	
	6	メンタルトレーニングにおける心理アセスメントの実践	
	7	メンタルトレーニングの心理的技法	
	8	メンタルトレーニングの実践的プログラム	
	9	運動スキルの学習過程	
	10	パフォーマンスとパーソナリティの関連性	
	11	スポーツにおけるリーダーシップとコミュニケーション	
	12	スポーツ選手に対する心理的方法論を用いた指導法	
	13	スポーツ障害に対する心理的要因とその対処	
	14	ストレス理論とスポーツ選手のストレスマネジメント	
15	スポーツカウンセリングの理解		
教 科 書	「本番で差がつく 剣道のメンタル強化法」 矢野宏光著 体育とスポーツ出版社 「剣道 心の鍛え方」 矢野宏光著 体育とスポーツ出版社		
専 前 事 後 の 予 習 復 習	次回に講義テーマについて事前に予習を行い、授業後は授業内容を整理し内容の定着を図るよう復習を行う		
履 修 の 条 件	スポーツ心理学領域に興味・関心があること		
参 考 文 献	適宜、紹介する		
成 績 評 価 方 法	小テスト (40%)、筆記試験 (60%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	随時 (要予約)		

授 業 科 目 名	学校保健論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	山本 和代 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>発育・発達期にある児童・生徒の健康は、その人の生涯の健全な生活・幸福の基本となる。そのため、学校教育のなかで、児童・生徒の心身の発育・発達を促すために、どのような健康教育や健康管理がおこなわれているかについて学修する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健の概念と構造について、法的根拠と結びつけて理解することができる。 2. 公衆衛生における学校保健の役割について、ヘルスプロモーションの視点から説明することができる。 3. 学校における保健管理について、活動の種類や方法・内容等を理解し、学校教育における意義を説明することができる。 4. 学校とコミュニティの連携・協働に関する近年の動向を的確に把握し、連携・協働の意義と課題について考えることができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	学校保健の意義・目的、学校保健の領域・構造、学校保健関係法令	
	2	学校におけるヘルスプロモーション	
	3	児童・生徒の現代的健康課題と学校保健の役割	
	4	学校保健活動① 保健管理：対人管理	
	5	学校保健活動② 保健管理：対物管理	
	6	学校保健活動③ 保健教育と健康教育	
	7	セーフティプロモーションと学校安全管理・危機管理	
	8	学校と地域の連携・協働による学校保健の充実	
教 科 書	「学校保健」出井美智子ほか (少年写真新聞社)		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	<p>予習：次回授業の概要を把握し、疑問点を明確にしておくこと。(1時間)</p> <p>復習：授業内容について、自分の理解度を確認し知識を整理しておくこと。(1時間)</p>		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	<p>「学校保健の動向」日本学校保健会</p> <p>「国民衛生の動向」財団法人 厚生統計協会</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>試験 80%、授業への取り組み (参加意欲・態度、毎回の授業の終わりにリフレクションを行い、次回の授業の始めにフィードバックする。このリフレクションへの対応も最終評価に反映させる) 20%を総合的に評価する。</p> <p>評価の詳細な方法やフィードバックの方法については、授業の初回で説明する。</p>		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業終了後に質問を受けつける。		

授 業 科 目 名	産業保健論	授 業 形 態	講義
単 位 数	1	回 数	8回
履 修 年 次	2年次前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	野村 卓生 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	産業保健の目的と意義, 産業保健活動について概観するとともに, 働く人々の労働と健康の調和をはかり, 働く人々の心身ともに健康で充実した職業生活を支援できる産業保健活動について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論として, 産業保健の仕組みを説明できる。 2. 各論として, 産業保健の中で理学療法士が果たす役割を説明できる。 3. 職場における腰痛発生要因を説明し分析できる。 4. 職場における腰痛予防対策を提案できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	産業保健総論	
	2	産業保健と理学療法	
	3	労働衛生の3管理における理学療法士が果たす役割	
	4	業務上疾病 非特異的腰痛とは	
	5	職場巡視において理学療法士に何ができるのか	
	6	職場における腰痛予防対策	
	7	姿勢・動作分析演習	
	8	障害発生リスク抽出と予防対策提案実習	
教 科 書	相澤好治 監修 『医療機関における産業保健活動ハンドブック』増補新訂 産業医学振興財団		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	前回の授業内容について復習し, 要点をノートにまとめておくこと (1時間程度). 第7・8回は, グループワーク・発表を行うので授業の復習を十分に行っておくこと。		
履 修 の 条 件	新型コロナウイルス感染症の状況によっては, 授業計画や評価方法等を変更する可能性があります。		
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> ① 樋口由美, 浅田史成, 牧迫飛雄馬 編集 『予防と産業の理学療法』 南江堂 ② 森 晃爾 総編集 『産業保健マニュアル』改訂7版 南山堂 ③ 中央労働災害防止協会 編集 『労働衛生のしおり』 ④ 松平 浩 『新しい腰痛対策 Q&A21』 産業医学振興財団 ⑤ 江口泰正, 中田由夫 編集 『職場における身体活動・運動指導の進め方』 大修館書店 		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (マークシート) : 60% 指定教科書, 配布資料より出題 課題レポートの提出 : 20%, 授業中の質問や発言内容ほか授業に対する貢献度 : 20%		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業日以外にもオンラインにて随時受け付け, 授業の際に回答する。		

授 業 科 目 名	企業論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	2年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	濱田 美晴 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>企業は、経営資源を最適化して、活動を行っている。本授業では、企業とは何か、を押さえつつ、情報の本質も理解しながら、情報・通信のインフラストラクチャの発展を通じて、企業活動や職業との関わりについて学ぶ。</p> <p>本講義では、社会的企業についての学び、自らの価値判断と他者との違いを議論や対話を通じて、課題の発見と解決へ取り組む社会的企業の知識を習得する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<p>情報の工学的な意味を理解し、情報通信基盤が情報の保存や共有にどのように関わりを持つかの基本理解が出来ること。企業活動において、情報通信工学応用がどのように企業運営の効率化・安心化に関わっているかの実例を理解し、特定の企業の戦略、社会活動、情報通信応用の将来動向や近未来の課題などについてグループでリサーチ・ディスカッションする。また、理学療法の関連する他分野および一般企業活動の理解が十分出来ること。</p>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	講義の目的、期待する到達度、講義計画、成績評価方法。講師自己紹介。企業の目的と社会的責任。	
	2	情報通信基盤の仮想化。東京駅の事例。ビッグデータ解析事例。	
	3	健康・医療・介護分野の ICT 化推進。「情報」とは。情報の表現方法。	
	4	企業の Value Chain。コンビニ業のセイコマ事例。	
	5	個人企業と法人企業。	
	6	サブスクリプション。収益構造のカラクリ。Microsoft365 の事例	
	7	POS システム。経営指標を ICT が。コンビニの事例。	
	8	RFID チップ応用。ファストファッションビジネスの事例。	
	9	社会的企業の持続可能性を担保する雇用モデル。日本理科学工業の事例。	
	10	DX とは。教育業界におけるビジネスモデル。KADOKAWA グループの事例。	
	11	企業におけるプレゼンの重要性。	
	12	企業リサーチ。企業と地域経済。	
	13	企業リサーチ。企業の e ビジネス、e コマース。	
	14	プレゼンとルーブリックによる評価。	
15	企業における情報活用上の課題。これまでの企業活用事例のまとめ。		
教 科 書	配布資料		
事前事後の予習復習	予習はシラバスを確認し、関連課題の基礎事項を自習しておく。復習は配布資料と講義内容の要点の整理をする。		
履 修 の 条 件	特になし。		
参 考 文 献	講義時間内に適宜 紹介する。		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (60%)、講義ノートの提出 (20%)、グループワークの成果物 (20%)。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義内に適宜通知する。		

授 業 科 目 名	データ分析論	授 業 形 態	講義(演習を伴う)
単 位 数	2	回 数	15
履 修 年 次	2年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	竹島 卓		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	ICT を基軸とした情報化社会において、コンピュータを用いたデータ分析は欠かせない分野である。こうしたデータ分析は、情報化の進展により、増々その重要性を増しており、多くの研究分野のみならず、ビジネスや行政においても幅広く応用されている。そこで、本授業では、企業経営・マネジメントにおける意思決定や問題解決に活用されているデータ分析について学ぶ。また、健康・保健分野に関する官庁統計データや調査報告等の分析・解釈を実際に行うことを通じて、実践的に活用できるよう学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データ分析の目的・対象について説明ができる。 2. 数値および非数値データの主要な分析方法について説明ができる。 3. 自ら目的を設定し、PCソフトを使用して分析した結果を解釈説明できる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業の概要説明。データ処理技術としての統計、表現技術としての統計。	
	2	統計でデータを物語る①。素材を集める。	
	3	統計でデータを物語る②。プランニング、分析、考察、レポート。	
	4	記述統計を学ぶ①。代表値、ヒストグラム、標準偏差、相関、回帰式。	
	5	記述統計を学ぶ②。表やグラフで要約。ばらつき的大小さ・格差の指標。	
	6	推測統計を学ぶ①。母集団を推定する。標本調査と検定。	
	7	推測統計を学ぶ②。確率の考え方。場合の数、期待値、確率分布。	
	8	推測統計を学ぶ③。一部から全体を推定する。仮説検定。	
	9	推測統計を学ぶ④。データから関係を探る。回帰分析。	
	10	医療統計を学ぶ①。種類・具体的調査事例、統計的研究事例を知る。グループワークとする。	
	11	医療統計を学ぶ②。テーマを決めて調査を実施しデータを収集。グループワークとする。	
	12	医療統計を学ぶ③。収集したデータを分析する。グループワークとする。	
	13	医療統計を学ぶ④。分析結果に考察を加えてレポートする。グループワークとする。	
	14	KJ法1:「データをして語らしむ」方法論について学ぶ。授業回は未定。	
15	KJ法2:「データをして語らしむ」実践と発表および講評。授業回は未定。		
教 科 書	活用事例でわかる 統計リテラシー, noa 出版, 2014, ISBN978-4-9905148-8-4.		
事前事後の予習復習	予習:教科書の該当ページを通読しておく。指示により事前の資料準備をする。 復習:教科書節末の練習問題に取り組み、指示によりレポートを提出する。		
履 修 の 条 件	PC/Windows/Office ソフトの技能を習得していることを前提とし授業を進める。		
参 考 文 献	有田清三郎、医療のための統計学—データ解析の基礎と応用—、医歯薬出版株式会社、1992.		
成 績 評 価 方 法	レポート50%、試験50%。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	当授業終了後の直近にある教員の授業空時限に教員居室またはPC室にて実施する。		

授業科目名	経営組織論	授業形態	講義
単位数	2	回数	15回
履修年次	3年前期	必修・選択	必修
科目担当者	坂本 泰祥(兼任)		
授業の概要・目的	人は企業組織において仕事を分担し、協働を行っている。その協働をうまく行わせるためには、管理が必要となる。そこで、本講義ではその管理の具体的方法について理解することを目的とする。管理の方法には「仕事をさせる」という強制的な管理方法と「仕事をやる気にさせる」という配慮型の管理方法がある。その管理の具体的方法についても学修する。		
授業の到達目標	1. 管理方法の歴史的展開を説明できるようになる。 2. そして、実社会での組織を管理の点で理解できるようになる。		
授業計画	回	内容	
	1	ガイダンス 以降の講義の理解を容易にするために、本回は、理解する上でのポイントやキー概念について説明する。	
	2	管理方法の原則の理解 組織論には様々な理論があるが、大別すると、「仕事をさせる」という観点の管理方法と「仕事をやる気にさせる、任せる」という観点の管理方法があることを演習課題を通して理解する。さらに、演習課題を通して何れの管理方法も人間観、つまり部下をどのような人間と見なすかによって管理方法が決定することを理解する。	
	3	「仕事をさせる」という観点の具体的な管理方法の理解 前回で管理方法には大別すると、「仕事をさせる」そして「仕事をやる気にさせる、任せる」という発想の管理方法があることを理解した。 そこで、本回では「仕事をさせる」という発想の管理方法の根源は規則によって人を管理することにあることを演習課題を通して理解する。	
	4	「仕事をさせる」という観点の管理方法の例1 「仕事をさせる」という観点の管理方法の具体例として、まず官僚制組織について理解する。つまり、官僚制組織ではどのような人間観の下どのような規則を用いて人を管理しているかを理解する。	
	5	「仕事をさせる」という観点の管理方法の例2 「仕事をさせる」という観点の管理方法の具体例として、次に古典的管理原則や機械的組織について理解する。つまり、機械的組織ではどのような人間観の下どのような規則を用いて人を管理しているかを理解する。	
	6	「仕事をさせる」という観点の管理方法の例3 「仕事をさせる」という観点の管理方法の具体例として、最後にテーラーの科学的管理法について理解する。つまり、テーラーの科学的管理法ではどのような人間観の下どのような規則を用いて人を管理しているかを理解する。	
	7	「仕事をやる気にさせる」管理法の例1 「させる」から一転「その気にさせる」への転換となったホーソン実験について学習する。	
	8	「仕事をやる気にさせる」管理法の例2 ホーソン実験の結果を受け新たに提唱された人間関係論と呼ばれる管理方法について理解する。つまり、そこでの人間観とその管理の仕方との間の因果関係を理解する。	
	9	「仕事をやる気にさせる、任せる」管理法の例3 管理方法の大きな転換となった人間関係論について学習する。ここでは、その人間観がどのように変化し、それに伴って管理の仕方も変化したことを理解することがポイントになる。それらを演習課題を通して理解する。	
	10	「仕事をやる気にさせる、任せる」管理法の例4 この発想の管理論の新たな展開の理論的拠り所となったマズローの5段階欲求説についてその意義を理解する。つまり、マズローの5段階欲求説によって、新たな人間観がもたらされたことを理解する。	
	11	「仕事をやる気にさせる、任せる」管理法の例5 前回学んだ新たな人間観に基づいて展開された新たな管理方法として新人間関係論について理解する。マクレーガーのXY理論やハーズバーグの衛生理論等について理解する。	
	12	「仕事をやる気にさせる、任せる」管理法の例6 個人の動機付けという観点から新人間関係論の一部として期待理論について理解する。ここで、一度前半の理解内容を確認するために講義内容を纏めた演習問題を行う。これにより、何を理解していれば良いのかを明確にする。その演習後は、新たな視点の管理論として、リカーットの集団主義について学習する。また、集団に関連してリーダーシップ論についても学ぶ。	
	13	近代組織論 前回までの組織論とは、全く異なる人間観に基づいた理論であり、以後の経営学の展開に大きな影響を与えた近代組織論について学習する。具体的には、組織均衡論、意思決定原理そして満足化原理等について学ぶ。	
	14	組織形態 実際の組織の形態の変化、職能性組織、事業部制組織、一部事業部制組織、カンパニー制組織そしてマトリックス組織等の変遷を理解する。	
15	コンティンジェンシー理論 前回までに色々な組織について学習した。今回は、それらのまとめとして普遍的に優れた組織は存在するのかという点について学ぶ。		
教科書	特になし。講義資料を配布する。		
事前事後の予習復習	演習課題に取り組むことによって講義を理解できるように組み立てている。そのため、演習課題の解説をよく聞きその復習を中心に取組むこと。		
履修の条件	特になし。		
参考文献	講義中に例示する。		
成績評価方法	日頃の努力(講義中に取り組む演習課題30~40%)と講義の理解度(最終レポート60~70%)を総合評価する。		
オフィスアワー	授業終了後		

授 業 科 目 名	マーケティング論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	前田 和範 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	マーケティングとはどのようなもので、なぜ企業活動に必要なのかを、実際の事例を取り上げながら、マーケティングの基本的な考え方や枠組みについて学ぶと同時に、環境の変化に対して応用できる知識について学ぶ。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングとは何かを理解でき、自分の言葉で説明できるようになる。 2. マーケティング戦略の理論を用い、事象を分析することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	マーケティング発想の経営	
	2	マーケティング論の成り立ち	
	3	マーケティングの基本概念	
	4	製品のマネジメント	
	5	価格のマネジメント	
	6	広告のマネジメント	
	7	チャネルのマネジメント	
	8	サプライチェーンのマネジメント	
	9	営業のマネジメント	
	10	顧客関係のマネジメント	
	11	ビジネスモデルのマネジメント	
	12	顧客理解のマネジメント	
	13	ブランド構築のマネジメント	
	14	ブランド組織のマネジメント	
15	社会責任のマネジメント		
教 科 書	石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1からのマーケティング<第4版>』碩学舎, 2020.		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	各講義の後に予習復習のため、テキスト以外にケース (事例) を配布する。毎回の講義で理解度確認に用いるため、熟読して講義に臨むこと。		
履 修 の 条 件			
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	小レポート2回 (40%) と期末テスト (60%) によって評価する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業前後 メールアドレス : maeda.kazunori@kochi-tech.ac.jp		

授 業 科 目 名	会計学総論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年前期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	宮崎 康平 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	財務会計の基礎として、企業会計の原理・原則（構造とメカニズム）について理解する。そして、財務諸表の仕組みについて、構成要素別に整理する。		
授 業 の 到 達 目 標	日本商工会議所主催 簿記検定 3 級出題範囲程度の簿記会計を理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	概略、簿記の基礎	
	2	商品売買の会計処理	
	3	現金・預金の会計処理	
	4	手形等の会計処理	
	5	有形固定資産の会計処理	
	6	その他資産・負債等の会計処理	
	7	帳簿の記入	
	8	計算表の作成	
	9	伝票と仕訳日記帳の作成	
	10	決算手続①	
	11	決算手続②	
	12	決算手続③	
	13	その他参考事項、総復習	
	14	総合問題 練習①	
15	総合問題 練習②		
教 科 書	滝澤ななみ著「簿記の教科書 日商簿記 3 級」最新版 TAC 出版 8 ケタ以上の電卓		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習…特に必要なし 復習…テキスト参照・基本問題を解く、不明点をテキストで再確認		
履 修 の 条 件			
参 考 文 献			
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業終了後		

授 業 科 目 名	経営管理論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	上村 浩 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	我々の生きている産業社会においては、企業が重要な役割を果たしている。経済活動の中心的な担い手は企業であり、その活動と成果がわれわれの生活を豊かにしている。企業の内部で行われている様々な活動を有機的にとらえながら、社会のニーズにマッチした価値が創造される仕組みや組織の活動、その主体の人間の諸活動について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織管理の基本とその特性を理解することができる。 2. 人材管理の基本とその特性を理解することができる。 3. 業務プロセス管理の基本とその特性を理解することができる。 4. 会計・財務管理の基本とその特性を理解することができる。 5. リスク管理の基本とその特性を理解することができる。 		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	経営管理の基礎 ① 経営管理に必要な知識と技術	
	2	経営管理の基礎 ② ヘルスケア・サービスにおける経営管理	
	3	ヘルスケア・サービスの特性と顧客及びサービスの構造	
	4	組織管理の基本的理解	
	5	組織管理の実務と課題	
	6	人材管理の基本的理解	
	7	人材管理の実務と課題	
	8	業務プロセス管理の基本的理解	
	9	業務プロセス管理の実務と課題	
	10	会計の基本的理解	
	11	会計管理の実務	
	12	資金管理の基本的理解	
	13	資金管理の実務と課題	
	14	リスク管理の基本的理解	
15	リスク管理の実務と課題		
教 科 書	黒川清 尾形裕也 監修 KPMG ヘルスケアジャパン 編集『医療経営の基本と実務 下巻 [管理編]』2006年 日経メディカル開発 *ただし、テキストの扱いについては、第1回の講義で説明するため、第1回までに購入する必要はない。		
事前事後の予習復習	予習はシラバスの確認とテキスト及び配布資料を読んでおく。復習は講義資料、板書、並びに配布資料を参照の上、要点をまとめておく。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	中島明彦『ヘルスケア・マネジメント 第二版』2009年 同友館		
成 績 評 価 方 法	定期試験 (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義終了後		

授 業 科 目 名	起業論	授 業 形 態	講義
単 位 数	2	回 数	15回
履 修 年 次	3年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	物部 真一郎 (兼任)		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	<p>起業とは、社内起業（新規事業）、社外起業（ベンチャーなど）、社会的起業（NPO活動など）と多岐にわたるものであり、事業立案・戦略策定・運営と、マネジメント知識が必要である。本授業では、起業に関する基礎的事項を理解すると同時に、日常の諸課題を解決するために必要な応用力を身に付ける。</p>		
授 業 の 到 達 目 標	<p>課題や技術をみつけた時に、起業という選択肢をとれるようにする。</p>		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	起業とは	
	2	起業のプロセス①	
	3	起業のプロセス②	
	4	高知県内の起業家が、起業経験を語る①（ゲストスピーカー）	
	5	起業のプロセス③	
	6	起業のプロセス④	
	7	起業のプロセス⑤	
	8	高知県内の起業家が、起業経験を語る②（ゲストスピーカー）	
	9	ファイナンスアカウンティング	
	10	マーケティング	
	11	組織行動	
	12	高知県の起業支援がどの様なものがあるのか知る（ゲストスピーカー）	
	13	発表：起業案や事業分析について学生による発表を行う	
	14	発表：起業案や事業分析について学生による発表を行う	
15	まとめ		
教 科 書	追って指定する		
事前事後の予習復習	指定する文献を、事前に読んでおくこと		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	追って指定する		
成 績 評 価 方 法	授業中の発言（50%）、発表（50%）		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業の前後（事前予約制）		

授 業 科 目 名	理学療法地域支援実習	授 業 形 態	実習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	必修
科 目 担 当 者	小嶋 裕、大倉 三洋、山崎 裕司、田頭 勝之、宮川 哲夫、濱田 和範、岩崎 洋、片山 訓博、重島 晃史、稲岡 忠勝、明崎 禎輝、清岡 学、宮崎登美子、柏 智之		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	地域コミュニティは、人間性を回復して、自律型の地域社会をつくる基盤であり、地域包括ケアシステムにおいて、この地域コミュニティは重要な位置づけとなっている。高齢者や障害者・障害児が住み慣れた地域で望む生活ができるように援助するためには、地域社会の状況を知ることが基本である。様々な地域に向いて住民との交流を行うとともに、支援サービスの実際について見学し、地域連携に繋がる基本的知識を学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 地域住民と交流することができる。 2. 地域における支援サービスの実際を知ることができる。 3. 地域連携について理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、地域支援事業などの概要	
	2	地域における支援サービスに関する調査① 準備	
	3	地域における支援サービスに関する調査② 準備	
	4	支援サービス体験①	
	5	支援サービス体験②	
	6	支援サービス体験③	
	7	支援サービス体験④	
	8	支援サービス体験⑤	
	9	支援サービス体験⑥	
	10	支援サービス体験⑦	
	11	支援サービス体験⑧	
	12	調査・体験のまとめ①	
	13	調査・体験のまとめ②	
	14	発表①	
15	発表②		
教 科 書	配付資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認と配付資料を読んでおく。復習は、配付資料と実習内容を振り返り、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	3年次までの支援サービスに関する授業科目のテキスト・配付資料など		
成 績 評 価 方 法	授業態度（各授業後の実施記録）、調査計画、プレゼンテーションにより総合的に判断する。		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業1回目のガイダンスで説明する。		

授業科目名	応用理学療法学演習	授業形態	演習	
単位数	2	回数	30回	
履修年次	4年後期	必修・選択	必修	
科目担当者	山崎 裕司、田頭 勝之、宮川 哲夫、濱田 和範、岩崎 洋、片山 訓博、重島 晃史、 稲岡 忠勝、明崎 禎輝、清岡 学、宮崎登美子、柏 智之			
授業の概要・目的	理学療法の対象となる身体障害・発達障害・老年期障害・地域などの領域について、疾患・障害の状態の理解から、評価・計画立案、実施の際の留意点に至るまで、一連の流れについて、基本的事項から事例検討までを学修する。			
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の対象となる疾患と障害の状態が理解できる。 2. 理学療法の対象となる疾患と障害に対する評価・計画立案が理解できる。 3. 理学療法の対象となる疾患と障害に対する治療・援助が理解できる。 4. 理学療法を実施する際の留意点が理解できる。 			
授業計画	回	内容		
	1	身体障害① 脳血管障害		
	2	身体障害② 脳血管障害		
	3	身体障害③ 脳血管障害		
	4	身体障害④ 脳血管障害		
	5	身体障害⑤ 神経変性・筋障害		
	6	身体障害⑥ 神経変性・筋障害		
	7	身体障害⑦ 神経変性・筋障害		
	8	身体障害⑧ 内部障害		
	9	身体障害⑨ 内部障害		
	10	身体障害⑩ 内部障害		
	11	身体障害⑪ 内部障害		
	12	身体障害⑫ 脊髄障害		
	13	身体障害⑬ 脊髄障害		
	14	身体障害⑭ 運動器障害		
	15	身体障害⑮ 運動器障害		
	16	身体障害⑯ 運動器障害		
	17	身体障害⑰ 運動器障害		
	18	運動発達障害① 中枢神経障害		
	19	運動発達障害② 中枢神経障害		
	20	運動発達障害③ 神経変性・筋障害		
	21	運動発達障害④ 神経変性・筋障害		
	22	運動発達障害⑤ 精神機能の障害		
	授業計画	23	老年期障害① 老年症候群	
		24	老年期障害② 老年症候群	
25		老年期障害③ 廃用症候群		
26		老年期障害④ 認知症		
27		老年期障害⑤ 認知症		
28		地域① 高齢者		
29		地域② 高齢者		
30		地域③ 障害者		
教科書	臨床医学科目・理学療法専門科目のテキスト、配布資料			
事前事後の予習復習	予習はシラバスを確認して、該当する内容について読んでおくこと。復習は、授業内容の要点をまとめておくこと。			
履修の条件	特になし			
参考文献	国家試験対策用の関連書籍			
成績評価方法	定期試験(100%)			
オフィスアワー	授業1回目のガイダンスで説明する。			

授 業 科 目 名	理学療法総合演習 I	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15 回
履 修 年 次	4 年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	大倉 三洋、片山 訓博、清岡 学		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	将来理学療法士になる者として、高齢者・障害者の地域生活支援は必要不可欠な支援技術である。学修の総まとめとして、老年期地域健康増進活動における理学療法の立場からみた支援の実際について学修する。健康増進事業施設の見学、身体能力測定の見学などを通して、高齢者の生活不活発病の背景や、チームアプローチによる解決手法を知り、理学療法士として必要であるアセスメント能力と、生活の場における課題解決の視点と技法について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 老年期地域健康増進活動における理学療法士としてのアセスメント能力について理解することができる。 2. 地域生活の場における課題解決の視点と技法について理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、老年期地域健康増進活動におけるサービス	
	2	健康増進事業施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査① 準備	
	3	健康増進事業施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査② 準備	
	4	健康増進事業施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査③ 実施	
	5	健康増進事業施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査④ 実施	
	6	健康増進事業施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査⑤ 実施	
	7	生活の場における課題の整理①	
	8	生活の場における課題の整理②	
	9	生活の場における課題の整理③	
	10	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討①	
	11	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討②	
	12	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討③	
	13	事例に対する具体的な支援方法の検討①	
	14	事例に対する具体的な支援方法の検討②	
15	事例に対する具体的な支援方法の検討③		
教 科 書	ヘルスプロモーション演習・老年期障害理学療法技法のテキスト、配付資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認と配付資料、テキストの関連内容部分を読んでおく。復習は、配付資料と授業内容を振り返り、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	地域リハビリテーション関連著書		
成 績 評 価 方 法	レポート (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業1回目のガイダンスで説明する。		

授 業 科 目 名	理学療法総合演習Ⅱ	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	小嶋 裕、田頭 勝之、片山 訓博、稲岡 忠勝		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	将来理学療法士になる者として、高齢者・障害者の地域生活支援は必要不可欠な支援技術である。学修の総まとめとして、地域包括ケアシステムにおける理学療法の立場からみた支援の実際について学修する。介護予防事業施設の見学、地域ケア会議の見学などを通して、高齢者の生活不活発病の背景や、チームアプローチによる解決手法を知り、理学療法士として必要であるアセスメント能力と、生活の場における課題解決の視点と技法について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 地域包括ケアシステムにおける理学療法士としてのアセスメント能力について理解することができる。 2. 地域生活の場における課題解決の視点と技法について理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、地域包括ケアシステムにおけるサービス	
	2	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査① 準備	
	3	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査② 準備	
	4	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査③ 実施	
	5	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査④ 実施	
	6	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査⑤ 実施	
	7	生活の場における課題の整理①	
	8	生活の場における課題の整理②	
	9	生活の場における課題の整理③	
	10	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討①	
	11	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討②	
	12	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討③	
	13	事例に対する具体的な支援方法の検討①	
	14	事例に対する具体的な支援方法の検討②	
15	事例に対する具体的な支援方法の検討③		
教 科 書	配付資料		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認と配付資料、テキストの関連内容部分を読んでおく。復習は、配付資料と授業内容を振り返り、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	地域リハビリテーションの関連著書		
成 績 評 価 方 法	レポート (100%)		
オ フ ィ ス ア ワ ー	授業1回目のガイダンスで説明する。		

授 業 科 目 名	理学療法総合演習Ⅲ	授 業 形 態	演習
単 位 数	1	回 数	15回
履 修 年 次	4年後期	必 修 ・ 選 択	選択
科 目 担 当 者	小嶋 裕、重島 晃史		
授 業 の 概 要 ・ 目 的	将来理学療法士になる者として、障害児の成長に合わせた学習支援や生活支援は必要不可欠な支援技術である。学修の総まとめとして、療育の現場における理学療法の立場からみた支援の実際について学修する。児童発達支援事業施設の見学、放課後等デイサービスの見学や利用者との関わりを通じて、発達障害のある児童への支援の実際を知るとともに、理学療法士として必要であるアセスメント能力と、療育の場における課題解決の視点と技法について学修する。		
授 業 の 到 達 目 標	1. 療育の現場における理学療法士としてのアセスメント能力について理解することができる。 2. 地域生活の場における課題解決の視点と技法について理解することができる。		
授 業 計 画	回	内 容	
	1	授業ガイダンス、児童発達支援におけるサービス	
	2	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査① 準備	
	3	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査② 準備	
	4	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査③ 実施	
	5	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査④ 実施	
	6	通所施設サービス利用者を対象とした生活課題の調査⑤ 実施	
	7	生活の場における課題の整理①	
	8	生活の場における課題の整理②	
	9	生活の場における課題の整理③	
	10	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討①	
	11	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討②	
	12	生活の場における課題の解決に向けた支援方法の検討③	
	13	事例に対する具体的な支援方法の検討①	
	14	事例に対する具体的な支援方法の検討②	
15	事例に対する具体的な支援方法の検討③		
教 科 書	配付資料、発達障害理学療法技法のテキスト		
事 前 事 後 の 予 習 復 習	予習は、シラバスの確認と配付資料、テキストの関連内容部分を読んでおく。復習は、配付資料と授業内容を振り返り、要点をまとめる。		
履 修 の 条 件	特になし		
参 考 文 献	地域リハビリテーションの関連著書		
成 績 評 価 方 法	レポート (100%)		
オ フ ィ ス ア ウ ー	授業1回目のガイダンスで説明する。		